

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ 設置者		ガッコウホウジンナカムラサンギョウガクエン 学校法人中村産業学園								
フリガナ 大学の名称		キュウシュウサンギョウダイガク 九州産業大学								
大学本部の位置		福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号								
大学の目的		九州産業大学は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し学術の理論及び応用を研究、教授すべく、建学の理想を「産学一如」と定め、この建学の理想のもとに、建学の理念として「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」を掲げている。この建学の理想と理念のもと、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身共に健全な国際的教養人を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		本学は、全学挙げての「教育改革」に取組み、平成28（2016）年に芸術学部の再編を行った。その結果、再編前と比べて芸術学部全体の志願者総数は大きく増加したが、一部の学科においては入学定員の確保が厳しい状況が見受けられる。一方、再編当初から多くの志願者を集めている学科も見受けられることから、近年の入試状況や社会的動向等も踏まえ、芸術学部全体における定員の適正化を図るため、収容定員の変更を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及 び開設年次	所在地	
	芸術学部	年	人	年次 人	人			年 月 第 年次		
	芸術表現学科	4	70 (65)	—	280 (260)	学士 (芸術)	美術関係	令和7年4月 第1年次	福岡県福岡市東 区松香台二丁目 3番1号	
	写真・映像メディア学科	4	55 (50)	—	220 (200)	学士 (芸術)	美術関係	令和7年4月 第1年次	同 上	
	生活環境デザイン学科	4	55 (70)	—	220 (280)	学士 (芸術)	美術関係	令和7年4月 第1年次	同 上	
	ソーシャルデザイン学科	4	45 (40)	—	180 (160)	学士 (芸術)	美術関係	令和7年4月 第1年次	同 上	
計		—	—	—	—					
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		該当なし								
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
		科目	科目	科目	科目	単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の 教員 (助手を除く)	大学設置基準別表第一 に定める基幹教員数 の四分の三の数 6人	
		教授	准教授	講師	助教	計				
新 設 分	芸術学部 芸術表現学科	人 5 (5)	人 2 (2)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 9 (9)	人 2 (2)	人 251 (251)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)					

新 設 分	芸術学部 写真・映像メディア学科		5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	251 (251)	大学設置基準別表第一 に定める基幹教員数 の四分の三の数 5人		
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)					
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）		5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)					
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）		5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)					
	芸術学部 生活環境デザイン学科		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)				3 (3)	251 (251)
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)					
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)					
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)					
芸術学部 ソーシャルデザイン学科		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	251 (251)				
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)						
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)						
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)						
計		17 (17)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	30 (30)			7 (7)	— (—)		
既 設 分	経済学部 経済学科		17 (17)	7 (7)	8 (8)	1 (1)			33 (33)	0 (0)	170 (170)	大学設置基準別表第一 に定める基幹教員数 の四分の三の数 15人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	17 (17)	7 (7)	8 (8)	1 (1)			33 (33)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)			
	小計（a～b）		17 (17)	7 (7)	8 (8)	1 (1)			33 (33)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)			
	計（a～d）		17 (17)	7 (7)	8 (8)	1 (1)	33 (33)					

既 設 <

既 設 <

既 設 <

既 設 <

既 設 <

既 設 分	美術館	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 一人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	基礎教育科目	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 一人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)			
	伝統みらい研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 一人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	その他	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 一人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	計	160 (159)	78 (78)	64 (64)	9 (9)	311 (310)	20 (20)	— (—)	
合 計		177 (176)	87 (87)	68 (68)	9 (9)	341 (340)	27 (27)	— (—)	

職 種		専 属		その他		計				
事 務 職 員		179 (179)		128 (128)		307 (307)				
技 術 職 員		1 (1)		9 (9)		10 (10)				
図 書 館 職 員		5 (5)		10 (10)		15 (15)				
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		185 (185)		147 (147)		332 (332)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	0.00㎡	381,349.33㎡	2,098.00㎡		383,447.33㎡				
	そ の 他	0.00㎡	39,807.85㎡	0.00㎡		39,807.85㎡				
	合 計	0.00㎡	421,157.18㎡	2,098.00㎡		423,255.18㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		176,634.78㎡ (176,634.78㎡)	1,633.00㎡ (1,633.00㎡)	4,618.64㎡ (4,618.64㎡)		182,886.42㎡ (182,886.42㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	室	教 員 研 究 室	室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	電子図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕種	機械・器具 点	標本 点			
		〔 〕	〔 〕	〔 〕	〔 〕	〔 〕	〔 〕			
		(〔 〕)	(〔 〕)	(〔 〕)	(〔 〕)	(〔 〕)	(〔 〕)			
	計	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				
		㎡		㎡		㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	－千円	－千円	
		共同研究費等	経済学部		19,800千円	19,800千円	19,800千円	19,800千円	－千円	－千円
			商学部		35,800千円	35,800千円	35,800千円	35,800千円	－千円	－千円
			地域共創学部		23,900千円	23,900千円	23,900千円	23,900千円	－千円	－千円
			理工学部		67,600千円	67,600千円	67,600千円	67,600千円	－千円	－千円
			生命科学部		19,900千円	19,900千円	19,900千円	19,900千円	－千円	－千円
			建築都市工学部		50,200千円	50,200千円	50,200千円	50,200千円	－千円	－千円
			芸術学部		79,000千円	79,000千円	79,000千円	79,000千円	－千円	－千円
			国際文化学部		14,800千円	14,800千円	14,800千円	14,800千円	－千円	－千円
			人間科学部		27,800千円	27,800千円	27,800千円	27,800千円	－千円	－千円
		図書購入費	経済学部	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	－千円	－千円
			商学部	6,900千円	6,900千円	6,900千円	6,900千円	6,900千円	－千円	－千円
			地域共創学部	4,300千円	4,300千円	4,300千円	4,300千円	4,300千円	－千円	－千円
			理工学部	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	－千円	－千円
			生命科学部	1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	－千円	－千円
			建築都市工学部	2,900千円	2,900千円	2,900千円	2,900千円	2,900千円	－千円	－千円
			芸術学部	4,600千円	4,600千円	4,600千円	4,600千円	4,600千円	－千円	－千円
			国際文化学部	3,200千円	3,200千円	3,200千円	3,200千円	3,200千円	－千円	－千円
			人間科学部	3,600千円	3,600千円	3,600千円	3,600千円	3,600千円	－千円	－千円

九州産業大学
造形短期大学部
(必要面積
3,000㎡)と共
用

九州産業大学
造形短期大学部
(必要面積
3,000㎡)と共
用

図書費には、電子
ジャーナル・デー
タベースの設備費
(運用コスト含
む)を含む。

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	設備購入費	経済学部	2,568千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	－千円	－千円
			商学部	1,850千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円
			地域共創学部	1,592千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円
			理工学部	92,202千円	16,300千円	16,300千円	16,300千円	16,300千円	－千円	－千円
			生命科学部	10,504千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	－千円	－千円
			建築都市工学部	13,295千円	12,000千円	12,000千円	12,000千円	12,000千円	－千円	－千円
			芸術学部	207,200千円	23,200千円	23,200千円	23,200千円	23,200千円	－千円	－千円
			国際文化学部	1,537千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円
			人間科学部	10,773千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円	－千円	－千円
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		経済学部	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円		
		商学部	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円		
		地域共創学部	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円		
		理工学部	1,570千円	1,370千円	1,370千円	1,370千円	－千円	－千円		
		生命科学部	1,590千円	1,390千円	1,390千円	1,390千円	－千円	－千円		
		建築都市工学部	1,550千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	－千円	－千円		
		芸術学部	1,620千円	1,420千円	1,420千円	1,420千円	－千円	－千円		
		国際文化学部	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円		
		人間科学部 臨床心理学科	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円		
		人間科学部 子ども教育学科	1,240千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	－千円	－千円		
		人間科学部 スポーツ健康科学科	1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	－千円	－千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入、寄付金 等						

	大 学 等 の 名 称	九州産業大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	経済学部 経済学科	4	400	—	1,600	学士（経済学）	1.02 1.02	平成5年度	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番 1号	※平成30年度より 昼間主コース、 夜間主コースの 区分廃止
	経済学科 （夜間主コース）	4	—	—	—	学士（経済学）	—	平成5年度	同 上	※平成30年度より 学生募集停止 （夜間主コース）
	商学部 経営・流通学科	4	470	—	1,970	学士（商学）	1.07 1.07	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員減 （30人）
	地域共創学部 観光学科	4	150	—	600	学士（観光学）	1.00 0.98	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員増 （10人）
	地域づくり学科	4	140	—	530	学士（地域学）	1.03	平成30年度	同 上	
	商学部第一部 商学科	4	—	—	—	学士（商学）	—	昭和35年度	同 上	※平成30年度より 学生募集停止 （商学科）
	経営学部 国際経営学科	4	—	—	—	学士（経営学）	—	昭和56年度	同 上	※平成30年度より 学生募集停止 （国際経営学科）
	産業経営学科	4	—	—	—	学士（経営学）	—	昭和43年度	同 上	※平成30年度より 学生募集停止 （産業経営学科）
	理工学部 情報科学科	4	140	—	560	学士（情報科学）	0.93 1.07	平成29年度	同 上	同 上
	機械工学科	4	130	—	520	学士（工学）	0.81	平成29年度	同 上	
	電気工学科	4	100	—	400	学士（工学）	0.87	平成29年度	同 上	
	生命科学部 生命科学科	4	110	—	440	学士（工学）	0.92 0.92	平成29年度	同 上	同 上
	建築都市工学部 建築学科	4	75	—	300	学士（工学）	0.98 1.01	平成29年度	同 上	
	住居・インテリア学科	4	65	—	260	学士（工学）	0.98	平成29年度	同 上	
	都市デザイン工学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.92	平成29年度	同 上	
	芸術学部 芸術表現学科	4	65	—	260	学士（芸術）	1.10 1.22	平成28年度	同 上	同 上
	写真・映像メディア学科	4	50	—	200	学士（芸術）	1.20	平成28年度	同 上	
	ビジュアルデザイン学科	4	75	—	300	学士（芸術）	1.16	平成28年度	同 上	
	生活環境デザイン学科	4	70	—	280	学士（芸術）	0.83	平成28年度	同 上	
	ソーシャルデザイン学科	4	40	—	160	学士（芸術）	1.18	平成28年度	同 上	同 上
	国際文化学部 国際文化学科	4	80	—	320	学士（国際文化）	1.05 1.08	平成6年度	同 上	
	日本文化学科	4	60	—	240	学士（国際文化）	1.01	平成6年度	同 上	
	人間科学部 臨床心理学科	4	70	—	280	学士（人間科学）	1.05 1.08	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員増 （20人）
	子ども教育学科	4	80	—	320	学士（人間科学）	1.01	平成30年度	同 上	
	スポーツ健康科学科	4	100	—	340	学士（人間科学）	1.06	平成30年度	同 上	

既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	九州産業大学 大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	経済・ビジネス研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士（経済学） 修士（地域学）	0.64	平成21年度	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番 1号
	現代ビジネス専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士（商学） 修士（経営学）	0.27	平成21年度	同 上
	経済・ビジネス専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士（経済学） 博士（商学） 博士（経営学）	0.46	平成21年度	同 上
	工学研究科 産業技術デザイン専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士（工学）	0.44	平成23年度	同 上
	産業技術デザイン専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士（工学）	0.25	平成23年度	同 上
	芸術研究科 造形表現専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士（芸術）	1.82	平成24年度	同 上
	造形表現専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士（芸術）	0.72	平成11年度	同 上
	国際文化研究科 国際文化専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士（文学）	1.10	平成10年度	同 上
	国際文化専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士（文学）	0.80	平成10年度	同 上
大 学 等 の 名 称	情報科学研究科 情報科学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士（情報科学）	0.30	平成16年度	同 上
	情報科学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士（情報科学）	0.00	平成16年度	同 上
	大 学 等 の 名 称	九州産業大学造形短期大学部							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
	造形芸術学科	2	150	—	300	短期大学士（芸術）	1.01	平成19年度	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番 1号
附属施設の概要		名 称 ： 大楠アリーナ2020 目 的 ： 講義（実技、実験・実習）及びサークル活動での使用 所 在 地 ： 福岡県福岡市松香台二丁目3番1号（大学敷地内） 設置年月 ： 2020年3月 規 模 等 ： 土地 6,516.39㎡、建物 16,234.38㎡							

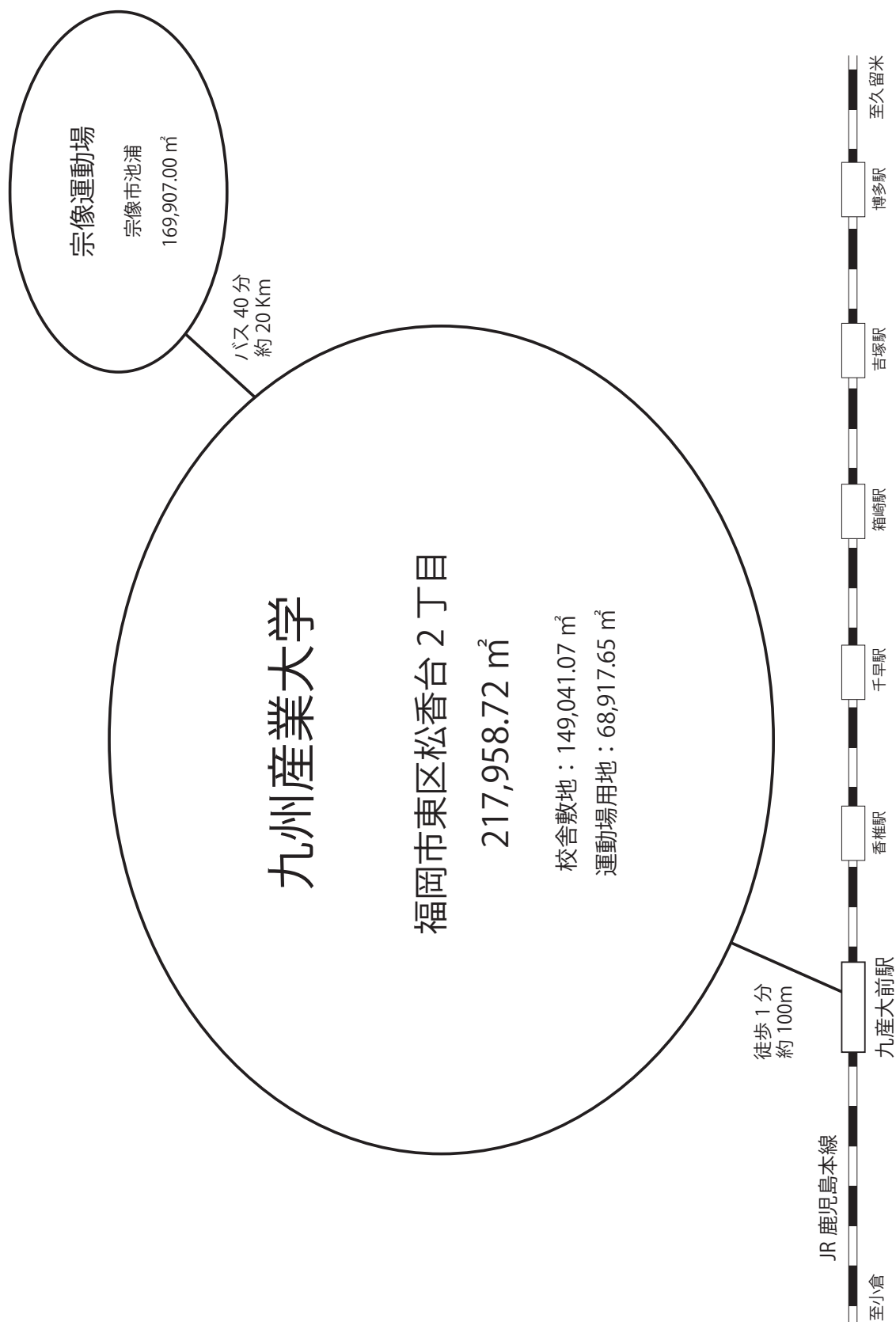
学校法人中村産業学園 収容定員変更に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州産業大学				九州産業大学				
経済学部				経済学部				
経済学科	400	-	1,600	経済学科	400	-	1,600	
商学部				商学部				
経営・流通学科	470	-	1,880	経営・流通学科	470	-	1,880	
地域共創学部				地域共創学部				
観光学科	150	-	600	観光学科	150	-	600	
地域づくり学科	140	-	560	地域づくり学科	140	-	560	
理工学部				理工学部				
情報科学科	140	-	560	情報科学科	140	-	560	
機械工学科	130	-	520	機械工学科	130	-	520	
電気工学科	100	-	400	電気工学科	100	-	400	
生命科学部				生命科学部				
生命科学科	110	-	440	生命科学科	110	-	440	
建築都市工学部				建築都市工学部				
建築学科	75	-	300	建築学科	75	-	300	
住居・インテリア学科	65	-	260	住居・インテリア学科	65	-	260	
都市デザイン工学科	60	-	240	都市デザイン工学科	60	-	240	
芸術学部				芸術学部				
芸術表現学科	65	-	260	芸術表現学科	70	-	280	定員変更 (5)
写真・映像メディア学科	50	-	200	写真・映像メディア学科	55	-	220	定員変更 (5)
ビジュアルデザイン学科	75	-	300	ビジュアルデザイン学科	75	-	300	
生活環境デザイン学科	70	-	280	生活環境デザイン学科	55	-	220	定員変更 (△15)
ソーシャルデザイン学科	40	-	160	ソーシャルデザイン学科	45	-	180	定員変更 (5)
国際文化学部				国際文化学部				
国際文化学科	80	-	320	国際文化学科	80	-	320	
日本文化学科	60	-	240	日本文化学科	60	-	240	
人間科学部				人間科学部				
臨床心理学科	70	-	280	臨床心理学科	70	-	280	
子ども教育学科	80	-	320	子ども教育学科	80	-	320	
スポーツ健康科学科	100	-	400	スポーツ健康科学科	100	-	400	
計	2,530	-	10,120	計	2,530	-	10,120	
九州産業大学大学院				九州産業大学大学院				
経済・ビジネス研究科				経済・ビジネス研究科				
経済学専攻(M)	7	-	14	経済学専攻(M)	7	-	14	
現代ビジネス専攻(M)	20	-	40	現代ビジネス専攻(M)	20	-	40	
経済・ビジネス専攻(D)	5	-	15	経済・ビジネス専攻(D)	5	-	15	
工学研究科				工学研究科				
産業技術デザイン専攻(M)	35	-	70	産業技術デザイン専攻(M)	35	-	70	
産業技術デザイン専攻(D)	4	-	12	産業技術デザイン専攻(D)	4	-	12	
芸術研究科				芸術研究科				
造形表現専攻(M)	14	-	28	造形表現専攻(M)	14	-	28	
造形表現専攻(D)	6	-	18	造形表現専攻(D)	6	-	18	
国際文化研究科				国際文化研究科				
国際文化専攻(M)	15	-	30	国際文化専攻(M)	15	-	30	
国際文化専攻(D)	5	-	15	国際文化専攻(D)	5	-	15	
情報科学研究科				情報科学研究科				
情報科学専攻(M)	20	-	40	情報科学専攻(M)	20	-	40	
情報科学専攻(D)	4	-	12	情報科学専攻(D)	4	-	12	
計	135	-	294	計	135	-	294	
九州産業大学造形短期大学部				九州産業大学造形短期大学部				
造形芸術学科	150	-	300	造形芸術学科	150	-	300	
計	150	-	300	計	150	-	300	

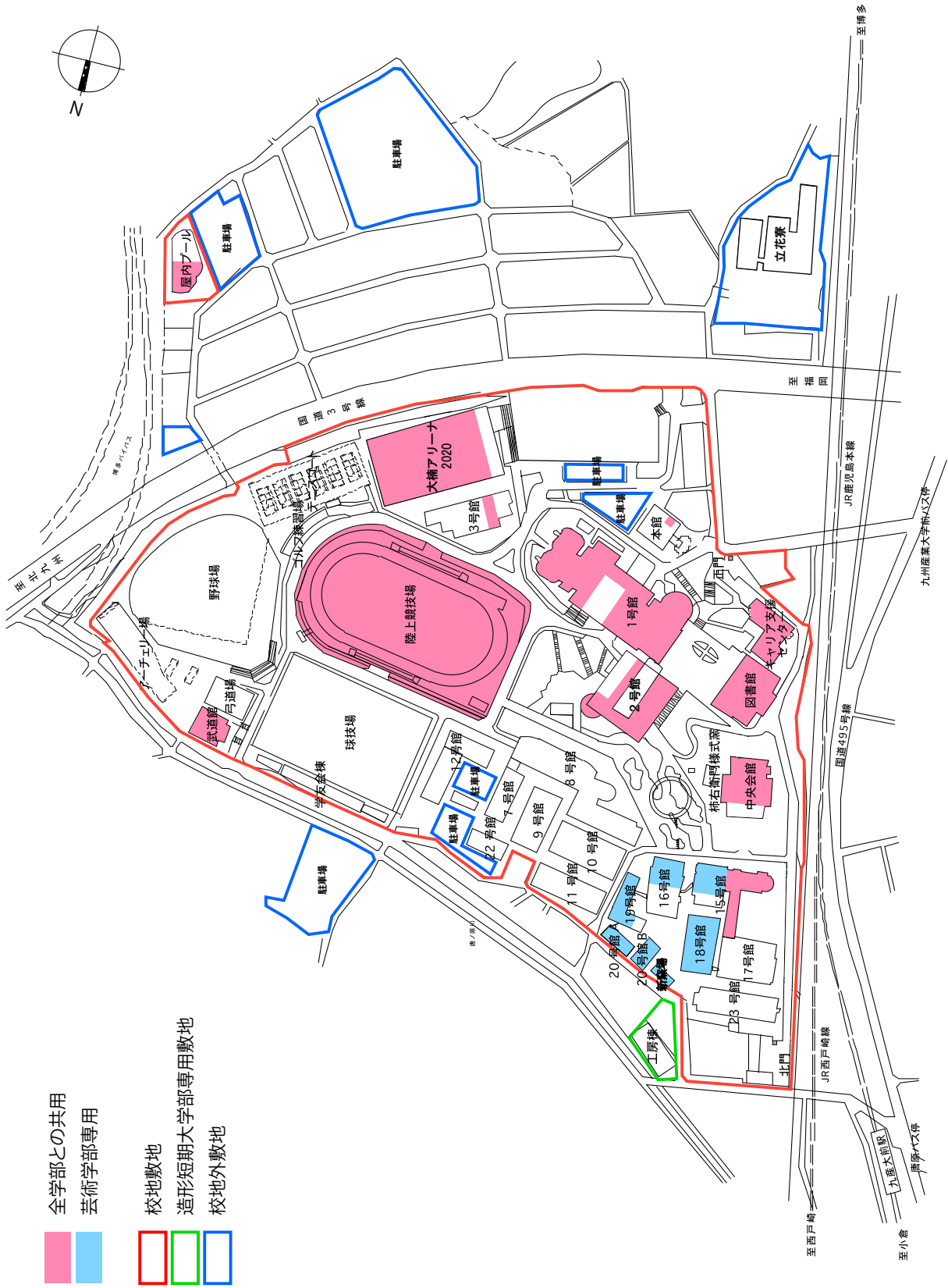
都道府県内における位置関係の図面



最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

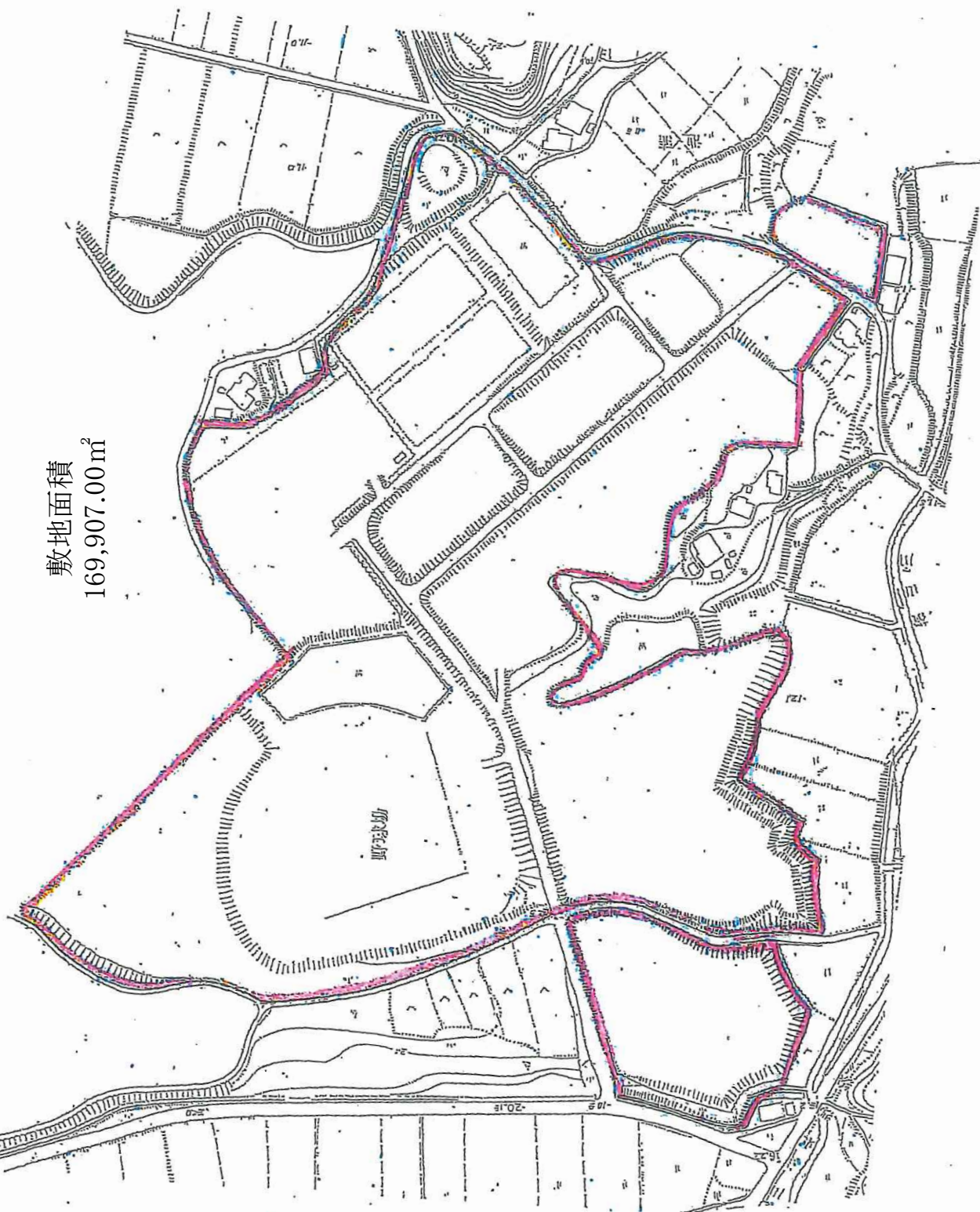


図置の配置等・運動場等



宗像運動場

敷地面積
169,907.00 m²



九州産業大学学則

第1章 総則

（建学の理想と理念）

第1条 九州産業大学（以下「本学」という。）は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し、学術の理論及び応用を研究、教授すべく、建学の理想を「産学一如」と定めている。「産学一如」とは、産業と大学は車の両輪のように一体となって、時々の社会のニーズを満たすべきであるとの創設者の意である。
この建学の理想のもとに、建学の理念として「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」を掲げている。

（人材養成及び教育研究上の目的）

第1条の2 本学は、建学の理想と理念のもと、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身共に健全な国際的教養人を育成することを目的とする。
2 各学部、各学科の人材養成及び教育研究上の目的は、別に定める。

（3つのポリシー）

第1条の3 本学の3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者の受け入れ方針）は、次のとおりとする。

（学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー）

本学は、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と専門的知識を備え、適切に活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
4. グローバルな視点で多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って持続可能な社会の発展に貢献できる。
5. 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。
6. 情報技術を活用することができる。

（教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー）

本学は、KSU基盤教育を基礎として、各学部・各学科の専門科目の正課教育、並びに総合大学として特色あるKSUプロジェクト型教育を行う。また、サークル活動やボランティア活動といった正課外教育も行う。

1. KSU基盤教育において、幅広い教養及び総合的な判断力を培うとともに豊かな人間性をもった人材を育成する。
2. 専門教育において、特定分野を学び、知識や情報の活用を通して社会で実践できる人材を育成する。
3. KSUプロジェクト型教育及びその他の正課外活動において、様々な経験をすることにより、他者をいたわることや地域の課題解決など地域に貢献する人材を育成する。

（入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー）

本学は、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、学習意欲が高い人。
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人。
3. 特定分野において卓越した能力をもっている人

2 各学部、各学科の3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者の受け入れ方針）は、別に定める。

（自己点検及び評価）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

- 2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。
- 3 本学は、第1項の措置に加え、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。
- 4 点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

（情報の公表）

第2条の2 本学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- (1) 本学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 本学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

- 2 本学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するものとする。
- 3 第一項の規定による情報の公表は、刊行物への掲載、インターネットの利用により広く周知を図るものとする。

第2条の3 削除

第2章 修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第3条 本学の修業年限は、4年とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第3条の2 本学は、前条の規定にかかわらず、学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業すること（以下「長期履修」という。）を希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第4条 学生は、8年を超えて在学することはできない。

- 2 前項の規定にかかわらず、編入学又は再入学を許可された学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできない。

(学年及び1年間の授業期間)

第5条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

- 2 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

(学期)

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日 から 9月15日まで

後学期 9月16日 から 翌年3月31日まで

- 2 学長は、前項に定める学期の開始日と終了日を臨時に変更することができる。

(休業日)

第7条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 開学記念日
- (4) 春季休業 4月1日 から 4月6日まで
- (5) 夏季休業 7月28日 から 9月15日まで
- (6) 冬季休業 12月24日 から 翌年1月7日まで

- 2 学長は、必要がある場合には休業日を臨時に変更することができ、また、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 学部及び学科

(学部及び学科)

第8条 本学に、次の学部及び学科を置く。

経済学部	経済学科
商学部	経営・流通学科
地域共創学部	観光学科
	地域づくり学科
理工学部	情報科学科
	機械工学科
	電気工学科
生命科学部	生命科学科
建築都市工学部	建築学科
	住居・インテリア学科
	都市デザイン工学科
芸術学部	芸術表現学科
	写真・映像メディア学科
	ビジュアルデザイン学科
	生活環境デザイン学科
	ソーシャルデザイン学科
国際文化学部	国際文化学科
	日本文化学科
人間科学部	臨床心理学科
	子ども教育学科
	スポーツ健康科学科

(大学院)

第9条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 図書館及び附属施設

(図書館)

第10条 本学に附属図書館を設ける。図書館は、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報その他の教育研究上必要な資料を収集整理し、職員及び学生の研究閲覧に供する。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(附属施設)

第11条 本学に、次の附属施設を置く。

産業経営研究所
総合情報基盤センター
健康・スポーツ科学センター
国際交流センター
語学教育研究センター
基礎教育センター
美術館
総合機器センター

2 附属施設に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 学部学科別入学定員及び収容定員

(入学定員及び収容定員)

第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	400	1,600
商学部	経営・流通学科	470	1,880
地域共創学部	観光学科	150	600
	地域づくり学科	140	560
理工学部	情報科学科	140	560
	機械工学科	130	520
	電気工学科	100	400
生命科学部	生命科学科	110	440
建築都市工学部	建築学科	75	300
	住居・インテリア学科	65	260
	都市デザイン工学科	60	240
芸術学部	芸術表現学科	70	280
	写真・映像メディア学科	55	220
	ビジュアルデザイン学科	75	300
	生活環境デザイン学科	55	220
	ソーシャルデザイン学科	45	180
国際文化学部	国際文化学科	80	320
	日本文化学科	60	240
人間科学部	臨床心理学科	70	280
	子ども教育学科	80	320
	スポーツ健康科学科	100	400

第6章 授業科目及び単位

(授業科目)

第13条 授業科目は、専門科目、基礎教育科目、外国語科目、留学生に関する科目、教職に関する科目、司書に関する科目、司書教諭に関する科目、博物館に関する科目、社会教育主事に関する科目及び大学院設置科目に分ける。

2 前項に規定する専門科目のうち各学部が指定する専門科目、基礎教育科目及び外国語科目をK S U基盤教育に関する授業科目とする。

3 K S U基盤教育に関し、必要な事項は別に定める。

4 K S U基盤教育に関する授業科目のうち、基礎教育科目、外国語科目の種類及び単位数は、別表第1のとおりとする。

5 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

6 各学部における専門科目、留学生に関する科目及び教職に関する科目の種類及び単位数は、別表第2から別表第9のとおりとする。

7 必要に応じて特殊講義を設けることができる。

8 自由科目として学生の習熟度を高めるための授業科目を設けることができる。

- 9 本学の特色ある教育を具現化するために、独自のプログラムを置く。
- 10 前項のプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第13条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 前項により与えることができる単位数は、第15条の卒業するために必要な単位数のうち、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第13条の3 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

- 2 本学は、指導補助者（大学設置基準第8条第3項に規定する指導補助者をいう。）に対し、必要な研修を実施するものとする。ただし、教員は除く。

第7章 寄附講座

(寄附講座)

第14条 本学は、企業、財団及び個人等からの寄附によって運営する講座（以下「寄附講座」という。）の授業科目を開設することができる。

- 2 寄附講座に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 授業科目履修の方法

(卒業要件)

第15条 本学の各学部を卒業するために必要な授業科目及び単位数は、別表第10のとおりとする。

(授業科目履修の方法及び登録の上限)

第16条 授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

- 2 外国人留学生のために設ける留学生に関する科目の履修については、別に定める。
- 3 学生は、原則として各学期の初めに履修希望の授業科目を登録しなければならない。
- 4 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、一年間又は一学期に履修科目として登録できる単位数の上限は各学部において定めることができる。なお、単位数の上限は、別に定める。
- 5 各学部が定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- 6 既に単位を修得した授業科目は、再履修をすることができない。

(単位の基準)

第17条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲の時間の授業をもって1単位として、各授業科目の単位数を計算するものとする。

- 2 芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- 3 卒業論文、卒業研究及び卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修を考慮して単位数を定めるものとする。

第9章 授業科目修了の認定

(単位の認定)

第18条 授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適切な方法による。ただし、演習、実験、実習及び実技等については平常の成績により認定することができる。

- 2 授業科目修了の認定は、原則として学年末に行う。ただし、前学期で終了する授業科目については、前学期末に行うことができる。
- 3 試験の成績は、秀、優、良、可及び不可で表し、秀、優、良及び可を合格とし、合格した授業科目には所定の単位を与える。

(GPA)

第18条の2 学業の成績評価基準としてグレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average 以下「GPA」という。）を用いることができる。

- 2 GPAについては、各学部の授業科目履修規程に定めるところによる。

(他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第19条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の履修により修得したものと同みなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下、同じ）又は外国の短期大学に留学する場合、外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を国内において履修する場合及び外国の大学及び外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を国内において履修する場合においても準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第20条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(ボランティア活動等の実践学修)

- 第20条の2 学長が、教育上有益と認めるときは、ボランティア活動等の実践学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、第19条第1項、第2項及び前条第1項により本学において修得したとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 ボランティア活動等の実践学修に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 卒業及び学位の授与

(卒業及び学位の授与)

- 第21条 本学に4年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位を修得した者に対して、卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。
- 2 本学に4年以上在学し、年度の前学期において第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を修得した者に対して、9月卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。
- (1) 学位の認定日は、当該年度の前学期末日とする。
- (2) 学長は、翌年3月まで卒業の延期を願い出た者について、教授会の意見を聴取した上で、許可することができる。
- 3 文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を優秀な成績で修得した者に対して、第1項の規定にかかわらず、別に定める規程に基づき3年以上の在学で卒業を認め、学長が学士の学位を授与することができる。
- 4 学位の授与については、別に定める。

第11章 教育職員免許状等

(教育職員免許状)

- 第22条 本学に4年以上在学し、卒業するのに必要な単位を修得して学士の学位を得、かつ、第13条別表第1から別表第9に掲げる授業科目のうちから教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目及び単位数を修得した者は、その修得した授業科目及び単位数に応じ、次の種類の教育職員免許状の授与を受けるための所要資格を得ることができる。

免許状の種類	免許教科の種類	免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く学部学科	
高等学校教諭一種免許状	商業	商学部	経営・流通学科
高等学校教諭一種免許状	工業	理工学部 建築都市工学部	機械工学科 電気工学科 建築学科 住居・インテリア学科 都市デザイン工学科
中学校教諭一種免許状	社会	経済学部 地域共創学部	経済学科 観光学科 地域づくり学科
高等学校教諭一種免許状	地理歴史	経済学部	経済学科
高等学校教諭一種免許状	公民	経済学部 地域共創学部	経済学科 地域づくり学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科	生命科学部	生命科学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学	理工学部	情報科学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	美術	芸術学部	芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科
高等学校教諭一種免許状	工芸	芸術学部	芸術表現学科(メディア芸術専攻を除く) ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科(情報デザイン専攻を除く)
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語	国際文化学部	日本文化学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語	国際文化学部	国際文化学科
高等学校教諭一種免許状	情報	理工学部	情報科学科
幼稚園教諭一種免許状	—	人間科学部	子ども教育学科
特別支援学校教諭一種免許状	—	人間科学部	子ども教育学科

中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育	人間科学部	スポーツ健康科学科
---------------------------	------	-------	-----------

2 前項に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

(司書及び司書教諭)

第23条 図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者及び学校図書館法第5条に規定する司書教諭の資格を得ようとする者については、別表第11の司書及び司書教諭に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(学芸員)

第24条 博物館法第5条第1項第1号により学芸員の資格を得ようとする者については、別表第12の博物館に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(社会教育主事)

第25条 社会教育法第9条の4第3号により社会教育主事の資格を得ようとする者については、別表第13の社会教育主事に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(司書資格、司書教諭資格、学芸員資格及び社会教育主事資格の履修方法)

第26条 前3条に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

(日本語教員)

第26条の2 日本語教員の所要資格を得ようとする者については、別に定める日本語教員養成課程に関する授業科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める授業科目の履修方法及び単位の修得方法については、別に定める。

(保育士)

第26条の3 児童福祉法施行規則により、保育士の資格を得ようとする者については、人間科学部子ども教育学科に在籍し、所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める授業科目の履修方法及び単位の修得方法については、別に定める。

第12章 入学、編入学及び再入学

(入学の時期)

第27条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第28条 本学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(出願手続)

第29条 本学に入学を志願する者は、入学願書及び所定の書類に別表第15に掲げる入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学者の選抜)

第30条 入学は、学力検査等によって決定する。

2 入学者の選抜方法は、別に定める。

(入学手続及び入学許可)

第31条 入学者の選抜に基づき合格通知を受けた者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書、保証書及びその他の書類を提出するとともに、別表第15に掲げる入学金及び修学費を納付しなければならない。

2 合格通知を受けた者のうち、学力検査等で特に優秀な成績を修めた者については、前項の規定にかかわらず、修学費の一部を免除することがある。

3 学長は、前2項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

4 第1項の規定にかかわらず、「大学等における修学の支援に関する法律」に基づき、授業料減免の対象となっている者については、修学費の納付を猶予し、入学を許可することがある。

5 前項の規定に基づき、修学費の納付を猶予された者は、別に定める期限までに、必要な修学費を納付しなければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

第32条 学長が、教育上有益と認めるときは、編入学等を除き、第1年次に入学した学生が入学前に大学、専門職大学又は短期大学等において修得した授業科目の単位について、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の単位として認定することができる。

2 前項の規定は、第19条第2項の場合に準用する。

3 第1項による単位の認定は、第19条第1項及び第2項、第20条第1項並びに第20条の2第1項により本学において修得したもののみならず単位数と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。

(外国人留学生)

第33条 外国人で入学を志願する者については、特別の選考により入学を許可することがある。

(編入学)

第34条 学長は、本学に編入学を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、入学を許可することがある。

2 本学に編入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学の2年次以上の修了者

(2) 短期大学を卒業した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 外国において、学校教育における14年以上(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)の課程を修了した者で、本学において前3号に準ずると認められた者

(5) 学校教育法第132条に該当する者

(6) 学校教育法施行規則附則第7条に該当する者

3 編入学者の選抜方法及び編入学年次等の必要な事項は、別に定める。

4 編入学を許可された者の既に修得した単位の認定は、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。

(再入学)

第35条 学長は、本学の退学者又は除籍者が再入学を願い出たときは、第40条第1号により除籍された者を除き、教授会の意見を聴取した上で、再入学を許可することがある。

2 再入学を許可された者の既に修得した単位の認定及び再入学年次については、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。

3 再入学を願い出る者は、別表第15に掲げる再入学選考料を納付しなければならない。

第13章 休学、復学、長期欠席、退学、除籍、転学部、転学科及び他大学受験

(休学)

第36条 休学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学は、次のとおりとする。

(1) 前学期休学 前学期全期間の休学

(2) 後学期休学 後学期全期間の休学

(3) 通年休学 4月1日から翌年3月31日までの休学

3 休学期間は、通算して3年を超えることができない。

4 休学期間は、第4条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

第37条 休学を許可された者は、休学期間満了を以って復学するものとする。

2 復学の時期は、学年の前学期又は後学期の始めとする。なお、通年休学を許可された者において、前学期末までに休学の事由が消滅したときは、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を得て後学期始めの復学を認めることがある。

(長期欠席)

第38条 病気又はやむを得ない事由により、1ヵ月以上で休学期間に満たない欠席をしようとする者は、その事由を付した保証人連署の長期欠席届を教務部長に提出しなければならない。

2 1ヵ月に満たない欠席の場合は、当該授業科目担当教員に届け出なければならない。

3 長期欠席の期間は、第4条に定める在学期間に算入する。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第40条 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の意見を聴取した上で除籍する。

(1) 第4条に定める在学年限を超える者

(2) 修学費を納付しない者

(3) 理由なく履修登録等在籍に要する手続きを履行しない者

(転学部及び転学科)

第41条 学長は、本学の他学部へ転学部することを志願する者の選考について関係各学部の教授会の意見を聴取した上で、許可することがある。

2 学長は、当該学部の他学科へ転学科することを志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、許可すること

がある。

3 転学部及び転学科に関し必要な事項は、別に定める。

第42条 削除

(他大学受験)

第43条 本学の学生が他大学の受験を出願するときは、他大学受験許可願を教務部長に提出しなければならない。

2 前項の手続を怠った場合は、出願先の大学に通告することがある。

第14章 留学

(交換留学)

第44条 本学は、本学と交流に係る協定を締結した外国の大学又は短期大学（以下「協定校」という。）と学生を相互に交換することがある。

2 前項の協定により交換する学生を交換留学生という。

(交換留学生の派遣)

第45条 学長は、前条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校に交換留学生を派遣することができる。

2 前項の交換留学生を派遣留学生といい、派遣期間は1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。

3 派遣留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(交換留学生の受入れ)

第46条 学長は、第44条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校が派遣する交換留学生を受け入れることができる。

2 前項の交換留学生を受入れ留学生といい、受入れ期間は1年を限度とする。

3 受入れ留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(認定留学)

第47条 本学は、本学が教育上有益と認める学位授与権を有する外国の大学（以下「認定校」という。）に、学生が留学することを認めることがある。

2 前項の規定により留学する学生を認定留学生という。

(認定留学生)

第48条 学長は、前条の規定に基づき、学生が留学を志願したときは、教授会の意見を聴取した上で、認定校に留学をさせることができる。

2 認定留学生の留学期間は、1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。

3 認定留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 専攻科

(目的)

第49条 本学に、精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として、次の専攻科を置く。

芸術専攻科	美術専攻
	デザイン専攻
	写真専攻

(専攻科の入学資格)

第50条 専攻科に入学の資格を有する者は、大学を卒業した者又は次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (2) 文部科学大臣の指定した者
- (3) その他当該専攻科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(専攻科の定員)

第51条 専攻科の定員は、次のとおりとする。

芸術専攻科	美術専攻	4名
	デザイン専攻	6名
	写真専攻	4名

(専攻科の修業年限)

第52条 専攻科の修業年限は、1ヵ年とする。

2 専攻科の学生は、2年を超えて在学することができない。

(専攻科の選考方法)

第53条 専攻科で修業することを志望するものに対しては選考の上、入学を許可する。

(専攻科の授業科目)

第54条 専攻科における授業科目は、別表第14に定める。

(専攻科の授業科目の履修方法)

第55条 専攻科の学生は、前条によって定められた授業科目を別に定める履修規程に従って履修しなければならない。

2 前項により授業科目を履修し、単位を修得すれば修了証書を授与する。

(専攻科の納付金)

第56条 専攻科の納付金は、別に定める。

第16章 修学費、受講料等及び手数料

(修学費等)

第57条 本学の学生は、指定された期日までに別表第15に掲げる修学費を納付しなければならない。

2 前項に定めるもののほか、必要に応じて別に定める受講料等及び手数料を納付するものとする。

(休学中の修学費)

第58条 休学を許可された者については、修学費のうち授業料を免除する。

(修学費の督促)

第59条 所定の期日までに修学費を納付しない者には督促し、納付しない場合は登学を停止する。登学停止後、なお納付しないときは、第40条の規定に基づき除籍する。

(納付金等の返付)

第60条 納付金等の返付の取り扱いについては、納付金及び手数料に関する規程(大学)の定めるところによる。

第17章 賞罰

(表彰)

第61条 学生として、表彰に値する行為があった者を、所定の手続きを経て、表彰する。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第62条 学長は、本学の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者を、所定の手続きを経て、懲戒する。

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

4 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第18章 職員組織

(学長、副学長及び部所長)

第63条 本学に学長、副学長、学部長、学生部長、教務部長、入試部長、キャリア支援センター所長、図書館長、産業経営研究所長、総合情報基盤センター所長、健康・スポーツ科学センター所長、国際交流センター所長、語学教育研究センター所長、基礎教育センター所長、美術館長及び総合機器センター所長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、大学を代表する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 学部長は、学長を助け、学部に関する校務をつかさどる。

5 学生部長は、学長を助け、学生部に関する事項をつかさどる。

6 教務部長は、学長を助け、各学部の教務に関する事項をつかさどる。

7 入試部長は、学長を助け、入学試験に関する事項をつかさどる。

8 キャリア支援センター所長は、学長を助け、学生のキャリア支援に関する事項をつかさどる。

9 図書館長は、学長を助け、図書館を統轄する。

10 産業経営研究所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

11 総合情報基盤センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

12 健康・スポーツ科学センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

13 国際交流センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

14 語学教育研究センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

15 基礎教育センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

16 美術館長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

17 総合機器センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

(学科主任等)

第64条 各学部等に必要に応じて、学科主任等を置くことができる。

2 学科主任等は、学部長等を補佐する。

(教育職員)

第65条 本学に、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

- 2 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 3 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 4 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
- 5 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 6 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。また、必要に応じて、授業の補助及び一部を分担して担当することができる。

(事務局)

第66条 本学の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

(事務職員)

第67条 本学に、事務職員を置く。

- 2 事務職員に関し必要な事項は、別に定める。

(名誉教授)

第68条 本学に、名誉教授を置くことができる。

- 2 名誉教授に関し必要な事項は、別に定める。

第19章 教授会

(教授会)

第69条 本学の各学部教授会を置く。

- 2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして別に定めるもの
- 3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 4 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。
- 5 教授会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(センター教授会)

第70条 健康・スポーツ科学センター、語学教育研究センター及び基礎教育センターに教授会(以下「センター教授会」という。)を置く。

- 2 センター教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(学部長会議)

第71条 本学に学部長会議を置く。

- 2 学部長会議に関し必要な事項は、別に定める。

第20章 大学寮及び厚生保健

(大学寮)

第72条 本学に、大学寮を置く。

- 2 大学寮に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理)

第73条 本学に、職員及び学生の保健衛生を管理するために、医務室を設ける。

(医務職員)

第74条 医務室に、医務職員を置く。

(健康診断)

第75条 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

第21章 研究生及び科目等履修生

(研究生)

第76条 学長は、本学又は他大学の卒業生及びこれに準ずる者で、本学専属教員指導の下に特定の事項につき研究を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生は、別に定める納付金及び手数料を納付しなければならない。
- 3 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

- 第77条 学長は、本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、在学生の学修の妨げのない限り科目等履修生として許可することがある。
- 2 科目等履修生を出願できる者は、第28条の規定による入学の資格を有する者又は履修に関して協定を結んだ高等学校の生徒でその高等学校長の推薦を受けた者とする。
- 3 科目等履修生の単位認定については、第18条の規定による。
- 4 科目等履修生は、別に定める選考料及び科目受講料を納付しなければならない。
- 5 その他科目等履修生の出願に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生の期間)

第78条 科目等履修生を許可する期間は、通年又は前学期若しくは後学期とする。ただし、その都度願い出により継続することができる。

(規則の遵守)

第79条 研究生及び科目等履修生は、本学が定める諸規則を遵守しなければならない。

第22章 特待生

(特待生)

- 第80条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生を、特待生として認定することがある。
- 2 特待生に関し必要な事項は、別に定める。

第23章 公開講座

(公開講座)

- 第81条 本学では適時に公開講座を設けることがある。
- 2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第24章 改正

(学則の改正)

第82条 学則の改正は、学長が学部長会議の意見を聴取した上で理事会に付議する。

附 則

1. 本学則は昭和35年4月1日から施行する。
2. 本学則は昭和37年4月1日商学部産業経営学科設置に伴いこれを改正施行する。
3. 本学則は昭和38年4月1日商学部経済学科及び工学部、機械工学科、電気工学科、工業化学科設置に伴いこれを改正施行する。
4. 本学則は昭和39年4月1日工学部、土木工学科、建築学科及び商学部第二部商学科、経済学科設置に伴いこれを改正施行する。
5. 本学則は昭和41年4月1日芸術学部、美術学科、デザイン学科、写真学科設置に伴いこれを改正施行する。
6. 本学則旧第12条、第15条及び第21条の一部改正に伴う昭和41年度以前に入学した学生に対する取り扱いについては(注)書の部分のほかすべて従前の規程による。
7. 本学則は昭和43年4月1日経営学部産業経営学科設置、芸術学部学生入学定員変更、図書館司書及び司書教諭関係科目設置並びに各学部授業科目名称変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
8. 経営学部産業経営学科設置に伴い昭和42年度以前に入学した商学部産業経営学科の学生の取り扱いについてはすべて従前の規程による。
9. 本学則は昭和44年4月1日工学部学生定員変更に伴いこれを改正施行する。
10. 本学則は昭和45年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
11. 本学則は昭和46年4月1日商学部及び芸術学部学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。
12. 本学則は昭和47年4月1日芸術専攻科増設に伴いこれを改正施行する。
13. 本学則は昭和48年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
14. 本学則は昭和49年4月1日各学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
15. 本学則は昭和50年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
16. 本学則は昭和51年4月1日商学部、経営学部、工学部及び芸術学部の学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。
17. 本学則は昭和52年4月1日経営学部卒業単位の変更、工学部土木工学科コース制の採用、図書館司書、司書教諭科目の整備及び博物館に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。
18. 本学則は昭和53年4月1日工学部・芸術学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
19. 本学則は昭和54年4月1日経営学部産業経営学科コース制採用に伴いこれを改正施行する。
20. 本学則は昭和55年4月1日学校教育法施行規則の一部改正に伴う入学資格の変更、商学部第二部、工学部、芸術学部の授業科目の変更、及び社会教育主事に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。
21. 本学則は昭和56年4月1日経営学部国際経営学科設置並びに経営学部産業経営学科学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。

なお、本学則第9条の学生定員数にかかわらず経営学部は次のとおりとする。

学 部	学 科	昭和56年度		昭和57年度		昭和58年度	
		入学定員	定員総数	入学定員	定員総数	入学定員	定員総数

経営学部	国際経営学科	150	150	150	300	150	450
	産業経営学科	150	750	150	700	150	650

22. 本学則は昭和57年4月1日経営学部国際経営学科に教育職員免許状（商業）認定、並びに経営学部及び工学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
23. 本学則は昭和58年4月1日商学部第二部、芸術学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
24. 本学則は昭和59年4月1日商学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
25. 本学則は昭和60年4月1日学則第34条の一部改正並びに芸術学部写真学科の授業科目名称変更、及び教職専門科目新設に伴いこれを改正施行する。
26. 本学則は昭和61年4月1日商学部経済学科の授業科目新設並びに芸術学部デザイン学科の授業科目名称変更に伴いこれを改正施行する。
27. 本学則は昭和62年4月1日経営学部並びに芸術学部授業科目新設・変更に伴いこれを改正施行する。
28. 本学則は昭和63年4月1日第15条別表6の一部変更及び商学部・経営学部の学科目新設・単位数変更、工学部工業化学科のコース廃止・新設又第2外国語の増設、社会教育主事の変更に伴いこれを改正施行する。
29. 本学則は、平成元年4月1日第13条別表1から5の一部変更及び工学部電気工学科のコース名称変更並びに第47条「専攻科」、第69条「教授会」、第70条「協議会」の一部改正に伴いこれを改正施行する。
30. 本学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第9条の規定にかかわらず、入学定員は平成3年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科		入学定員
商 学 部	経済学科	500
	商学科	500
商学部第二部	経済学科	150
	商学科	150
経 営 学 部	国際経営学科	250
	産業経営学科	250
工 学 部	機械工学科	130
	電気工学科	150
	工業化学科	130
	土木工学科	130
	建築学科	150
芸 術 学 部	美術学科	130
	デザイン学科	200
	写真学科	140

- 3 別表1及び別表2に掲げる授業科目のうち、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」及び「公民」の授与をうけるために必要な科目の履修については、平成2年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成3年12月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条、第12条、第13条及び第14条の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第11条、第12条、第13条、第14条、第18条及び第20条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 商学部経済学科及び商学部第二部経済学科は、平成5年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待つて廃止する。
- 4 第11条の規定にかかわらず、経済学部経済学科の入学定員は平成5年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

学部	学 科		平成5年度		平成6年度		平成7年度		平成8年度～平成11年度	
			入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	昼間主コース	500	500	500	1,000	500	1,500	500	2,000
		夜間主コース	150	150	150	300	150	450	150	600

附 則

- この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 国際文化学部 の収容定員については、第10条の規定にかかわらず、平成6年度から平成9年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成6年度			平成7年度			平成8年度			平成9年度		
		入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員
国際文化学部	国際文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440
	地域文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440

- 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2（一）（2）及び別表第3（一）（2）の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2（五）、別表第3（四）、別表第4（四）、別表第5（五）及び別表第6（四）の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 平成6年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2（一）（2）、別表第3（一）（2）、別表第6（一）（3）及び第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第5（一）の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 平成7年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第2（一）（2）、別表第3（一）（2）、別表第4（一）（1）（2）（二）（4）、別表第6（一）（3）及び学則第12条別表第8経営学部並びに第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成8年6月25日から施行する。
- 改正後の学則第39条の規定は、平成7年度に入学した学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 平成8年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第2（一）（2）、別表第3（一）（2）及び第52条第1項別表第13（3）の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成8年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第20条別表第9（1）、第21条別表第10及び第22条別表第11の規定の適用については、別に定めるとおりとする。

附 則

この学則は、平成9年7月29日から施行する。

附 則

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 平成9年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第2（一）（2）、別表第3（一）（2）、別表第6（一）（3）、別表第7（一）（2）（ロ）及び（二）並びに学則第15条別表第8国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 前項の規定にかかわらず、平成8年度及び平成9年度に入学した学生に対する改正前の学則第15条別表第8国際文化学部地域文化学科の規定については、授業科目数及び単位数欄中専門科目E群生活科学部門の「同一系から2科目6単位」を削り、「48単位」を「42単位」に、「72単位」を「66単位」に、「A群～G群から20単位」を「A群～G群から26単位」に改めて適用する。

附 則

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 商学部第一部観光産業学科及び商学部第二部観光産業学科の収容定員は、第12条の規定にかかわらず、平成11年度から平成14年度までは、次のとおりとする。

学部	学科	平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度		
		入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員
商学部第一部	観光産業学科	150	—	150	150	—	300	150	15	465	150	15	630
商学部第二部	観光産業学科	50	—	50	50	—	100	50	5	155	50	5	210

- 平成10年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1（二）4（三）、別表第2（一）（二）（三）（四）、別表第3（一）（二）（三）、別表第4（一）（1）（ハ）（2）（ロ）（ハ）（二）（4）（5）（6）、別表第6（二）（4）（5）（6）（三）及び別表第7並びに学則第15条別表第8経済学部経済学科、商学部第一部商学科、商学部第二部商学科、経営学部、芸術学部、国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 平成11年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第1(五)、別表第2(1)(一)(ロ)、(五)、別表第3(1)(一)(ロ)、(四)、別表第4(五)、別表第5、別表第6(一)(1)(2)、(五)、別表第7(一)(1)(ハ)「教科に関する科目」、(一)(2)(ハ)「教科に関する科目」、(五)並びに学則第15条別表第8工学部、芸術学部美術学科及びデザイン学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成11年度以前に入学した国際文化学部地域文化学科の学生に対する改正後の学則第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成12年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学 部	学 科		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
			入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員
経 済 学 部	経済学科	昼間主コース	485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790
		夜間主コース	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
商学部第一部	商 学 科		485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790
商学部第二部	商 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
経 営 学 部	国際経営学科		240	990	230	970	220	940	210	900	200	860
	産業経営学科		240	990	230	970	220	940	210	900	200	860
工 学 部	機 械 工 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	電 気 工 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
	工 業 化 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	土 木 工 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	建 築 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
芸 術 学 部	美 術 学 科		129	519	128	517	127	514	126	510	125	506
	デザイン学科		198	798	196	794	194	788	192	780	190	772
	写 真 学 科		138	558	136	554	134	548	132	540	130	532

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 平成12年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項、第3項別表第1、別表第2(1)(2)(一)(イ)(ロ)(ニ)(三)(四)(五)(六)、別表第3(1)(2)(一)(イ)(ロ)(ニ)(三)(四)(五)、別表第4(一)(1)(2)(二)(1)(2)(3)(4)(5)(三)(四)、別表第6(一)(3)(二)(1)(2)(3)(4)(三)及び学則第15条別表第8経済学部、経営学部、芸術学部並びに学則第57条第1項別表第13(3)の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成12年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第2(2)(一)(ハ)、別表第3(2)(一)(ハ)、別表第6芸術学部(一)(2)スペースデザインコース(ハ)、プロダクトデザインコース(ハ)を適用する。

附 則

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 平成13年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第5(一)(2)、(五)、別表第6(一)(1)(3)(4)、(五)並びに学則第15条別表第9工学部並びに芸術学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成13年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第4(一)(2)(ロ)、(五)を適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第7(一)(1)(ハ)の規定は、平成12年度入学生から適用する。
- 学則第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成14年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学 部	学 科		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
			入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員
経 済 学 部	経済学科	昼間主コース	430	1,885	415	1,800	400	1,715
		夜間主コース	100	535	100	485	100	440
商学部第一部	商 学 科		430	1,885	415	1,800	400	1,715
商学部第二部	商 学 科		100	535	100	485	100	440
経 営 学 部	国際経営学科		220	940	210	900	200	860
	産業経営学科		220	940	210	900	200	860

工 学 部	機 械 工 学 科	106	487	103	460	100	433
	電 気 工 学 科	135	570	130	550	125	530
	工 業 化 学 科	106	487	103	460	100	433
	土 木 工 学 科	106	487	103	460	100	433
	建 築 学 科	110	545	105	500	100	455
芸 術 学 部	美 術 学 科	102	489	101	460	100	431
	デザイン学科	184	778	182	760	180	742
	写 真 学 科	114	528	112	500	110	472

附 則

- この学則は、平成14年5月24日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第8(一)(1)及び(2)並びに学則第15条別表第9情報科学部の規定は、平成14年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項第1別表(一)(3)(ロ)7、別表第2(1)(二)、(2)(二)、別表第3(1)(二)、(2)(二)、別表第6(二)(4)及び別表第7(二)(1)(2)の規定は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第1(二)(2)、別表第4(二)(4)及び別表第8(二)(四)(五)の規定は平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「英検中級Ⅰ、英検中級Ⅱ、英検上級Ⅰ、英検上級Ⅱ」及び学則第13条第3項別表第2(2)(ハ)の配当科目「TOEICⅠ、TOEICⅡ、TOEICⅢ」は、平成11年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 工学部工業化学科を物質生命化学科に、工学部土木工学科を都市基盤デザイン工学科に名称を変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(3)(4)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成16年度に入学した学生から適用し、平成15年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 学則第12条の規定にかかわらず国際文化学部の3年次編入学定員については、平成18年度から適用する。
- 平成15年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1(一)(二)(三)(1)(四)(五)(六)、別表第2(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)(六)、(2)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)(六)、別表第3(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、(2)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、別表第4(一)(二)(四)(五)(六)、別表第5(一)(二)(四)(五)(六)、別表第6(一)(二)(1)(3)(4)(5)(四)(五)(六)、別表第7(一)(二)(四)(五)(六)、別表第8(四)、第15条別表第9経済学部、工学部、芸術学部及び国際文化学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 学則第18条第3項及び第18条の2の規定は、平成16年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第1(三)(2)の配当科目「外国語特講Ⅰ、外国語特講Ⅱ、外国語特講Ⅲ及び外国語特講Ⅳ」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(三)(2)(三)、別表第3(1)(三)(2)(三)、別表第4(三)(イ)(ロ)、別表第5(三)、別表第6(三)及び別表第7(三)(1)(2)の配当科目「特殊講義(英語会話)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「1級商業簿記Ⅰ、1級商業簿記Ⅱ、1級会計学Ⅰ、1級会計学Ⅱ、1級工業簿記Ⅰ、1級工業簿記Ⅱ、1級原価計算Ⅰ、1級原価計算Ⅱ、特別講義Ⅴ(学生サポーター)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「近代流通史、eコマース論、eコマース実践論、ビジネス特講Ⅱ(職業意識)」及び別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネス特講Ⅱ(職業意識)」は、平成15年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「プロジェクトワーク」は、平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅵ(インターンシップ)」は、平成15年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第5(一)(3)(イ)の配当科目「応用化学実験(コンピュータ活用を含む)」、(ロ)の配当科目「無機化学」及び「インターンシップ」は、平成16年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第5(一)(4)(イ)の配当科目「地盤工学Ⅱ」、「建設CAD演習」、「建設材料実験」、「都市計画学」及び「環境水理実験」、(ハ)の配当科目「都市基盤建設施工学」、「建設材料工学演習」、「工学のための解析学」、「応用物理学Ⅱ」、「建設マネジメント」、「コンクリート構造工学演習」、「都市基盤計画学演習」、「橋梁工学」、「工業爆薬学」、「都市基盤デザイン実習」、「都市建設施工学」及び「維持管理システム」は、平成16年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第7(二)(ロ)の配当科目「実践学修A(学生サポーター)」は、平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第8(三)の配当科目「英語会話Ⅶ」及び「英語会話Ⅷ」は、平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第15条別表第9工学部都市基盤デザイン工学科は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成17年4月22日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年7月22日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「経営分析、ビジネス特講Ⅳ」及び別表3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネス特講Ⅳ」は、平成15年度入学生から適用する。
- 3 改正後の学則第13条別表第7(二)(1)(2)(3)の(ロ)の配当科目「実践学修B（インターンシップ）」及び別表第8(一)(1)(2)の(ハ)の配当科目「情報と職業」は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第3、別表第4、別表第5、別表第7、別表第9及び別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ（NHKメディア講座）、広告実践論及び中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ（NHKメディア講座）、特別講義Ⅷ（日韓観光特講）」は、平成15年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。
- 6 工学部電気工学科を電気情報工学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(2)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成19年度に入学した学生から適用し、平成18年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 7 平成18年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 8 商学部第二部観光産業学科は、平成19年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 芸術学部写真学科を写真映像学科に、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第6(一)(3)、別表第7(一)(2)、(二)(2)、(三)(2)、(四)(2)、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定は、平成20年度に入学した学生から適用し、平成19年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 4 改正後の学則第13条別表第1から別表第8の「基礎教育科目」の配当科目「ゼミナール・サポーター」は、平成17年度入学生から適用する。
- 5 芸術学部芸術工芸学科は、平成20年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成20年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光特講Ⅰ、観光特講Ⅱ、観光特講Ⅲ及び観光特講Ⅳ」は、平成18年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第1の(三)(2)、別表第2の(1)(三)、(2)(三)、別表第3の(三)、別表第4の(1)(一)(ロ)、(2)(三)、別表第5の(三)、別表第6の(三)、別表第7の(三)及び別表第8の(三)の配当科目「Four SkillsⅠ」「Four SkillsⅡ」「Introduction to Online English」「Professional Writing Skills」「Introduction to Translation」「Writing for Specific Purposes」「Advanced Reading & WritingⅠ」「Advanced Reading & WritingⅡ」「Domestic Job Training」「Overseas Job Training」は、平成19年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ロ)の配当科目「観光心理学」、(ハ)の配当科目「観光行動論」及び別表第5の(3)(ハ)の配当科目「火薬工学」は、平成19年度入学生から適用し、別表第7の(3)(ロ)の配当科目「心理学基礎実験演習」は平成20年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1、別表第2(1)商学科(二)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、(2)観光産業学科(二)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、別表第3から別表第8、第15条別表第9及び第22条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第1の(二)(2)(ハ)、別表第2の(1)(二)(3)及び(2)(二)(3)、別表第3の(二)(3)、別表第4の(1)(二)(3)、別表第5の(二)(3)、別表第6の(二)(3)、別表第7の(二)(3)及び別表第8の(二)(3)の配当科目「キャリア形成戦略」は平成21年度の入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成23年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(日本語日本文学コース)の配当科目「オフィスコミュニケーション」は、平成22年度別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(歴史・文学コース)に配当し、平成22年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成24年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(1)(一)(ロ)及び別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「ソーシャルスキルワーク」は、平成22年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光韓国語Ⅲ」、「観光中国語Ⅲ」、「キャリア実践講座・中級」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「キャリア実践講座・初級」は、平成24年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第5の(一)(7)(ロ)の配当科目「ロボット設計基礎」は、平成24年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第29条別表第14の(1)イ入学検定料は、平成25年度志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(一)(2)の配当科目「実践企画演習Ⅰ」、「実践企画演習Ⅱ」、「実践企画演習Ⅲ」、「実践企画演習Ⅳ」については、平成23年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「地域振興論」、「国内金融研修」、「地域振興プロジェクト演習」、「インターンシップ」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光振興プロジェクト演習」、「鉄道産業プロジェクト演習」は、平成23年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第4の(一)(イ)の配当科目「地域振興論」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第13条別表第6の(一)(3)(ロ)の配当科目「応用生物科学」及び(ハ)の配当科目「分子生物科学」は、平成23年度入学生から適用する。
- 8 改正後の学則第23条の「図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者」の規定は、平成24年4月1日から適用する。
- 9 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成26年度入学試験の志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は平成27年度入学志願者から適用する。
- 6 九州産業大学学部長会議申し合わせは、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条、第13条別表第1から別表第9、第15条別表第10、第22条及び第25条別表第13の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成28年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条、第13条別表第1、別表第6、別表第8、別表第9、第15条別表第10、第22条及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成29年度入学志願者から適用する。
- 4 改正後の学則第71条は、平成28年10月26日から適用する。
- 5 九州産業大学卒業取扱内規は、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条、第13条別表第2から別表第9、第15条別表第10、第22条、第29条別表第15及び第42条の規定の適用については、なお従前の例による。

- 3 九州産業大学経済学部転主コースに関する規程は、廃止する。平成29年度以前に入学した学生に対する規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条、第13条別表第2から別表第9及び第80条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成31年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 平成31年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第7及び別表第13の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第31条第4項及び第5項は、令和2年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第6、別表第6の2、別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第1条の3、第8条、第13条第4項別表第1、第13条第6項別表第2から別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第4項別表第1、第13条第6項別表第2から別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、令和5年度入学志願者から適用する。
- 4 九州産業大学商学部第二部授業科目履修規程は、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第2から別表第5、別表第6の2から別表第7及び別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後の学則第13条の別表第3の表中「キャリア演習（実践）」、別表第5の表中「地域キャリア演習」、別表第6の3の表中「住居・インテリアキャリア形成」及び別表第7の表中「キャリア演習（実践）」の規定の適用については、令和5年度入学生から適用する。
- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の学則第13条別表第6の2の表中「キャリア演習（実践）」、別表第6の3の表中「総合プログラム実習Ⅰ」、「総合プログラム実習Ⅱ」、「総合プログラム特論Ⅰ」、「総合プログラム特論Ⅱ」及び「総合プログラム講座」の規定の適用については、令和4年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1

(一) 基礎教育科目

(1) 導入科目

大学スタディスキル	2
-----------	---

(2) 学修基礎科目

実用国語(文章力)	2	実用国語(伝達力)	2	実用数学(計算力)	2	実用数学(活用力)	2	くらしの中の数学	2
AI導入	2	プログラミング導入	2	データリテラシー	2				

(3) キャリア科目

キャリア形成基礎論	2	キャリア開発論	2	キャリア形成戦略	2	主権者リテラシー	2	消費者リテラシー	2
九産大力	2	学生サポーター	2	学生ボランティア入門	2				

(4) 文理芸融合科目

実践クロス講座	2	実践クロス演習	2	実践力育成演習	2	課題解決演習	2	教養講座	2
実践コラボ講座	2	実践コラボ演習	2	インタラクティブディスカッション	2				

文理芸融合科目は、原則として科目名に()書きで主題を付し、個別の科目として開講する。

(5) 教養科目

日本の歴史	2	世界の歴史	2	哲学の世界	2	文学の世界	2	心理学の世界	2
文化人類学	2	美学・美術史	2	芸術の世界	2	人文科学の世界	2	法学	2
日本国憲法	2	現代の政治	2	地理の世界	2	人権・同和問題	2	ジェンダーと社会	2
社会科学の世界	2	科学の世界	2	地球環境	2	生物の世界	2	自然科学の世界	2
スポーツ科学演習	2	心と身体健康	2						

(二) 外国語科目

Reading & Writing I	1	Reading & Writing II	1	Reading & Writing III	1	Reading & Writing IV	1	Listening & Speaking I	1
Listening & Speaking II	1	Listening & Speaking III	1	Listening & Speaking IV	1	English Plus	1	English Expressions	2
Four Skills I	2	Four Skills II	2	Labo Training I	1	Labo Training II	1	Domestic Job Training	4
Overseas Job Training	4	TOEIC Plus	2	Reading Focus	2	Writing Focus	2	Business English	2
English Pronunciation	2	Introduction to Translation	2	Global Perspectives	2	ドイツ語 I	1	ドイツ語 II	1
ドイツ語 III	1	ドイツ語 IV	1	ドイツ語会話 I	1	ドイツ語会話 II	1	ドイツ語会話 III	1
ドイツ語会話 IV	1	フランス語 I	1	フランス語 II	1	フランス語 III	1	フランス語 IV	1
フランス語会話 I	1	フランス語会話 II	1	フランス語会話 III	1	フランス語会話 IV	1	韓国語 I	1
韓国語 II	1	韓国語 III	1	韓国語 IV	1	韓国語会話 I	1	韓国語会話 II	1
韓国語会話 III	1	韓国語会話 IV	1	実用韓国語	1	上級韓国語	1	中国語 I	1
中国語 II	1	中国語 III	1	中国語 IV	1	中国語会話 I	1	中国語会話 II	1
中国語会話 III	1	中国語会話 IV	1	実用中国語	1	上級中国語	1		

別表第2

経済学部経済学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

○地域クラスター

(1) 必修科目

経済学総合	2	地域研究総合	2
-------	---	--------	---

(2) 選択必修科目

経済学部へのいざない	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	情報処理入門	2	経済数学入門	2
九州学	2	データサイエンス入門	2	マクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	プレゼミナールⅠ	2
プレゼミナールⅡ	2	特別ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅡ	2	ミクロ経済学Ⅲ	2	マクロ経済学Ⅲ	2
ゲームの理論と社会	2	専門ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅢ	2	上級ミクロ経済学	2	経済原論A	2
専門ゼミナールⅡ	4	特別ゼミナールⅣ	4	上級マクロ経済学	2	経済原論B	2	卒業研究ゼミナール	4
卒業論文ゼミナール	8	特別ゼミナールⅤ	4						

(3) 選択科目

微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	統計学A	2	統計学B	2	統計学C	2
経済データ分析A	2	経済データ分析B	2	計量経済学A	2	計量経済学B	2	社会思想史A	2
社会思想史B	2	経済史A	2	経済史B	2	日本経済史A	2	日本経済史B	2
経済学史A	2	経済学史B	2	日本史A	2	日本史B	2	外国史A	2
外国史B	2	西洋経済史A	2	西洋経済史B	2	日本教育史	2	経済思想史	2
東洋経済史	2	日本近代史	2	西洋史	2	東洋史	2	人文地理学A	2
人文地理学B	2	自然地理学A	2	自然地理学B	2	地域研究概説A	2	地域研究概説B	2
社会調査論A	2	社会調査論B	2	地誌学A	2	地誌学B	2	地域経済論A	2
地域経済論B	2	地域開発論A	2	地域開発論B	2	中小企業論A	2	中小企業論B	2
地域調査実習	4	経済地理A	2	経済地理B	2	地方財政論A	2	地方財政論B	2
都市地理学	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	開発経済学A	2	開発経済学B	2
国際経済学A	2	国際経済学B	2	アメリカ経済論A	2	アメリカ経済論B	2	中国経済論	2
貿易論A	2	貿易論B	2	ヨーロッパ経済論	2	韓国経済論	2	国際金融論A	2
国際金融論B	2	経済政策A	2	経済政策B	2	社会政策A	2	社会政策B	2
金融論A	2	金融論B	2	財政学A	2	財政学B	2	環境経済学A	2
環境経済学B	2	農業経済論A	2	農業経済論B	2	労働経済学A	2	労働経済学B	2
経済変動論A	2	経済変動論B	2	社会保障論A	2	社会保障論B	2	金融機関論	2
公共経済学A	2	公共経済学B	2	産業組織論	2	社会福祉論	2	憲法A	2
憲法B	2	民法A	2	民法B	2	法学概論A	2	法学概論B	2
行政法A	2	行政法B	2	政治学	2	商法A	2	商法B	2
国際法A	2	国際法B	2	実践企画演習A	4	実践企画演習B	4	実践企画演習C	4
実践企画演習D	4	経営学A	2	経営学B	2	マーケティング論	2	海外研修	6
ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	初級簿記	4	商業簿記	4	工業簿記	4
会計学総論	2	情報処理演習(文書作成)	2	情報処理演習(表計算)	2	情報処理論A	2	情報処理論B	2
実践キャリア演習	2	先端技術産業論A	2	先端技術産業論B	2	心理学A	2	心理学B	2
哲学A	2	哲学B	2	倫理学概論	2	特講A	2	特講B	2
特講C	2	特講D	2	特講E	2	特講F	2	特講G	2
特講H	2	線形代数	2	データ分析の基礎	2	AI総論	2	AIプログラミング入門	2
経営情報システム概論	2	証券市場論	2	経営管理論A	2	経営管理論B	2	会計情報システム論	2
リスクの経済学A	2	リスクの経済学B	2	医療経済学A	2	医療経済学B	2	サービス経済論A	2
サービス経済論B	2	国際研究総合	2	金融研究総合	2	公共研究総合	2		

○国際クラスター

(1) 必修科目

経済学総合	2	国際研究総合	2
-------	---	--------	---

(2) 選択必修科目

経済学部へのいざない	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	情報処理入門	2	経済数学入門	2
九州学	2	データサイエンス入門	2	マクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	プレゼミナールⅠ	2
プレゼミナールⅡ	2	特別ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅡ	2	ミクロ経済学Ⅲ	2	マクロ経済学Ⅲ	2
ゲームの理論と社会	2	専門ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅢ	2	上級ミクロ経済学	2	経済原論A	2
専門ゼミナールⅡ	4	特別ゼミナールⅣ	4	上級マクロ経済学	2	経済原論B	2	卒業研究ゼミナール	4
卒業論文ゼミナール	8	特別ゼミナールⅤ	4						

(3) 選択科目

微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	統計学A	2	統計学B	2	統計学C	2
経済データ分析A	2	経済データ分析B	2	計量経済学A	2	計量経済学B	2	社会思想史A	2
社会思想史B	2	経済史A	2	経済史B	2	日本経済史A	2	日本経済史B	2
経済学史A	2	経済学史B	2	日本史A	2	日本史B	2	外国史A	2
外国史B	2	西洋経済史A	2	西洋経済史B	2	日本教育史	2	経済思想史	2
東洋経済史	2	日本近代史	2	西洋史	2	東洋史	2	人文地理学A	2
人文地理学B	2	自然地理学A	2	自然地理学B	2	地域研究概説A	2	地域研究概説B	2
社会調査論A	2	社会調査論B	2	地誌学A	2	地誌学B	2	地域経済論A	2
地域経済論B	2	地域開発論A	2	地域開発論B	2	中小企業論A	2	中小企業論B	2
地域調査実習	4	経済地理A	2	経済地理B	2	地方財政論A	2	地方財政論B	2
都市地理学	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	開発経済学A	2	開発経済学B	2
国際経済学A	2	国際経済学B	2	アメリカ経済論A	2	アメリカ経済論B	2	中国経済論	2
貿易論A	2	貿易論B	2	ヨーロッパ経済論	2	韓国経済論	2	国際金融論A	2
国際金融論B	2	経済政策A	2	経済政策B	2	社会政策A	2	社会政策B	2
金融論A	2	金融論B	2	財政学A	2	財政学B	2	環境経済学A	2
環境経済学B	2	農業経済論A	2	農業経済論B	2	労働経済学A	2	労働経済学B	2
経済変動論A	2	経済変動論B	2	社会保障論A	2	社会保障論B	2	金融機関論	2
公共経済学A	2	公共経済学B	2	産業組織論	2	社会福祉論	2	憲法A	2
憲法B	2	民法A	2	民法B	2	法学概論A	2	法学概論B	2
行政法A	2	行政法B	2	政治学	2	商法A	2	商法B	2
国際法A	2	国際法B	2	実践企画演習A	4	実践企画演習B	4	実践企画演習C	4
実践企画演習D	4	経営学A	2	経営学B	2	マーケティング論	2	海外研修	6
ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	初級簿記	4	商業簿記	4	工業簿記	4
会計学総論	2	情報処理演習(文書作成)	2	情報処理演習(表計算)	2	情報処理論A	2	情報処理論B	2
実践キャリア演習	2	先端技術産業論A	2	先端技術産業論B	2	心理学A	2	心理学B	2
哲学A	2	哲学B	2	倫理学概論	2	特講A	2	特講B	2
特講C	2	特講D	2	特講E	2	特講F	2	特講G	2
特講H	2	線形代数	2	データ分析の基礎	2	AI総論	2	AIプログラミング入門	2
経営情報システム概論	2	証券市場論	2	経営管理論A	2	経営管理論B	2	会計情報システム論	2
リスクの経済学A	2	リスクの経済学B	2	医療経済学A	2	医療経済学B	2	サービス経済論A	2
サービス経済論B	2	地域研究総合	2	金融研究総合	2	公共研究総合	2		

○金融クラスター

(1) 必修科目

経済学総合	2	金融研究総合	2
-------	---	--------	---

(2) 選択必修科目

経済学部へのいざない	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	情報処理入門	2	経済数学入門	2
九州学	2	データサイエンス入門	2	マクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	プレゼミナールⅠ	2
プレゼミナールⅡ	2	特別ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅡ	2	ミクロ経済学Ⅲ	2	マクロ経済学Ⅲ	2
ゲームの理論と社会	2	専門ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅢ	2	上級ミクロ経済学	2	経済原論A	2
専門ゼミナールⅡ	4	特別ゼミナールⅣ	4	上級マクロ経済学	2	経済原論B	2	卒業研究ゼミナール	4
卒業論文ゼミナール	8	特別ゼミナールⅤ	4						

(3) 選択科目

微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	統計学A	2	統計学B	2	統計学C	2
経済データ分析A	2	経済データ分析B	2	計量経済学A	2	計量経済学B	2	社会思想史A	2
社会思想史B	2	経済史A	2	経済史B	2	日本経済史A	2	日本経済史B	2
経済学史A	2	経済学史B	2	日本史A	2	日本史B	2	外国史A	2
外国史B	2	西洋経済史A	2	西洋経済史B	2	日本教育史	2	経済思想史	2
東洋経済史	2	日本近代史	2	西洋史	2	東洋史	2	人文地理学A	2
人文地理学B	2	自然地理学A	2	自然地理学B	2	地域研究概説A	2	地域研究概説B	2
社会調査論A	2	社会調査論B	2	地誌学A	2	地誌学B	2	地域経済論A	2
地域経済論B	2	地域開発論A	2	地域開発論B	2	中小企業論A	2	中小企業論B	2
地域調査実習	4	経済地理A	2	経済地理B	2	地方財政論A	2	地方財政論B	2
都市地理学	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	開発経済学A	2	開発経済学B	2
国際経済学A	2	国際経済学B	2	アメリカ経済論A	2	アメリカ経済論B	2	中国経済論	2
貿易論A	2	貿易論B	2	ヨーロッパ経済論	2	韓国経済論	2	国際金融論A	2
国際金融論B	2	経済政策A	2	経済政策B	2	社会政策A	2	社会政策B	2
金融論A	2	金融論B	2	財政学A	2	財政学B	2	環境経済学A	2
環境経済学B	2	農業経済論A	2	農業経済論B	2	労働経済学A	2	労働経済学B	2
経済変動論A	2	経済変動論B	2	社会保障論A	2	社会保障論B	2	金融機関論	2
公共経済学A	2	公共経済学B	2	産業組織論	2	社会福祉論	2	憲法A	2
憲法B	2	民法A	2	民法B	2	法学概論A	2	法学概論B	2
行政法A	2	行政法B	2	政治学	2	商法A	2	商法B	2
国際法A	2	国際法B	2	実践企画演習A	4	実践企画演習B	4	実践企画演習C	4
実践企画演習D	4	経営学A	2	経営学B	2	マーケティング論	2	海外研修	6
ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	初級簿記	4	商業簿記	4	工業簿記	4
会計学総論	2	情報処理演習(文書作成)	2	情報処理演習(表計算)	2	情報処理論A	2	情報処理論B	2
実践キャリア演習	2	先端技術産業論A	2	先端技術産業論B	2	心理学A	2	心理学B	2
哲学A	2	哲学B	2	倫理学概論	2	特講A	2	特講B	2
特講C	2	特講D	2	特講E	2	特講F	2	特講G	2
特講H	2	線形代数	2	データ分析の基礎	2	AI総論	2	AIプログラミング入門	2
経営情報システム概論	2	証券市場論	2	経営管理論A	2	経営管理論B	2	会計情報システム論	2
リスクの経済学A	2	リスクの経済学B	2	医療経済学A	2	医療経済学B	2	サービス経済論A	2
サービス経済論B	2	地域研究総合	2	国際研究総合	2	公共研究総合	2		

○公共クラスター

(1) 必修科目

経済学総合	2	公共研究総合	2
-------	---	--------	---

(2) 選択必修科目

経済学部へのいざない	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	情報処理入門	2	経済数学入門	2
九州学	2	データサイエンス入門	2	マクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	プレゼミナールⅠ	2
プレゼミナールⅡ	2	特別ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅡ	2	ミクロ経済学Ⅲ	2	マクロ経済学Ⅲ	2
ゲームの理論と社会	2	専門ゼミナールⅠ	2	特別ゼミナールⅢ	2	上級ミクロ経済学	2	経済原論A	2
専門ゼミナールⅡ	4	特別ゼミナールⅣ	4	上級マクロ経済学	2	経済原論B	2	卒業研究ゼミナール	4
卒業論文ゼミナール	8	特別ゼミナールⅤ	4						

(3) 選択科目

微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	統計学A	2	統計学B	2	統計学C	2
経済データ分析A	2	経済データ分析B	2	計量経済学A	2	計量経済学B	2	社会思想史A	2
社会思想史B	2	経済史A	2	経済史B	2	日本経済史A	2	日本経済史B	2
経済学史A	2	経済学史B	2	日本史A	2	日本史B	2	外国史A	2
外国史B	2	西洋経済史A	2	西洋経済史B	2	日本教育史	2	経済思想史	2
東洋経済史	2	日本近代史	2	西洋史	2	東洋史	2	人文地理学A	2
人文地理学B	2	自然地理学A	2	自然地理学B	2	地域研究概説A	2	地域研究概説B	2
社会調査論A	2	社会調査論B	2	地誌学A	2	地誌学B	2	地域経済論A	2
地域経済論B	2	地域開発論A	2	地域開発論B	2	中小企業論A	2	中小企業論B	2
地域調査実習	4	経済地理A	2	経済地理B	2	地方財政論A	2	地方財政論B	2
都市地理学	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	開発経済学A	2	開発経済学B	2
国際経済学A	2	国際経済学B	2	アメリカ経済論A	2	中国経済論	2	国際金融論	2
貿易論A	2	貿易論B	2	ヨーロッパ経済論	2	韓国経済論	2	国際金融論A	2
国際金融論B	2	経済政策A	2	経済政策B	2	社会政策A	2	社会政策B	2
金融論A	2	金融論B	2	財政学A	2	財政学B	2	環境経済学A	2
環境経済学B	2	農業経済論A	2	農業経済論B	2	労働経済学A	2	労働経済学B	2
経済変動論A	2	経済変動論B	2	社会保障論A	2	社会保障論B	2	金融機関論	2
公共経済学A	2	公共経済学B	2	産業組織論	2	社会福祉論	2	憲法A	2
憲法B	2	民法A	2	民法B	2	法学概論A	2	法学概論B	2
行政法A	2	行政法B	2	政治学	2	商法A	2	商法B	2
国際法A	2	国際法B	2	実践企画演習A	4	実践企画演習B	4	実践企画演習C	4
実践企画演習D	4	経営学A	2	経営学B	2	マーケティング論	2	海外研修	6
ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	初級簿記	4	商業簿記	4	工業簿記	4
会計学総論	2	情報処理演習(文書作成)	2	情報処理演習(表計算)	2	情報処理論A	2	情報処理論B	2
実践キャリア演習	2	先端技術産業論A	2	先端技術産業論B	2	心理学A	2	心理学B	2
哲学A	2	哲学B	2	倫理学概論	2	特講A	2	特講B	2
特講C	2	特講D	2	特講E	2	特講F	2	特講G	2
特講H	2	線形代数	2	データ分析の基礎	2	AI総論	2	AIプログラミング入門	2
経営情報システム概論	2	証券市場論	2	経営管理論A	2	経営管理論B	2	会計情報システム論	2
リスクの経済学A	2	リスクの経済学B	2	医療経済学A	2	医療経済学B	2	サービス経済論A	2
サービス経済論B	2	地域研究総合	2	国際研究総合	2	金融研究総合	2		

(二) 留学生に関する科目

(1) 日本語

アカデミック日本語(読む・書く)A	1	アカデミック日本語(読む・書く)B	1	アカデミック日本語(読む・書く)C	1	アカデミック日本語(読む・書く)D	1	アカデミック日本語(読む・書く)E	1
アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	アカデミック日本語(聞く・話す)C	1	アカデミック日本語(聞く・話す)D	1	アカデミック日本語(聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語(読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語(読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(2) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	教科指導法Ⅰ(社会)	2	教科指導法Ⅰ(地理歴史)	2	教科指導法Ⅰ(公民)	2
教科指導法Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2
特別な教育的ニーズの理解とその支援	2								

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第3

商学部経営・流通学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

○企業経営コース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	経営史	2	経営管理論史	2	人的資源管理論	2
経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2	経営管理論	2	生産管理論	2	事業開発論	2
ビジネス法	2	中小企業論	2	経営実践基礎論	4	ファイナンス入門	2	会計学入門	2

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	経営実践入門	4	生産システム論	2
ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2	日本経営史	2	現代経営史	2
技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2	ソーシャルビジネス演習	2	ファイナンス論	2
保険論	2	金融機関論	2	金融論	2	地域金融論	2	ファイナンシャル・プランニング	4
国内金融研修	2	金融政策論	2	資金調達論	2	証券市場論	2	中小企業金融論	2
リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2	パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2	国際金融論	2
初級簿記	4	中級簿記	4	工業簿記	4	上級簿記	4	会計演習A	2
会計演習B	2	会計演習C	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2
原価計算論	2	業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2
税務会計論	2	会計情報システム	2	流通入門	2	商業史	2	交通論	2
マーケティング論	2	人材マネジメント論	2	流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2
マーケティングリサーチ演習	2	流通政策論	2	小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2
流通史	2	ロジスティクス論	2	CSR論	2	マーケティング戦略論	2	国際ビジネス入門	2
システム論	2	経営管理総論	2	国際ビジネス事情	2	企業倫理学	2	組織論	2
国際経営論	2	国際マーケティング	2	国際経済論	2	異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2
国際経営戦略論	2	比較経営論	2	九州企業国際化事情	2	欧米ビジネス特殊講義	2	社会情報入門	2
データ分析の基礎	2	メディア心理学	2	コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2
eコマース論	2	情報セキュリティ論	2	データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2
マルチメディア演習	2	シミュレーション論	2	データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6
九州企業事情	2	九州企業研究A	2	九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2
九州と商業	2	九州とコンテンツ制作	2	九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4
経営実践演習	4	経営実践発展演習	4	九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2
国際ビジネス比較演習Ⅲ	2	在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2
マーケティング実践演習A(販売士3級)	2	情報特講Ⅰ	2	情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2
ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4	中小企業診断士入門	4	ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4
ファイナンス演習D(FP2級)	4	情報処理演習A(MOS Word)	4	情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	商業概論	2	職業指導	4				

○ファイナンスコース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	ファイナンス入門	2	ファイナンス論	2	保険論	2
金融機関論	2	金融論	2	地域金融論	2	ファイナンシャル・プランニング	4	会計学入門	2

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	経営実践入門	4	経営史	2
経営管理論史	2	人的資源管理論	2	経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2	経営管理論	2
生産管理論	2	事業開発論	2	ビジネス法	2	中小企業論	2	経営実践基礎論	4
生産システム論	2	ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2	日本経営史	2
現代経営史	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2	ソーシャルビジネス演習	2
国内金融研修	2	金融政策論	2	資金調達論	2	証券市場論	2	中小企業金融論	2
リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2	パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2	国際金融論	2
初級簿記	4	中級簿記	4	工業簿記	4	上級簿記	4	会計演習A	2
会計演習B	2	会計演習C	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2
原価計算論	2	業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2
税務会計論	2	会計情報システム	2	流通入門	2	商業史	2	交通論	2
マーケティング論	2	人材マネジメント論	2	流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2
マーケティングリサーチ演習	2	流通政策論	2	小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2
流通史	2	ロジスティクス論	2	CSR論	2	マーケティング戦略論	2	国際ビジネス入門	2
システム論	2	経営管理総論	2	国際ビジネス事情	2	企業倫理学	2	組織論	2
国際経営論	2	国際マーケティング	2	国際経済論	2	異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2
国際経営戦略論	2	比較経営論	2	九州企業国際化事情	2	欧米ビジネス特殊講義	2	社会情報入門	2
データ分析の基礎	2	メディア心理学	2	コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2
eコマース論	2	情報セキュリティ論	2	データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2
マルチメディア演習	2	シミュレーション論	2	データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6
九州企業事情	2	九州企業研究A	2	九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2
九州と商業	2	九州とコンテンツ制作	2	九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4
経営実践演習	4	経営実践発展演習	4	九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2
国際ビジネス比較演習Ⅲ	2	在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2
マーケティング実践演習A(販売士3級)	2	情報特講Ⅰ	2	情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2
ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4	中小企業診断士入門	4	ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4
ファイナンス演習D(FP2級)	4	情報処理演習A(MOS Word)	4	情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	商業概論	2	職業指導	4				

○会計コース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	ファイナンス入門	2	会計学入門	2	初級簿記	4
中級簿記	4	工業簿記	4	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	経営実践入門	4	経営史	2
経営管理論史	2	人的資源管理論	2	経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2	経営管理論	2
生産管理論	2	事業開発論	2	ビジネス法	2	中小企業論	2	経営実践基礎論	4
生産システム論	2	ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2	日本経営史	2
現代経営史	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2	ソーシャルビジネス演習	2
ファイナンス論	2	保険論	2	金融機関論	2	金融論	2	地域金融論	2
ファイナンシャル・プランニング	4	国内金融研修	2	金融政策論	2	資金調達論	2	証券市場論	2
中小企業金融論	2	リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2	パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2
国際金融論	2	上級簿記	4	会計演習A	2	会計演習B	2	会計演習C	2
原価計算論	2	業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2
税務会計論	2	会計情報システム	2	流通入門	2	商業史	2	交通論	2
マーケティング論	2	人材マネジメント論	2	流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2
マーケティングリサーチ演習	2	流通政策論	2	小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2
流通史	2	ロジスティクス論	2	CSR論	2	マーケティング戦略論	2	国際ビジネス入門	2
システム論	2	経営管理総論	2	国際ビジネス事情	2	企業倫理学	2	組織論	2
国際経営論	2	国際マーケティング	2	国際経済論	2	異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2
国際経営戦略論	2	比較経営論	2	九州企業国際化事情	2	欧米ビジネス特殊講義	2	社会情報入門	2
データ分析の基礎	2	メディア心理学	2	コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2
eコマース論	2	情報セキュリティ論	2	データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2
マルチメディア演習	2	シミュレーション論	2	データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6
九州企業事情	2	九州企業研究A	2	九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2
九州と商業	2	九州とコンテンツ制作	2	九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4
経営実践演習	4	経営実践発展演習	4	九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2
国際ビジネス比較演習Ⅲ	2	在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2
マーケティング実践演習A(販売士3級)	2	情報特講Ⅰ	2	情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2
ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4	中小企業診断士入門	4	ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4
ファイナンス演習D(FP2級)	4	情報処理演習A(MOS Word)	4	情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	商業概論	2	職業指導	4				

○マーケティングコース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	流通入門	2	商業史	2	交通論	2	マーケティング論	2
人材マネジメント論	2	流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2	マーケティングリサーチ演習	2
国際ビジネス入門	2	社会情報入門	2						

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	経営実践入門	4
経営史	2	経営管理論史	2	人的資源管理論	2	経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2
経営管理論	2	生産管理論	2	事業開発論	2	ビジネス法	2	中小企業論	2
経営実践基礎論	4	生産システム論	2	ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2
日本経営史	2	現代経営史	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2
ソーシャルビジネス演習	2	ファイナンス入門	2	ファイナンス論	2	保険論	2	金融機関論	2
金融論	2	地域金融論	2	ファイナンシャル・プランニング	4	国内金融研修	2	金融政策論	2
資金調達論	2	証券市場論	2	中小企業金融論	2	リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2
パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2	国際金融論	2	会計学入門	2	初級簿記	4
中級簿記	4	工業簿記	4	上級簿記	4	会計演習A	2	会計演習B	2
会計演習C	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2	原価計算論	2
業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2	税務会計論	2
会計情報システム	2	流通政策論	2	小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2
流通史	2	ロジスティクス論	2	CSR論	2	マーケティング戦略論	2	システム論	2
経営管理総論	2	国際ビジネス事情	2	企業倫理学	2	組織論	2	国際経営論	2
国際マーケティング	2	国際経済論	2	異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2	国際経営戦略論	2
比較経営論	2	九州企業国際化事情	2	欧米ビジネス特殊講義	2	データ分析の基礎	2	メディア心理学	2
コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2	eコマース論	2	情報セキュリティ論	2
データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2	マルチメディア演習	2	シミュレーション論	2
データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6	九州企業事情	2	九州企業研究A	2
九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2	九州と商業	2	九州とコンテンツ制作	2
九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4	経営実践演習	4	経営実践発展演習	4
九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2	国際ビジネス比較演習Ⅲ	2	在外研修	4
アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	マーケティング実践演習A(販売士3級)	2	情報特講Ⅰ	2
情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2	ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4	中小企業診断士入門	4
ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4	情報処理演習A(MOS Word)	4
情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4	情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	商業概論	2
職業指導	4								

○国際ビジネスコース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	流通入門	2	国際ビジネス入門	2	システム論	2	経営管理総論	2
国際ビジネス事情	2	企業倫理学	2	組織論	2	国際経営論	2	国際マーケティング	2
国際経済論	2	社会情報入門	2						

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	経営実践入門	4
経営史	2	経営管理論史	2	人的資源管理論	2	経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2
経営管理論	2	生産管理論	2	事業開発論	2	ビジネス法	2	中小企業論	2
経営実践基礎論	4	生産システム論	2	ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2
日本経営史	2	現代経営史	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2
ソーシャルビジネス演習	2	ファイナンス入門	2	ファイナンス論	2	保険論	2	金融機関論	2
金融論	2	地域金融論	2	ファイナンシャル・プランニング	4	国内金融研修	2	金融政策論	2
資金調達論	2	証券市場論	2	中小企業金融論	2	リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2
パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2	国際金融論	2	会計学入門	2	初級簿記	4
中級簿記	4	工業簿記	4	上級簿記	4	会計演習A	2	会計演習B	2
会計演習C	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2	原価計算論	2
業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2	税務会計論	2
会計情報システム	2	商業史	2	交通論	2	マーケティング論	2	人材マネジメント論	2
流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2	マーケティングリサーチ演習	2	流通政策論	2
小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2	流通史	2	ロジスティクス論	2
CSR論	2	マーケティング戦略論	2	異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2	国際経営戦略論	2
比較経営論	2	九州企業国際化事情	2	欧米ビジネス特殊講義	2	データ分析の基礎	2	メディア心理学	2
コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2	eコマース論	2	情報セキュリティ論	2
データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2	マルチメディア演習	2	シミュレーション論	2
データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6	九州企業事情	2	九州企業研究A	2
九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2	九州と商業	2	九州とコンテンツ制作	2
九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4	経営実践演習	4	経営実践発展演習	4
九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2	国際ビジネス比較演習Ⅲ	2	在外研修	4
アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	マーケティング実践演習A(販売士3級)	2	情報特講Ⅰ	2
情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2	ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4	中小企業診断士入門	4
ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4	情報処理演習A(MOS Word)	4
情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4	情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	商業概論	2
職業指導	4								

○社会情報コース

(イ) 選択必修科目

経営学入門	2	経済学入門	2	簿記論	2	マーケティング入門	2	企業論入門	2
情報リテラシー入門	2	流通入門	2	国際ビジネス入門	2	社会情報入門	2	データ分析の基礎	2
メディア心理学	2	コンピュータ概論	2	表計算演習	2	情報ネットワーク論	2	eコマース論	2
情報セキュリティ論	2								

(ロ) 選択科目

コース入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業論文ゼミナール	8	特別講義A	2
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2	ビジネススキル入門(ビジネス能力検定3級)	2	経営実践入門	4
経営史	2	経営管理論史	2	人的資源管理論	2	経営戦略論	2	ベンチャービジネス論	2
経営管理論	2	生産管理論	2	事業開発論	2	ビジネス法	2	中小企業論	2
経営実践基礎論	4	生産システム論	2	ビジネスケース分析	2	ビジネスシミュレーション	2	人的資源管理演習	2
日本経営史	2	現代経営史	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営組織論	2
ソーシャルビジネス演習	2	ファイナンス入門	2	ファイナンス論	2	保険論	2	金融機関論	2
金融論	2	地域金融論	2	ファイナンシャル・プランニング	4	国内金融研修	2	金融政策論	2
資金調達論	2	証券市場論	2	中小企業金融論	2	リスクマネジメント論	2	コーポレートファイナンス論	2
パーソナルファイナンス論	2	ベンチャーファイナンス論	2	国際金融論	2	会計学入門	2	初級簿記	4
中級簿記	4	工業簿記	4	上級簿記	4	会計演習A	2	会計演習B	2
会計演習C	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2	財務諸表分析	2	原価計算論	2
業種別会計実務A	2	業種別会計実務B	2	財務会計論	2	管理会計論	2	税務会計論	2
会計情報システム	2	商業史	2	交通論	2	マーケティング論	2	人材マネジメント論	2
流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティングリサーチ論	2	マーケティングリサーチ演習	2	流通政策論	2
小売マーケティング論	2	消費者行動論	2	広告論	2	流通史	2	ロジスティクス論	2
CSR論	2	マーケティング戦略論	2	システム論	2	経営管理総論	2	国際ビジネス事情	2
企業倫理学	2	組織論	2	国際経営論	2	国際マーケティング	2	国際経済論	2
異文化マネジメント	2	ビジネスイングリッシュ	2	国際経営戦略論	2	比較経営論	2	九州企業国際化事情	2
欧米ビジネス特殊講義	2	データ分析	2	データ分析の応用	2	マルチメディア論	2	マルチメディア演習	2
シミュレーション論	2	データベース論	2	キャリア演習(入門)	2	キャリア演習(実践)	6	九州企業事情	2
九州企業研究A	2	九州企業研究B	2	九州とインターネットビジネスⅠ	2	九州とインターネットビジネスⅡ	2	九州と商業	2
九州とコンテンツ制作	2	九州企業と経営戦略	2	九州金融ビジネス	2	九州とマーケティング	4	経営実践演習	4
経営実践発展演習	4	九州企業経営分析演習	4	国際ビジネス比較演習Ⅰ	2	国際ビジネス比較演習Ⅱ	2	国際ビジネス比較演習Ⅲ	2
在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	マーケティング実践演習A(販売士3級)	2
情報特講Ⅰ	2	情報特講Ⅱ	2	マーケティング実践演習B(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2	ビジネス演習B(ビジネスコーチング)	4
中小企業診断士入門	4	ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4
情報処理演習A(MOS Word)	4	情報処理演習B(MOS Excel)	4	情報処理演習C(MOS Access)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4	情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4
商業概論	2	職業指導	4						

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
情報リテラシー	2	農業経済論A	2	地域マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2
観光データサイエンス	2	広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2
健康心理学	2	基礎数学	2	基礎化学Ⅰ	2	生物学	2	食品科学	2
食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2	地域食産業論	2	水産マーケティング論	2
フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論A	2	プレゼンテーション入門	2
ビジネス英語	2	国際関係論	2	アジア文化論	2	アジア経済論B	2	ビジュアル英語	2
現代アジア事情	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2	地域ブランド企画演習Ⅰ	4
業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランディング演習	4	Webデザイン演習	4	空間設計概論	2
地域ブランド企画論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2	ファイナンス入門	2	会計学入門	2
簿記論	2	企業論入門	2	国際ビジネス入門	2	社会情報入門	2	流通入門	2
流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2	eコマース論	2	流通システム論	2
国際マーケティング	2	国際経営論	2	国際ビジネス事情	2	事業開発論	2	ベンチャービジネス論	2
経営戦略論	2	マーケティングリサーチ論	2	ビジネスシミュレーション	2	小売マーケティング論	2	ロジスティクス論	2
マルチメディア論	2	マーケティング戦略論	2	九州企業国際化事情	2	異文化マネジメント	2	国際経営戦略	2

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語(読む・書く)A	1	アカデミック日本語(読む・書く)B	1	アカデミック日本語(読む・書く)C	1	アカデミック日本語(読む・書く)D	1	アカデミック日本語(読む・書く)E	1
アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	アカデミック日本語(聞く・話す)C	1	アカデミック日本語(聞く・話す)D	1	アカデミック日本語(聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語(読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語(読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	商業科教育法	4	教科指導法Ⅰ(商業)	2
学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第4 削除

別表第5

地域共創学部の特設科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 観光学科

○ホスピタリティ・ビジネスコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

観光学入門	2	ロジカルライティング入門	2	情報リテラシー	2	会計学入門	2	経営学入門	2
経済学入門	2	マーケティング入門	2	旅行地理入門	2	現代社会理論	2	観光調査法	2

(ハ) 選択科目

異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル入門	2	クリティカルシンキング	2	九州産業論	2	九州とアジアの文化交流	2
トラベル英語	2	ビジネス英語	2	トラベル中国語	2	ビジネス中国語	2	トラベル韓国語	2
ビジネス韓国語	2	キャリアデザイン	2	プレゼンテーション入門	2	観光・地域プロジェクトA	2	観光・地域プロジェクトB	2
特別講座A	2	特別講座B	2	アジア経済論	2	ビジュアル英語	2	ビジュアル中国語	2
ビジュアル韓国語	2	観光地域事業プロジェクトⅠ	2	観光地域事業プロジェクトⅡ	2	SDGs貢献プロジェクトⅠ	2	SDGs貢献プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光地域振興プロジェクトⅠ	2	観光地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	プレゼミナール	2	旅行検定講座Ⅰ	2	旅行検定講座Ⅱ	2	法学概論Ⅰ	2
法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	地域共創ゼミナール	4	就業体験入門	2	地域社会調査の基礎	2	地域社会調査の設計	2
地域社会データの分析	2	質的調査の方法	2	国内観光研修A	2	国内観光研修B	2	国外観光研修A	2
国外観光研修B	4	国外観光研修C	4	国外観光研修D	2	自然地理学	4	人文地理学	4
地誌学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	哲学	4
旅行検定講座Ⅲ	2	旅行検定講座Ⅳ	2	卒業研究ゼミナールⅠ	4	観光インターンシップ	6	観光データサイエンス	2
観光交通論	2	観光英語検定Ⅰ	2	観光英語検定Ⅱ	2	検定中国語	2	検定韓国語	2
ビジネス倫理とリスクマネジメント	2	量的調査の方法	2	外国史	4	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2
倫理学概論	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	観光心理学	2	ホスピタリティ・ビジネス論	2	旅行産業論	2
ホテルマネジメント	2	エアラインビジネス論	2	世界遺産論	2	中国の現代社会	2	韓国の現代社会	2
観光マーケティング論	2	おもてなしサービス演習	2	旅行ビジネス演習	2	ブライダルビジネス	2	ホスピタリティビジネス演習	2
サービスマネジメント	2	国際観光論	2	観光・地域ICT論	2	フードツーリズム論	2	観光経済論	2
観光史	2	地域マーケティング論	2	地域観光論	2	まち歩き企画論	2	まち歩き企画実践演習	2
観光政策論	2	地域活性化システム論	2	観光地理学	2	観光社会学	2	観光まちデザイン論	2
コミュニティ・ビジネス論	2	地域インバウンドツーリズム	2	地域景観論	2	地域デジタルマーケティング	2	広告実践論	2
宗教と観光	2								

○観光地域デザインコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

観光学入門	2	ロジカルライティング入門	2	情報リテラシー	2	会計学入門	2	経営学入門	2
経済学入門	2	マーケティング入門	2	旅行地理入門	2	現代社会理論	2	観光調査法	2

(ハ) 選択科目

異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル入門	2	クリティカルシンキング	2	九州産業論	2	九州とアジアの文化交流	2
トラベル英語	2	ビジネス英語	2	トラベル中国語	2	ビジネス中国語	2	トラベル韓国語	2
ビジネス韓国語	2	キャリアデザイン	2	プレゼンテーション入門	2	観光・地域プロジェクトA	2	観光・地域プロジェクトB	2
特別講座A	2	特別講座B	2	アジア経済論	2	ビジュアル英語	2	ビジュアル中国語	2
ビジュアル韓国語	2	観光地域事業プロジェクトⅠ	2	観光地域事業プロジェクトⅡ	2	SDGs貢献プロジェクトⅠ	2	SDGs貢献プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光地域振興プロジェクトⅠ	2	観光地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	プレゼミナール	2	旅行検定講座Ⅰ	2	旅行検定講座Ⅱ	2	法学概論Ⅰ	2
法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	地域共創ゼミナール	4	就業体験入門	2	地域社会調査の基礎	2	地域社会調査の設計	2
地域社会データの分析	2	質的調査の方法	2	国内観光研修A	2	国内観光研修B	2	国外観光研修A	2
国外観光研修B	4	国外観光研修C	4	国外観光研修D	2	自然地理学	4	人文地理学	4
地誌学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	哲学	4
旅行検定講座Ⅲ	2	旅行検定講座Ⅳ	2	卒業研究ゼミナールⅠ	4	観光インターンシップ	6	観光データサイエンス	2
観光交通論	2	観光英語検定Ⅰ	2	観光英語検定Ⅱ	2	検定中国語	2	検定韓国語	2
ビジネス倫理とリスクマネジメント	2	量的調査の方法	2	外国史	4	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2
倫理学概論	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	観光心理学	2	ホスピタリティ・ビジネス論	2	旅行産業論	2
ホテルマネジメント	2	エアラインビジネス論	2	世界遺産論	2	中国の現代社会	2	韓国の現代社会	2
観光マーケティング論	2	おもてなしサービス演習	2	旅行ビジネス演習	2	ブライダルビジネス	2	ホスピタリティビジネス演習	2
サービスマネジメント	2	国際観光論	2	観光・地域ICT論	2	フードツーリズム論	2	観光経済論	2
観光史	2	地域マーケティング論	2	地域観光論	2	まち歩き企画論	2	まち歩き企画実践演習	2
観光政策論	2	地域活性化システム論	2	観光地理学	2	観光社会学	2	観光まちデザイン論	2
コミュニティ・ビジネス論	2	地域インバウンドツーリズム	2	地域景観論	2	地域デジタルマーケティング	2	広告実践論	2
宗教と観光	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記論	2	農業経済論A	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2
マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2	ビジネスコミュニケーション	2	小売マーケティング論	2
ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2	マーケティング戦略論	2	ビジネスシステム論	2
健康心理学	2	基礎数学	2	基礎化学Ⅰ	2	生物学	2	食品科学	2
食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2	地域食産業論	2	水産マーケティング論	2
アジア経済論A	2	国際関係論	2	アジア文化論	2	アジア経済論B	2	九州企業国際化事情	2
現代アジア事情	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2	地域ブランド企画演習Ⅰ	4
業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランディング演習	4	Webデザイン演習	4	空間設計概論	2
地域ブランド企画論	2	観光学入門	2	九州地域学	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	情報リテラシー	2	会計学入門	2	地域共創論	2
九州産業論	2	プレゼンテーション入門	2	観光調査法	2	地域マーケティング論	2	地域観光論	2
観光政策論	2	ビジネス英語	2	観光データサイエンス	2	広告実践論	2	コミュニティ・ビジネス論	2
地域デジタルマーケティング	2	フードツーリズム論	2	地域インバウンドツーリズム	2	ビジュアル英語	2		

(2) 地域づくり学科

○地域行政コース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

地域行政入門	2	地域マネジメント入門	2	ロジカルライティング入門	2	情報リテラシー	2	法学概論Ⅰ	2
法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	現代情報・メディア論	2	憲法Ⅰ	2	憲法Ⅱ	2	地域資源論	2

(ハ) 選択科目

異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル入門	2	クリティカルシンキング	2	九州産業論	2	九州とアジアの文化交流	2
トラベル英語	2	ビジネス英語	2	トラベル中国語	2	ビジネス中国語	2	トラベル韓国語	2
ビジネス韓国語	2	キャリアデザイン	2	プレゼンテーション入門	2	観光・地域プロジェクトA	2	観光・地域プロジェクトB	2
特別講座A	2	特別講座B	2	アジア経済論	2	ビジュアル英語	2	ビジュアル中国語	2
ビジュアル韓国語	2	観光地域事業プロジェクトⅠ	2	観光地域事業プロジェクトⅡ	2	SDGs貢献プロジェクトⅠ	2	SDGs貢献プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光地域振興プロジェクトⅠ	2	観光地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	プレゼミナール	2	福岡の歴史	2	経営学入門	2	経済学入門	2
マーケティング入門	2	就業体験入門	2	地域共創ゼミナール	4	政治学	2	行政学	2
市民活動論	2	人文地理学	4	自然地理学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2
社会学Ⅱ	2	地域キャリア演習	2	国際関係論	2	地域行政特講Ⅰ	2	地域行政特講Ⅱ	2
卒業研究ゼミナールⅠ	4	倫理学概論	2	地誌学	4	哲学	4	心理学	4
外国史	4	社会学特講Ⅰ	2	社会学特講Ⅱ	2	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2
地域行政特講Ⅲ	2	地域行政特講Ⅳ	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	民法Ⅰ	2	民法Ⅱ	2
地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	応用ミクロ経済学	2
経済政策	2	地域行政演習基礎	2	行政法Ⅰ	2	行政法Ⅱ	2	地方自治法	2
刑法	2	地方自治論Ⅰ	2	地方自治論Ⅱ	2	社会政策	2	少子高齢化論	2
財政学	2	地域行政演習Ⅰ	2	地域行政演習Ⅱ	2	地域行政演習Ⅲ	2	地域行政演習Ⅳ	2
地域産業論	2	地域サービス産業論	2	地域流通業論	2	組織マネジメント論	2	マーケティング	2
地域メディア論	2	祭礼文化論	2	地域社会調査の基礎	2	地域社会調査の設計	2	地域社会データの分析	2
質的調査の方法	2	地域農業産業論	2	水産マーケティング論	2	地域食産業論	2	戦略マネジメント論	2
ビジネスシステム論	2	観光・地域ICT論	2	地域企業分析論	2	企業と社会	2	広報・PR論	2
広告実践論	2	都市防災学	2	多文化共生論	2	量的調査の方法	2		

○地域マネジメントコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

地域行政入門	2	地域マネジメント入門	2	ロジカルライティング入門	2	情報リテラシー	2	法学概論Ⅰ	2
法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	現代情報・メディア論	2	憲法Ⅰ	2	憲法Ⅱ	2	地域資源論	2

(ハ) 選択科目

異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル入門	2	クリティカルシンキング	2	九州産業論	2	九州とアジアの文化交流	2
トラベル英語	2	ビジネス英語	2	トラベル中国語	2	ビジネス中国語	2	トラベル韓国語	2
ビジネス韓国語	2	キャリアデザイン	2	プレゼンテーション入門	2	観光・地域プロジェクトA	2	観光・地域プロジェクトB	2
特別講座A	2	特別講座B	2	アジア経済論	2	ビジュアル英語	2	ビジュアル中国語	2
ビジュアル韓国語	2	観光地域事業プロジェクトⅠ	2	観光地域事業プロジェクトⅡ	2	SDGs貢献プロジェクトⅠ	2	SDGs貢献プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光地域振興プロジェクトⅠ	2	観光地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	プレゼミナール	2	福岡の歴史	2	経営学入門	2	経済学入門	2
マーケティング入門	2	就業体験入門	2	地域共創ゼミナール	4	政治学	2	行政学	2
市民活動論	2	人文地理学	4	自然地理学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2
社会学Ⅱ	2	地域キャリア演習	2	国際関係論	2	地域行政特講Ⅰ	2	地域行政特講Ⅱ	2
卒業研究ゼミナールⅠ	4	倫理学概論	2	地誌学	4	哲学	4	心理学	4
外国史	4	社会学特講Ⅰ	2	社会学特講Ⅱ	2	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2
地域行政特講Ⅲ	2	地域行政特講Ⅳ	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	民法Ⅰ	2	民法Ⅱ	2
地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	応用ミクロ経済学	2
経済政策	2	地域行政演習基礎	2	行政法Ⅰ	2	行政法Ⅱ	2	地方自治法	2
刑法	2	地方自治論Ⅰ	2	地方自治論Ⅱ	2	社会政策	2	少子高齢化論	2
財政学	2	地域行政演習Ⅰ	2	地域行政演習Ⅱ	2	地域行政演習Ⅲ	2	地域行政演習Ⅳ	2
地域産業論	2	地域サービス産業論	2	地域流通業論	2	組織マネジメント論	2	マーケティング	2
地域メディア論	2	祭礼文化論	2	地域社会調査の基礎	2	地域社会調査の設計	2	地域社会データの分析	2
質的調査の方法	2	地域農業産業論	2	水産マーケティング論	2	地域食産業論	2	戦略マネジメント論	2
ビジネスシステム論	2	観光・地域ICT論	2	地域企業分析論	2	企業と社会	2	広報・PR論	2
広告実践論	2	都市防災学	2	多文化共生論	2	量的調査の方法	2		

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	会計学入門	2	簿記論	2	農業経済論A	2	流通ビジネス論	2
財務諸表分析	2	マーケティング論	2	地域マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2
ビジネスシミュレーション	2	小売マーケティング論	2	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2
マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
基礎数学	2	基礎化学Ⅰ	2	生物学	2	食品科学	2	食品衛生学	2
微生物学	2	6次産業化概論	2	フードツーリズム論	2	アジア経済論A	2	アジア文化論	2
アジア経済論B	2	九州企業国際化事情	2	現代アジア事情	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2
ソーシャルデザイン概論	2	地域ブランド企画演習Ⅰ	4	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランディング演習	4
Webデザイン演習	4	空間設計概論	2	地域ブランド企画論	2	九州地域学	2	異文化コミュニケーション論	2
クリティカルシンキング	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2	情報リテラシー	2	地域共創論	2
ビジネス英語	2	プレゼンテーション入門	2	地域資源論	2	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2
国際関係論	2	地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2	経済政策	2	地域産業論	2
地域サービス産業論	2	地域流通業論	2	地域メディア論	2	ビジュアル英語	2	社会政策	2
地域農業産業論	2	水産マーケティング論	2	地域食産業論	2	戦略マネジメント論	2	ビジネスシステム論	2
地域企業分析論	2	広報・PR論	2	広告実践論	2	多文化共生論	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	アカデミック日本語 (読む・書く)C	1	アカデミック日本語 (読む・書く)D	1	アカデミック日本語 (読む・書く)E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
公民科教育法	4	教科指導法Ⅰ(社会)	2	教科指導法Ⅰ(公民)	2	教科指導法Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6

理工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 情報科学科

○情報技術コース

(イ) 必修科目

情報リテラシー	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	情報科学基礎演習	2	プログラミング基礎Ⅱ	2
基礎数学	2	計算機構成論Ⅰ	2	モバイルプログラミング演習	2	計算機構成論Ⅱ	2	ハードウェア設計Ⅰ	2
AIプログラミング演習	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	ハードウェア設計Ⅱ	2	ハードウェア実験Ⅰ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ演習	2
情報科学演習Ⅰ	2	情報科学演習Ⅱ	2	卒業研究	6				

(ロ) 選択科目

電気工学概論	2	基礎物理	2	機械工学概論	2	日本語表現法	2	技術者倫理	2
物理学	2	現代自然科学	2	線形代数Ⅰ	2	離散数学Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅱ	2	離散数学Ⅱ	2	解析幾何学	2	微分積分Ⅱ	2	離散数学Ⅲ	2
情報理論・確率論	2	確率統計	2	ベクトル解析	2	離散数学Ⅳ	2	統計学	2
微分方程式	2	初等幾何学	2	複素解析	2	微分幾何学Ⅰ	2	位相幾何学Ⅰ	2
代数学Ⅰ	2	微分幾何学Ⅱ	2	位相幾何学Ⅱ	2	代数学Ⅱ	2	数値解析学	2
位相空間論	2	関数解析学	2	プログラミング言語とコンパイラ	2	コンピュータネットワーク	2	データベース	2
モデリングとシミュレーション	2	オペレーティングシステム	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	ハードウェア実験Ⅱ	2	ハードウェア設計Ⅲ	2
オブジェクト指向設計	2	信号処理	2	計算モデル論	2	情報セキュリティ	2	パターン認識と機械学習	2
コンピュータグラフィックス基礎	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	知能情報システム論	2	交通システム論	2	アルゴリズム論	2
コンピュータグラフィックス応用	2	経営情報学	2	マルチメディア	2	ソフトウェア工学	2	知的財産権	2
金融システム論	2	流通システム論	2	工業デザイン	2	計画と管理	2	情報と職業	2
ゲームプログラミング演習	2	組込みソフトウェア演習	2	情報処理技術Ⅰ	2	グラフィックスプログラミング演習	2	クラウドプログラミング演習	2
情報処理技術Ⅱ	2	プロジェクトデザイン管理	4	Webプログラミング演習	2	インターンシップ	2	ゼミナール・サポーター	2
実践情報科学演習	2								

○情報数理コース

(イ) 必修科目

情報リテラシー	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	情報科学基礎演習	2	プログラミング基礎Ⅱ	2
基礎数学	2	線形代数Ⅰ	2	離散数学Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2	離散数学Ⅱ	2
確率統計	2	初等幾何学	2	計算機構成論Ⅰ	2	モバイルプログラミング演習	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2
情報科学演習Ⅰ	2	情報科学演習Ⅱ	2	卒業研究	6				

(ロ) 選択科目

電気工学概論	2	基礎物理	2	機械工学概論	2	日本語表現法	2	技術者倫理	2
物理学	2	現代自然科学	2	線形代数Ⅱ	2	解析幾何学	2	微分積分Ⅱ	2
離散数学Ⅲ	2	情報理論・確率論	2	ベクトル解析	2	離散数学Ⅳ	2	統計学	2
微分方程式	2	複素解析	2	微分幾何学Ⅰ	2	位相幾何学Ⅰ	2	代数学Ⅰ	2
微分幾何学Ⅱ	2	位相幾何学Ⅱ	2	代数学Ⅱ	2	数値解析学	2	位相空間論	2
関数解析学	2	計算機構成論Ⅱ	2	ハードウェア設計Ⅰ	2	AIプログラミング演習	2	プログラミング言語とコンパイラ	2
コンピュータネットワーク	2	ハードウェア設計Ⅱ	2	ハードウェア実験Ⅰ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ演習	2	データベース	2
モデリングとシミュレーション	2	オペレーティングシステム	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	ハードウェア実験Ⅱ	2	ハードウェア設計Ⅲ	2
オブジェクト指向設計	2	信号処理	2	計算モデル論	2	情報セキュリティ	2	パターン認識と機械学習	2
コンピュータグラフィックス基礎	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	知能情報システム論	2	交通システム論	2	アルゴリズム論	2
コンピュータグラフィックス応用	2	経営情報学	2	マルチメディア	2	ソフトウェア工学	2	知的財産権	2
金融システム論	2	流通システム論	2	工業デザイン	2	計画と管理	2	情報と職業	2
ゲームプログラミング演習	2	組込みソフトウェア演習	2	情報処理技術Ⅰ	2	グラフィックスプログラミング演習	2	クラウドプログラミング演習	2
情報処理技術Ⅱ	2	プロジェクトデザイン管理	4	Webプログラミング演習	2	インターンシップ	2	ゼミナール・サポーター	2
実践情報科学演習	2								

(2) 機械工学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	物理実験	2	線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2
工業力学	2	コンピュータリテラシー	2	プログラミング入門	2	材料力学Ⅰ	2	機械材料	2
機械製図Ⅰ	2	機械製図Ⅱ	2	微分方程式	2	メカトロニクス	2	材料力学Ⅱ	2
流体力学Ⅰ	2	流体力学Ⅱ	2	熱力学Ⅰ	2	熱力学Ⅱ	2	機械力学Ⅰ	2
機械工作実習	2	機械工作法Ⅰ	2	機械CADⅠ	2	機械工学実験Ⅰ	2	機械・ロボット設計Ⅰ	2
設計製図	2	機械工学実験Ⅱ	2	キャリア開発演習	2	卒業研究	6		

(ロ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	微分積分演習	2	解析幾何学	2	技術者倫理	2	エンジニアスキルⅠ	2
エンジニアスキルⅡ	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	はじめての電気工学	2	図学	2	微分積分Ⅱ	2
物理学	2	工業数学	2	知的財産権	2	工業概論	2	ロボティクス	2
AIプログラミング演習	2	流体力学演習	2	熱力学演習	2	機械工作法Ⅱ	2	機械CADⅡ	2
機構学	2	職業指導	4	プロジェクトデザイン管理	4	インターンシップ	2	エンジニアリング演習	2
制御工学	2	モータ制御	2	センサ工学	2	計算機システム	2	AIリテラシー	2
熱機関	2	伝熱工学	2	材料強度学	2	流体機械	2	自動車工学	2
機械力学Ⅱ	2	機械・ロボット設計Ⅱ	2	機械工学シミュレーション	2	工作機械	2	品質管理Ⅰ	2
品質管理Ⅱ	2								

(3) 電気工学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	微分積分Ⅰ	2	線形代数Ⅰ	2	電気数学	2
電気回路Ⅰ	2	資源エネルギー概論	2	情報リテラシー	2	プログラミング入門	2	AI入門	2
電気工学基礎	2	電気工学導入演習	2	物理実験	2	電気回路Ⅱ	2	電子回路Ⅰ	2
電磁気学Ⅰ	2	電磁気学Ⅱ	2	電気電子計測Ⅰ	2	電子物性Ⅰ	2	制御工学Ⅰ	2
論理回路	2	電気エネルギー概論	2	通信理論	2	電気基礎実験Ⅰ	2	電気基礎実験Ⅱ	2
卒業研究	6								

(ロ) 選択必修科目

電気工学実験Ⅰ	2	電気工学実験Ⅱ	2	情報通信工学実験Ⅰ	2	情報通信工学実験Ⅱ	2
---------	---	---------	---	-----------	---	-----------	---

(ハ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	物理学Ⅰ	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	微分方程式	2
物理学Ⅱ	2	数値計算法	2	電気回路Ⅲ	2	電子回路Ⅱ	2	デジタルシステム概論	2
AI応用	2	電気工学演習Ⅰ	2	電気工事实習	2	工業概論	2	電子物性Ⅱ	2
半導体デバイス工学	2	電磁気学Ⅲ	2	電気電子計測Ⅱ	2	制御工学Ⅱ	2	パワーデバイス工学	2
超伝導工学	2	インターンシップ	2	電気工学演習Ⅱ	2	電気CAD	2	技術者倫理	2
プロジェクトデザイン管理	4	職業指導	4	電気機器Ⅰ	2	電気機器Ⅱ	2	電力発生変換工学Ⅰ	2
電力発生変換工学Ⅱ	2	電力システム工学Ⅰ	2	電力システム工学Ⅱ	2	高電圧工学	2	パワーエレクトロニクス	2
電気法規及び施設管理	2	情報通信工学	2	電磁波工学	2	通信システム工学Ⅰ	2	通信システム工学Ⅱ	2
情報ネットワーク	2	デジタル信号処理	2	シミュレーション工学	2	通信法規及び施設管理	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	アカデミック日本語 (読む・書く)C	1	アカデミック日本語 (読む・書く)D	1	アカデミック日本語 (読む・書く)E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	教科教育法	4
情報科教育法	4	工業科教育法	4	教科指導法Ⅰ(数学)	2	教科指導法Ⅰ(情報)	2	教科指導法Ⅰ(工業)	2
教科指導法Ⅱ(数学)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2
特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2								

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6の2

生命科学部生命科学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

○応用化学コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎生物学	2	生物学	2	環境科学	2	基礎化学Ⅰ	2
基礎化学Ⅱ	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	生命科学導入実験	2	生化学Ⅰ	2
無機化学Ⅰ	2	無機化学Ⅱ	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	物理化学Ⅰ	2
物理化学Ⅱ	2	分析化学Ⅰ	2	分析化学Ⅱ	2	化学基礎実験 (コンピュータ活用を含む)	2	薬学Ⅰ	2
応用化学実験Ⅰ	2	ブレ卒研ゼミナール	2	卒研ゼミナールⅠ	2	卒研ゼミナールⅡ	2	卒業研究	6

(ロ) 選択必修科目

応用化学実験Ⅱ	2	生命科学応用実験	2	食品科学実験	2
---------	---	----------	---	--------	---

(ハ) 選択科目

基礎物理	2	物理学Ⅰ	2	地球科学Ⅰ	2	地球科学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2
物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微積分学	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微生物学	2	化学数学	2
分子生物学Ⅰ	2	生化学Ⅱ	2	分子生物学Ⅱ	2	医用工学	2	食品衛生学	2
高分子化学Ⅰ	2	プログラミング入門	2	キャリア演習(実践)	2	化粧品基礎科学	2	生体工学	2
科学英語	2	化粧品機能学	2	薬学Ⅱ	2	化粧品製剤学	2	無機化学Ⅲ	2
有機化学Ⅲ	2	物理化学Ⅲ	2	高分子化学Ⅱ	2	医療材料	2	化学と安全	2
高分子材料	2	水質環境化学	2	機器分析	2	無機機能材料	2	有機機能材料	2
複合材料	2								

○生命科学コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎生物学	2	基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	生物学	2
環境科学	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	生命科学導入実験	2	無機化学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2	物理化学Ⅰ	2	分析化学Ⅰ	2	栄養化学	2	生化学Ⅰ	2
分子生物学Ⅰ	2	生化学Ⅱ	2	分子生物学Ⅱ	2	解剖生理学	2	生物科学基礎実験 (コンピュータ活用を含む)	2
薬学Ⅰ	2	ブレ卒研ゼミナール	2	卒研ゼミナールⅠ	2	卒研ゼミナールⅡ	2	卒業研究	6

(ロ) 選択必修科目

応用化学実験Ⅱ	2	生命科学応用実験	2	食品科学実験	2
---------	---	----------	---	--------	---

(ハ) 選択科目

基礎物理	2	物理学Ⅰ	2	地球科学Ⅰ	2	地球科学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2
微積分学	2	物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微生物学	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	植物学	2
化学数学	2	食品科学	2	無機化学Ⅱ	2	有機化学Ⅱ	2	分析化学Ⅱ	2
高分子化学Ⅰ	2	食品衛生学	2	医学概論	2	医用工学	2	細胞生物学	2
プログラミング入門	2	キャリア演習(実践)	2	食品機能学	2	食品分析学	2	高分子化学Ⅱ	2
科学英語	2	水質環境化学	2	医療材料	2	細胞工学	2	遺伝子工学	2
化粧品機能学	2	化粧品基礎科学	2	生体工学	2	薬学Ⅱ	2	化粧品製剤学	2
機器分析	2								

○食品科学コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	環境科学	2	基礎生物学	2
生物学	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	生命科学導入実験	2	生化学Ⅰ	2
分子生物学Ⅰ	2	有機化学Ⅰ	2	微生物学	2	食品科学	2	発酵学	2
食品衛生学	2	食品加工学	2	畜水産生物学	2	生物科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	食品分析学	2
食品製造実習	2	ブレ卒研ゼミナール	2	卒研ゼミナールⅠ	2	卒研ゼミナールⅡ	2	卒業研究	6

(ロ) 選択必修科目

応用化学実験Ⅱ	2	生命科学応用実験	2	食品科学実験	2
---------	---	----------	---	--------	---

(ハ) 選択科目

基礎物理	2	物理学Ⅰ	2	地球科学Ⅰ	2	地球科学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2
微積分学	2	物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	医学概論	2	化学数学	2
生化学Ⅱ	2	分子生物学Ⅱ	2	栄養化学	2	解剖生理学	2	植物学	2
6次産業化概論	2	食品保蔵学	2	調理学	2	プログラミング入門	2	キャリア演習(実践)	2
化粧品機能学	2	科学英語	2	遺伝子工学	2	化粧品基礎科学	2	薬学Ⅰ	2
細胞工学	2	水質環境化学	2	薬学Ⅱ	2	化粧品製剤学	2	HACCP論	2
食品製造学	2	食品微生物制御学	2	植物生産科学	2	食品製造学外実習	2	食品開発論	2
食品機能学	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	基礎化学Ⅰ	2	生命科学導入実験	2	基礎生物学	2
GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4	食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4
卒業論文ゼミナール	8								

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	会計学入門	2	簿記論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済論A	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2	ビジネスシミュレーション	2	小売マーケティング論	2
ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2	マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2
広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
基礎数学	2	地域食産業論	2	水産マーケティング論	2	フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2
異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論A	2	プレゼンテーション入門	2	ビジネス英語	2	国際関係論	2
アジア文化論	2	アジア経済論B	2	九州企業国際化事情	2	ビジュアル英語	2	現代アジア事情	2
住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2	地域ブランド企画演習Ⅰ	4	業務系施設インテリア概論	2
住居設備	2	ブランディング演習	4	Webデザイン演習	4	空間設計概論	2	地域ブランド企画論	2
生物学	2	基礎化学Ⅱ	2	食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2
6次産業化概論	2	食品加工学	2	発酵学	2	生物科学実験	2	植物学	2
畜水産生物学	2	調理学	2	食品保蔵学	2	食品開発論	2	食品製造学	2
食品製造実習	2	食品製造学外実習	2	食品科学実験	2	食品分析学	2	食品機能学	2
食品微生物制御学	2	植物生産科学	2						

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	アカデミック日本語 (読む・書く)C	1	アカデミック日本語 (読む・書く)D	1	アカデミック日本語 (読む・書く)E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	理科教育法	4
教科指導法Ⅰ(理科)	2	教科指導法Ⅱ(理科)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2
教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6の3

建築都市工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 建築学科

○建築基本コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	建築数学Ⅰ	2	物理	2
物理演習	2	日本建築史	2	建築設計製図Ⅰ	2	建築設計製図Ⅱ	2	住宅計画	2
熱環境計画	2	建築構法	2	建築構造力学Ⅰ	2	建築材料Ⅰ	2	建築汎論Ⅰ	2
建築汎論Ⅱ	2	建築数学Ⅱ	2	建築設計製図Ⅲ	2	建築設計製図Ⅳ	2	施設計画	2
西洋建築史	2	空気環境計画	2	建築設備計画	2	音環境計画	2	建築構造力学Ⅱ	2
建築構造力学Ⅲ	2	建築材料Ⅱ	2	鉄筋コンクリート構造	2	建築学特論Ⅰ	2	建築学特論Ⅱ	2
建築法規	2	建築設計製図Ⅴ	2	鉄骨構造	2	建築施工Ⅰ	2	卒業研究	6

(ロ) 選択科目

工業概論	2	建築デザイン	2	建築構造力学Ⅱ演習	2	建築構造力学Ⅲ演習	2	建築製図Ⅰ	2
基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2	プログラミング入門	2	職業指導	4	空間構成演習	2
建築英語	2	応用建築設計製図	2	建築デジタル演習	2	都市計画	2	近代建築史	2
保存修景計画	2	地域ストック活用論	2	建築環境工学演習Ⅰ	2	建築環境工学演習Ⅱ	2	建築設備設計	2
建築環境工学実験	2	建築施工Ⅱ	2	構造設計法	2	防災工学	2	木質構造	2
基礎・地盤工学	2	材料構造実験	2	建築製図Ⅱ	2				

○建築総合コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	建築数学Ⅰ	2	物理	2
物理演習	2	日本建築史	2	建築設計製図Ⅰ	2	建築設計製図Ⅱ	2	住宅計画	2
熱環境計画	2	建築構法	2	建築構造力学Ⅰ	2	建築材料Ⅰ	2	建築汎論Ⅰ	2
建築汎論Ⅱ	2	建築数学Ⅱ	2	建築設計製図Ⅲ	2	建築設計製図Ⅳ	2	施設計画	2
西洋建築史	2	空気環境計画	2	建築設備計画	2	音環境計画	2	建築構造力学Ⅱ	2
建築構造力学Ⅲ	2	建築材料Ⅱ	2	鉄筋コンクリート構造	2	建築学特論Ⅰ	2	建築学特論Ⅱ	2
建築法規	2	技術者倫理	2	建築英語	2	建築設計製図Ⅴ	2	鉄骨構造	2
建築施工Ⅰ	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択科目

工業概論	2	建築デザイン	2	建築構造力学Ⅱ演習	2	建築構造力学Ⅲ演習	2	建築製図Ⅰ	2
基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2	プログラミング入門	2	インターンシップ	2	職業指導	4
空間構成演習	2	応用建築設計製図	2	建築デジタル演習	2	都市計画	2	近代建築史	2
保存修景計画	2	地域ストック活用論	2	建築環境工学演習Ⅰ	2	建築環境工学演習Ⅱ	2	建築設備設計	2
建築環境工学実験	2	建築施工Ⅱ	2	構造設計法	2	防災工学	2	木質構造	2
基礎・地盤工学	2	材料構造実験	2	建築製図Ⅱ	2				

(2) 住居・インテリア学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	空間設計基礎実習	2	空間設計概論	2
住居概論	2	住居設計実習	2	住居計画	2	業務系施設インテリア概論	2	実測・製図実習	2
設計支援ソフト実習Ⅰ	2	住居数理	2	家具・プロダクト概論	2	住宅構法概論	2	建築材料	2
住居環境入門	2	業務系施設インテリア設計実習	2	業務系施設インテリア計画	2	住居系複合施設インテリア設計実習	2	住居系複合施設インテリア計画	2
建築法規	2	近代建築史	2	色彩・照明論	2	建築・施設計画	2	構造力学Ⅰ	2
構造力学Ⅱ	2	住居設備	2	都市計画	2	建築施工	2	各種構造	2
卒業研究	6								

(ロ) 選択必修科目

設計基幹スタジオ実習Ⅰ	2	設計基幹スタジオ実習Ⅱ	2	設計基幹スタジオ特論Ⅰ	4	設計基幹スタジオ特論Ⅱ	4	空間デザイン論	2
商環境デザイン論	2	住生活デザイン論	2	再生デザイン論	2	基盤スタジオ実習Ⅰ	2	基盤スタジオ実習Ⅱ	2
基盤スタジオ特論Ⅰ	4	基盤スタジオ特論Ⅱ	4	家具・什器デザイン論	2	地域貢献実践論	2	居住環境デザイン論	2
構造デザイン論	2	総合プログラム実習Ⅰ	2	総合プログラム実習Ⅱ	2	総合プログラム特論Ⅰ	4	総合プログラム特論Ⅱ	4
総合プログラム講座	2								

(ハ) 選択科目

情報処理入門	2	フィールドツアー実習	2	工業概論	2	住居・インテリアキャリア形成	2	福祉住環境	2
設計支援ソフト実習Ⅱ	2	地域づくり論	2	デザインサーベイ演習	2	建築史	2	職業指導	4
プログラミング入門	2	建築デザイン	2	保存修景計画	2	基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2
建築製図Ⅰ	2	プレゼンテーション実習	2	インテリア製図	2	インテリアコーディネート論	2	住宅エクステリア論	2
不動産学入門	2	照明ライティング論	2	建築製図Ⅱ	2				

(3)都市デザイン工学科

(イ)必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	基礎測量学	2	建築都市入門	2	グリーンインフラ論	2
構造力学Ⅰ	2	地盤工学Ⅰ	2	水理学Ⅰ	2	測量学実習	2	建設材料工学	2
設計製図Ⅰ	2	基礎環境学	2	建設材料実験	2	構造力学Ⅱ	2	地盤工学Ⅱ	2
水理学Ⅱ	2	建設CAD演習	2	まちづくり学	2	景観デザイン	2	環境水理実習	2
応用ゼミナール	2	技術者倫理	2	コンクリート構造工学Ⅰ	2	卒業研究	6	卒業実習	4

(ロ)選択科目

情報処理演習	2	植物学	2	工業概論	2	構造力学演習Ⅰ	2	地盤工学演習Ⅰ	2
水理学演習Ⅰ	2	建設材料工学演習	2	応用測量学	2	建築設計製図	2	キャリア探求	2
設計製図Ⅱ	2	都市防災学Ⅰ	2	都市防災学Ⅱ	2	まちづくり学演習	2	生態学	2
応用生態学	2	プログラミング入門	2	インターンシップ	2	建築製図Ⅰ	2	建築デザイン	2
保存修景計画	2	職業指導	4	河川工学	2	土木統計学	2	構造力学演習Ⅱ	2
地盤工学演習Ⅱ	2	水理学演習Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	建築生産	2	建築法規	2
コンクリート構造工学Ⅱ	2	土木デザイン実習	2	橋梁工学	2	道路工学	2	水環境工学	2
都市防災学演習	2	景観デザイン演習	2	植物生態学演習	2	緑化学	2	環境法規	2
建築製図Ⅱ	2	施工管理学	2	耐震工学	2	海岸港湾工学	2		

(二)留学生に関する科目

(イ)日本語

アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	アカデミック日本語 (読む・書く)C	1	アカデミック日本語 (読む・書く)D	1	アカデミック日本語 (読む・書く)E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ)日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三)教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	工業科教育法	4	教科指導法Ⅰ(工業)	2
学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第7

芸術学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 芸術表現学科

○美術専攻

(イ)必修科目

絵画・立体造形概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	芸術表現演習	2	デッサン	2
絵画基礎	2	日本画基礎	2	立体造形基礎	2	アーティスト実践論	2	美術Ⅰ	4
美術Ⅱ	4	美術実践Ⅰ	2	美術実践Ⅱ	2	美術Ⅲ	4	美術Ⅳ	4
アーティスト実践演習	2	美術実践Ⅲ	2	美術実践Ⅳ	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4
美術実践Ⅴ	2	美術実践Ⅵ	2						

(ロ)選択必修科目

色彩学	2	絵画演習	2	塑造演習	2	デッサン基礎演習	2	日本画実習	2
デッサン実習	2	絵画実習	2	西洋絵画史	2	写真演習	2	フィギュア演習	2
ペーパークラフト演習	2	CG演習A	2	CG演習B	2	材料実習	2	ドローイング基礎実習	2
版画基礎実習	2	溶接実習	2	インスタレーション実習	2				

(ハ)選択科目

メディア芸術概論	2	美術概論	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	図学製図基礎演習	2
平面構成	2	立体構成	2	アニメーション芸術論	2	サウンド芸術概論	2	映像芸術表現論	2
工芸史	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	マテリアルデザイン演習	2
マンガ芸術論	2	メディアアート表現論	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2

○メディア芸術専攻

(イ)必修科目

メディア芸術概論	2	芸術表現演習	2	映像表現実習	2	デジタル表現実習	2	デジタルペイント実習	2
アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2	メディアアート表現論	2	マンガ芸術論	2	メディア芸術演習A	4
メディア芸術演習B	4	メディア芸術演習C	4	メディア芸術演習D	4	メディア芸術演習E	4	メディア芸術応用演習Ⅰ	4
メディア芸術応用演習Ⅱ	4	プレゼンテーションデザイン実習	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	視覚心理学	2	美術概論	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2
グラフィックデザイン	2	サウンド芸術概論	2	色彩学	2	サウンドアート演習	2	企画コンセプト演習	2
映像芸術制作実習	2	アニメーション制作実習	2	2Dアニメーション制作実習	2	メディア芸術特別論	2	メディア芸術特別実習	2
インスタレーション実習	2	ゲーム開発実習	2	サウンドアート実習	2				

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	絵画・立体造形概論	2	QUEST演習	2
デッサン基礎演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	平面構成	2	立体構成	2
特撮・VFX概論	2	現代写真論	2	映像史	2	キャリア開発A	2	フィギュア演習	2
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	ドローイング基礎実習	2	意匠・商標法	2
キャリア開発B	2								

(2) 写真・映像メディア学科

○写真専攻

(イ)必修科目

写真学概論	2	写真史	2	写真・映像メディア演習	2	映像表現実習Ⅰ	2	写真基礎実習Ⅰ	2
写真基礎実習Ⅱ	2	写真芸術論	2	写真制作論B	2	写真表現実習A	2	写真表現実習B	2
写真表現実習C	2	写真表現実習D	2	制作実習A	2	制作実習B	2	写真制作基礎実習B	2
ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	写真制作実習A	2	写真制作実習B	2	写真制作実習C	2
写真制作実習D	2	写真制作実習E	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2	メディア基礎実習	2
写真基礎実習A	2	写真基礎実習B	2	平面構成	2	立体構成	2	写真制作論A	2
写真制作論C	2	写真制作基礎実習A	2	写真創作演習A	2	写真創作演習B	2		

(ハ)選択科目

マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	映像論	2	色彩学	2	西洋美術史	2
日本美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2	3DCG演習	2	コンピュータ基礎演習	2
デッサン基礎演習	2	絵画演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2	写真制作論D	2
映像史	2	現代写真論	2	サウンド芸術概論	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2
写真クリエイティブ実習A	2	写真クリエイティブ実習B	2	写真クリエイティブ実習C	2	写真クリエイティブ実習D	2	写真作家論A	2
写真作家論B	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	映像表現実習Ⅱ	2		

○映像メディア専攻

(イ)必修科目

マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	3DCG演習	2	クリエイティブ演習A	2	写真・映像メディア演習	2
メディア基礎実習	2	映像基礎実習A	2	映像基礎実習B	2	インスタレーション実習A	2	デジタルコンテンツデザイン	2
映像史	2	音響デザイン	2	番組制作概論	2	クリエイティブ演習BⅠ	1	クリエイティブ演習BⅡ	1
アニメーション実習	2	映像基礎実習C	2	映像基礎実習D	2	インスタレーション実習B	2	広告マーケティング論	2
アドバタイジング	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

(ロ)選択必修科目

写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2	平面構成	2
立体構成	2	サウンド芸術概論	2	特撮・VFX概論	2	メタバースコンテンツ演習	2	3DCG実習	2
音響基礎実習	2	演技基礎実習	2	特撮・VFX実習	2	番組制作実習	2	シナリオ演習	2
3DCGモデリング演習	2	映像演出実習	2						

(ハ)選択科目

映像論	2	視覚心理学	2	色彩学	2	写真学概論	2	写真史	2
西洋美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2
塑造演習	2	アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2	現代写真論	2	写真制作論A	2
サウンドアート演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	メディアアート表現論	2	マンガ芸術論	2
日本美術史	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	絵画演習	2	サウンドアート実習	2

(3) ビジュアルデザイン学科

○グラフィックデザイン専攻

(イ)必修科目

グラフィックデザイン概論	2	色彩学	2	グラフィックデザイン演習Ⅰ	4	ビジュアルデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2
タイポグラフィ実習Ⅰ	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	グラフィックデザイン印刷演習	4
グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	グラフィックデザイン演習Ⅲ	4	グラフィックデザイン写真演習	4	グラフィックデザイン演習Ⅳ	4	グラフィックデザイン特別演習	4
デザイン研究	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4				

(ロ)選択必修科目

ビジュアルデザイン史	2	グラフィックデザイン基礎演習	2	パッケージデザイン演習	4	グラフィックデザイン表現実習A	2	グラフィックデザイン表現実習B	2
グラフィックデザイン表現実習C	2	タイポグラフィ実習Ⅱ	2	プロモーション・企画実習	2	Webデザイン演習	4	アドバタイジングデザイン演習	4
エディトリアルデザイン演習	4	ダイアグラムデザイン演習	4	特別実習	2				

(ハ)選択科目

工芸史	2	視覚心理学	2	西洋美術史	2	美術概論	2	イラストレーションデザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	色彩計画演習A	2	カリグラフィ	2
サウンド芸術概論	2	日本美術史	2	サウンドデザイン演習	2	映像演習	2	学外演習	2
工芸デザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2
絵画演習	2	塑造演習	2						

○イラストレーションデザイン専攻

(イ)必修科目

イラストレーションデザイン概論	2	色彩学	2	イラストレーションデザイン演習Ⅰ	4	イラストレーションデザイン基礎演習	4	ビジュアルデザイン演習	2
色彩計画演習A	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	イラストレーションデザイン演習Ⅱ	4
イラストレーションデザイン演習Ⅲ	4	CG実習A	2	CG実習B	2	イラストレーションデザイン演習Ⅳ	4	イラストレーションデザイン特別演習	4
デザインブレ研究	2	デザイン研究	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

ビジュアルデザイン史	2	視覚心理学	2	キャラクターデザイン実習	2	Webデザイン演習	4	イラストレーションデザイン写真演習	4
映像演習	2	絵画演習	2	エディトリアル演習	2	ドローイング基礎実習	2	パッケージデザイン実習	2
水墨イラストレーション実習	2	コミックイラストレーション実習	2	ファッションイラスト実習	2	マンガ実習	2		

(ハ)選択科目

工芸史	2	生産造形デザイン概論	2	西洋美術史	2	美術概論	2	グラフィックデザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	図学製図基礎演習	2	カリグラフィ	2
3D実習	2	サウンド芸術概論	2	日本美術史	2	キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2
デザインの現場	2	フィギュア演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2
マテリアルデザイン演習	2	メディア芸術概論	2	意匠・商標法	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2
版画基礎実習	2	イラストレーション実践演習	4						

(4) 生活環境デザイン学科

○生産造形デザイン専攻

(イ)必修科目

生産造形デザイン概論	2	生活環境デザイン演習	2	生産造形デザイン演習ⅠA	2	生産造形デザイン演習ⅠB	4	デッサン	2
立体構成	2	平面構成	2	生産造形デザイン演習ⅡA	4	生産造形デザイン演習ⅡB	4	生産造形デザイン演習ⅡC	4
生産造形デザイン演習ⅡD	4	生産造形デザイン演習ⅢA	4	生産造形デザイン演習ⅢB	4	生産造形デザイン演習ⅢC	4	生産造形デザイン演習ⅢD	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

工芸史	2	デザイン史	2	工芸デザイン基礎演習	2	図学製図A	2	図学製図B	2
材料加工実習A	1	材料加工実習B	1	材料加工実習C	1	材料加工実習D	1	材料加工実習E	1
テキスタイル実習A	2	プロダクトデザイン実践論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	マテリアルデザイン演習	2
生産デザイン表示図法	2	テキスタイル実習B	2	漆芸実習A	2	漆芸実習B	2	生産造形デザイン特別実習A	2
コンセプト・クリエイティング演習	2	生産造形デザイン特別実習B	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	美術概論	2	西洋美術史	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2
デッサン基礎演習	2	塑造演習	2	ファッションデザイン論	2	日本美術史	2	インテリア建築デザイン論	2
サウンド芸術概論	2	人間工学概論	2	キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2	学外演習	2
写真演習	2	絵画演習	2	色彩計画演習B	2	クラフトデザイン実習	2	溶接実習	2
意匠・商標法	2	キャリア開発B	2						

○空間演出デザイン専攻

(イ)必修科目

空間演出デザイン概論	2	生活環境デザイン演習	2	空間演出デザイン演習ⅠA	2	空間演出デザイン演習ⅠB	4	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	空間演出デザイン演習ⅡA	4	空間演出デザイン演習ⅡB	4	空間演出デザイン演習ⅡC	4
空間演出デザイン演習ⅡD	4	空間演出デザイン演習ⅢA	4	空間演出デザイン演習ⅢB	4	空間演出デザイン演習ⅢC	4	空間演出デザイン演習ⅢD	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	材料加工実習A	1	材料加工実習B	1	材料加工実習C	1	材料加工実習D	1
材料加工実習E	1	製図実習A	2	テキスタイル実習A	2	インテリア建築デザイン論	2	ファッションデザイン論	2
舞台空間演出論	2	色彩計画演習B	2	マテリアルデザイン演習	2	ファッションイラスト実習	2	空間演出表現実習Ⅰ	2
製図実習B	2	テキスタイル実習B	2	照明計画演習	4	コンセプト・クリエイティング演習	2	空間演出表現実習Ⅱ	2

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	美術概論	2	生産造形デザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デザイン基礎演習	2	塑造演習	2	サウンド芸術概論	2
工芸史	2	日本美術史	2	CG演習A	2	CG演習B	2	キャリア開発A	2
サウンドデザイン演習	2	絵画演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2
溶接実習	2	キャリア開発B	2	形態構造演習	4	建築生産論	2	建築法規	2
建築設計演習	4								

(5) ソーシャルデザイン学科

○情報デザイン専攻

(イ)必修科目

ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2	情報デザイン演習Ⅰ	4
視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2	Webデザイン演習	4	デザインの現場	2	情報デザイン演習ⅡA	4
情報デザイン演習ⅡB	4	情報デザイン演習ⅢA	4	情報デザイン演習ⅢB	4	情報デザイン研究Ⅰ	4	情報デザイン研究Ⅱ	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	美術概論	2
コンピュータ基礎演習	2	企画デザイン論	2	言葉と編集	2	地域文化論	2	写真芸術論	2
映像芸術表現論	2	ブランドデザイン演習	4	地域ブランド企画演習	4	デジタルプラットフォーム	2	Webデザイン応用演習	2
データサイエンス	2	3DCG演習	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	視覚心理学	2	サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2
学外演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2
映像演習	2	サウンドデザイン演習	2	意匠・商標法	2	メディアアート表現論	2	キャリア開発B	2
パッケージデザイン実習	2								

○企画デザイン専攻

(イ)必修科目

ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2	企画デザイン演習Ⅰ	4
企画デザイン論	2	ブランドデザイン演習	4	地域ブランド企画演習	4	デザインの現場	2	企画デザイン演習ⅡA	4
企画デザイン演習ⅡB	4	企画デザイン演習ⅢA	4	企画デザイン演習ⅢB	4	企画デザイン研究Ⅰ	4	企画デザイン研究Ⅱ	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	美術概論	2
コンピュータ基礎演習	2	視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2	言葉と編集	2	地域文化論	2
工芸史	2	生産造形デザイン概論	2	Webデザイン演習	4	デジタルプラットフォーム	2	データサイエンス	2
3DCG演習	2	パッケージデザイン実習	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	視覚心理学	2	サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2
学外演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	サウンドデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2
映像演習	2	写真演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	キャリア開発B	2
プロダクトデザイン基礎演習	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究 I	4	食品ビジネス研究 II	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	会計学入門	2	簿記論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済論A	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2	ビジネスシミュレーション	2	小売マーケティング論	2
ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2	マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2
広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
基礎数学	2	基礎化学 I	2	生物学	2	食品科学	2	食品衛生学	2
微生物学	2	6次産業化概論	2	地域食産業論	2	水産マーケティング論	2	フードツーリズム論	2
クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論A	2	プレゼンテーション入門	2	ビジネス英語	2
国際関係論	2	アジア文化論	2	アジア経済論B	2	九州企業国際化事情	2	ビジュアル英語	2
現代アジア事情	2	住居計画	2	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	空間設計概論	2
ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	美術概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2
マルチメディア概論	2	色彩学	2	ソーシャルデザイン演習	2	地域ブランド企画演習 I	4	視覚デザイン演習	4
平面構成	2	立体構成	2	デッサン	2	地域ブランド企画論	2	情報デザイン論	2
地域文化論	2	ソーシャルデザイン応用演習	2	地域ブランド企画演習 II A	4	地域ブランド企画演習 II B	4	地域ブランド企画演習 III A	4
地域ブランド企画演習 III B	4	ブランディング演習	4	Webデザイン演習	4	デザイン企画演習	2	データサイエンス	2
パッケージデザイン実習	2	CAD実習	2	意匠・商標法	2				

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語 (読む・書く) A	1	アカデミック日本語 (読む・書く) B	1	アカデミック日本語 (読む・書く) C	1	アカデミック日本語 (読む・書く) D	1	アカデミック日本語 (読む・書く) E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す) A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す) B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す) C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す) D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す) E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く) A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く) B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す) A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す) B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史 I	2	日本の歴史 II	2	日本の文化 I	2	日本の文化 II	2	日本の政治経済 I	2
日本の政治経済 II	2	一般日本事情 I	2	一般日本事情 II	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術 (情報通信技術を含む)	2	生徒指導論 (進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習 (中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習 I	2	教育実習 II	2	美術科教育法	4
工芸科教育法	4	教科指導法 I (美術)	2	教科指導法 I (工芸)	2	教科指導法 II (美術)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第8

国際文化学部の特修科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 国際文化学科

(イ) 必修科目

日本文化入門	2	アジア文化入門	2	欧米文化入門	2	ゼミナール I	2	コミュニケーション英語入門 I	2
コミュニケーション英語入門 II	2	ゼミナール II	4	TOEIC講座A	2	外国語演習 A	2	ゼミナール III	4
卒業論文・卒業研究	8								

(ロ) 選択必修科目

TOEIC講座B	2	外国語演習 B	2
----------	---	---------	---

(ハ) 選択科目

日本語教育学入門	2	日本語教育文法論	2	日本語教授法	2	日本語教育授業研究	2	日本語教育実習	2
言語学	2	情報処理演習	2	民俗学	2	歴史学	2	哲学入門	2
古典に学ぶ	2	中国古典文学	2	国際関係論	2	現代思想	2	国際協力論	2
Intercultural Communication	2	海外フィールドスタディA	2	海外フィールドスタディB	2	海外研修 A	2	海外研修 B	4
プロジェクト演習 A	2	プロジェクト演習 B	2	英語海外留学	8	英語教育学入門	2	英語学入門	2
ベーシック英語表現	2	ビジネス英語ポキャブラリー	2	留学対策英語講座	2	ポップカルチャー英語	2	英語学I	2
英語学II	2	Communicative Writing A	2	コミュニケーション英文法 A	2	コミュニケーション英文法 B	2	English Phonetics I	2
English Phonetics II	2	Communicative Language Learning I	2	Communicative Language Learning II	2	英語科教育法A	2	英語科教育法B	2
Media Communication	2	Instructional Design for Teaching English	2	Communicative Writing B	2	英語文献講読A	2	英語文献講読B	2
教科指導法A(英語)	2	教科指導法B(英語)	2	グローバルイシュー入門	2	国際教養学入門	2	英語文学概論	2
英語圏文化論	2	ヨーロッパ文化論	2	イスラム文化論	2	アジア文化論	2	アジア史概説	2
アメリカ史概説	2	ヨーロッパ史概説	2	欧米思想史	2	文化交流史	2	比較文化論	2
英語文学特講	2	英語圏文化特講	2	ヨーロッパ文化特講	2	環境問題論	2	アジア文化特講	2
NPO・NGO論	2	Communication Theory	2	現代アジア事情	2	現代欧米事情	2		

(2) グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究 I	4	食品ビジネス研究 II	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	会計学入門	2	簿記論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済論A	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	農業経済論B	2	ビジネスシミュレーション	2	小売マーケティング論	2
ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2	マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2
広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
基礎数学	2	基礎化学 I	2	生物学	2	食品科学	2	食品衛生学	2
微生物学	2	6次産業化概論	2	地域食産業論	2	水産マーケティング論	2	フードツーリズム論	2
クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論A	2	プレゼンテーション入門	2	ビジネス英語	2
アジア経済論B	2	九州企業国際化事情	2	ビジュアル英語	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2
ソーシャルデザイン概論	2	地域ブランド企画演習 I	4	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランディング演習	4
Webデザイン演習	4	空間設計概論	2	地域ブランド企画論	2	日本文化入門	2	アジア文化入門	2
欧米文化入門	2	グローバルイシュー入門	2	国際教養学入門	2	海外フィールドスタディA	2	海外フィールドスタディB	2
国際関係論	2	アジア文化論	2	ヨーロッパ文化論	2	哲学入門	2	英語圏文化論	2
現代アジア事情	2	現代思想	2	NPO・NGO論	2	国際協力論	2	現代欧米事情	2
ベーシック英語表現	2	ビジネス英語ポキャブラリー	2	ポップカルチャー英語	2	留学対策英語講座	2	外国語演習A	2
コミュニケーション英語入門 I	2	コミュニケーション英語入門 II	2	Communicative Writing A	2	外国語演習B	2	Intercultural Communication	2
Media Communication	2	Communication Theory	2						

(3) 日本文化学科

(イ) 必修科目

日本文化入門	2	アジア文化入門	2	欧米文化入門	2	ゼミナールⅠ	2	日本文化研究基礎	2
ゼミナールⅡ	4	ゼミナールⅢ	4	卒業論文・卒業研究	8				

(ロ) 選択必修科目

文学実地踏査A	2	文学実地踏査B	2
---------	---	---------	---

(ハ) 選択科目

言語学	2	情報処理演習	2	民俗学	2	歴史学	2	哲学入門	2
古典に学ぶ	2	中国古典文学	2	国際関係論	2	現代思想	2	国際協力論	2
Intercultural Communication	2	日本語教育学入門	2	日本語教育文法論	2	日本語教授法	2	日本語教育授業研究	2
日本語教育実習	2	学外実習	2	海外研修	2	プロジェクト演習	2	日本文学	2
日本文学史	2	日本語学	2	日本語表記論	2	日本古典文学概論	2	日本近代文学概論	2
日本古典文学講読	2	日本近現代文学講読	2	日本語文法論	2	文章表現法A	2	文章表現法B	2
日本文学特講	2	日本古典文学特講	2	日本近代文学特講	2	日本語音韻論	2	民俗学概論	2
歴史学概論	2	伝統文化論	2	伝承文学論	2	文学と歴史	2	言葉と文化	2
民俗学特講	2	歴史学特講	2	メディア文化論	2	出版文化論	2	言葉と社会	2
くずし字読解	2	国際日本学	2	考古学	2	国語科教育法A	2	国語科教育法B	2
漢文学	2	書道実技	2	教科指導法A(国語)	2	教科指導法B(国語)	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語(読む・書く)A	1	アカデミック日本語(読む・書く)B	1	アカデミック日本語(読む・書く)C	1	アカデミック日本語(読む・書く)D	1	アカデミック日本語(読む・書く)E	1
アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	アカデミック日本語(聞く・話す)C	1	アカデミック日本語(聞く・話す)D	1	アカデミック日本語(聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語(読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語(読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語(聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第9

人間科学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 臨床心理学科

(イ) 必修科目

○共通

人間科学基礎	2	臨床心理学概論	2	プライマリーゼミナール	2	心理福祉演習A	2	心理福祉演習B	2
専門ゼミナール	4								

○臨床心理福祉・公認心理師コース

臨床心理ゼミナールA	2	臨床心理ゼミナールB	2
------------	---	------------	---

○精神保健福祉士コース

精神保健福祉ゼミナール	4
-------------	---

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	情報処理演習A	2
対人支援の方法と行動	2								

(ハ) 選択科目

○共通

情報処理演習B	2	精神保健福祉概論	2	人体の構造と機能及び疾病	2	対人関係論	2	社会学と社会システム	2
精神疾患とその治療A	2	精神疾患とその治療B	2	コミュニティ心理学	2	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	動物心理学	2	児童心理学	2
思考心理学	2	心理学研究法	2	心理学統計法	2	心理学基礎実験	2	心理調査概論	2
心理学的支援法	2	障害者・障害児心理学	2	乳幼児心理学	2	福祉心理学	2	教育・学校心理学	2
神経・生理心理学	2	産業・組織心理学	2	健康・医療心理学	2	司法・犯罪心理学	2	社会・集団・家族心理学	2
心理学実験	2	社会保障Ⅰ	2	社会保障Ⅱ	2	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	権利擁護を支える法制度	2	障害者福祉	2	刑事司法と福祉	2
卒業論文	4								

○A群

心理的アセスメント	2	感情・人格心理学	2	心理面接実習	2	ストレスマネジメント論	2	コミュニティアプローチ演習	2
心理統計法演習	2	社会福祉調査の基礎	2	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	精神保健福祉制度論	2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	精神障害リハビリテーション論	2	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	2

○B群

心理演習	2	公認心理師の職責	2	深層心理学	2	臨床心理学文献講読基礎	2	臨床心理学文献講読発展	2
------	---	----------	---	-------	---	-------------	---	-------------	---

○C群

関係行政論	2	心理実習	2
-------	---	------	---

○D群

ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	ソーシャルワーク演習	1	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
ソーシャルワーク実習	4								

(2) 子ども教育学科

(イ) 必修科目

人間科学基礎	2	保育原理	2	保育者論	2	保育内容総論	2	子どもの造形表現	2
教育学概論	2	保育心理学Ⅰ	2	子ども学ゼミナール	2	保育内容(健康)	2	幼児理解の基礎	2
子どもの音楽表現Ⅰ	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(言葉)	2	保育内容(表現)	2	保育方法論	2
幼児教育課程論	2	保育内容(環境)	2	子どもの健康	2	教育の制度と経営	2	専門ゼミナール	4
特別支援教育基礎理論	2								

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	対人支援の方法と行動	2
-------	---	--------	---	-------	---	-------	---	------------	---

(ハ) 選択科目

情報処理演習A	2	情報処理演習B	2	社会福祉概論	2	児童家庭福祉	2	社会的養護概論	2
子どもの音楽表現Ⅱ	2	乳児保育論	2	保育心理学Ⅱ	2	子どもの表現	2	子どもの言葉	2
子どもの環境	2	子どもの人間関係	2	社会的養護内容演習	2	教育相談(カウンセリングを含む)	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2
子どもの健康と安全	2	家庭支援論	2	子ども家庭支援の心理学	2	保育心理士実習	2	子どもの保健	2
障害児保育演習	2	子どもの食と栄養	2	乳児保育演習	2	保育相談支援演習	2	教育実習指導Ⅰ	1
教育実習Ⅰ	2	保育実習ⅠA	2	保育実習ⅠB	2	教育実習指導Ⅱ	1	教育実習Ⅱ	2
保育実習指導Ⅰ	2	保育総合表現	2	保育実習指導Ⅱ	1	保育実習指導Ⅲ	1	保育実習Ⅲ	2
保育実習Ⅲ	2	保育・教職実践演習(幼)	2	知的障害児の心理・生理・病理	2	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	病弱児の心理・生理・病理	2
知的障害児教育総論	2	肢体不自由児教育総論	2	病弱児教育総論	2	知的障害児の指導法	2	肢体不自由児の指導法	2
病弱児の指導法	2	視覚障害児教育総論	1	聴覚障害児教育総論	1	視覚障害児の心理・生理・病理	1	聴覚障害児の心理・生理・病理	1
LD等・重複障害教育総論	2	特別支援学校教育実習・実習指導	3						

(3) スポーツ健康科学科

(イ) 必修科目

人間科学基礎	2	スポーツ心理学	2	健康管理概論	2	スポーツ科学概論	2	スポーツ健康科学演習基礎	2
運動生理学	2	スポーツ健康科学演習Ⅰ	2	スポーツ健康科学演習Ⅱ	2	スポーツ健康科学演習Ⅲ	2	スポーツ健康科学演習Ⅳ	2
卒業研究	8								

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	情報処理演習A	2
情報処理演習B	2	対人支援の方法と行動	2						

(ハ) 選択科目

スポーツマネジメント論	2	機能解剖学	2	スポーツ社会学	2	体づくり運動	1	水泳	1
サッカー	1	ダンス	1	バドミントン	1	バレーボール	1	スポーツキャリア演習	2
スポーツ栄養学	2	栄養学入門	2	運動学(運動方法学を含む)	2	体カトレーニング論	2	スポーツデータサイエンス	2
野球・ソフトボール	1	柔道	1	剣道	1	野外教育実習	1	陸上競技	1
バスケットボール	1	公衆衛生学	2	衛生学	2	スポーツ医学	2	バイオメカニクス	2
アクアエクササイズ	1	スノースポーツ実習	1	ハンドボール	1	器械運動	1	エアロビックエクササイズ	1
ゴルフ実習	1	健康産業論	2	スポーツビジネス概論	2	生活習慣病概論	2	スポーツ科学測定演習(生理・バイオ・心理・栄養)	2
スポーツマーケティング論	2	プロスポーツ実践講座	2	スポーツイノベーション論	2	体カトレーニング演習	2	体力測定評価演習	2
健康づくり運動の理論	2	地域プロスポーツマネジメント論	2	スポーツファイナンス論	2	スポーツ医科学演習(救急措置法含む)	2	運動処方演習(運動負荷試験)	2
運動処方論	2	健康心理学	2	健康体力科学特論	2	健康産業施設研修	2	スポーツ教育学	2
スポーツ史	2	武道学概論	2	テーピングマッサージ	1	学校保健Ⅰ(小児保健含む)	2	学校保健Ⅱ(学校安全及び救急措置法含む)	2
精神保健	2	保健体育科教育法	4	体育科教材研究演習	2	コーチング概論	2	コーチング演習	2
メンタルトレーニング論	2	アダプテッドスポーツ論	2	教科指導法Ⅰ(保健体育)	2	教科指導法Ⅱ(保健体育)	2	体育科教科内容論	2
学校体育指導演習	2								

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	アカデミック日本語 (読む・書く)C	1	アカデミック日本語 (読む・書く)D	1	アカデミック日本語 (読む・書く)E	1
アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)C	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)D	1	アカデミック日本語 (聞く・話す)E	1
実践アカデミック日本語 (読む・書く)A	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)B	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)A	1	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)B	1	ビジネス日本語	1
グローバル日本語	1								

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2		

1 本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

2 教職に関する科目はスポーツ健康科学科の学生のみ受講できる。

別表第10

卒業に必要な授業科目及び単位数

経済学部経済学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数		
専 門 科 目	共通ユニット	必修科目	2 単位	さらに専門科目から20単位以上
		選択必修科目	18単位以上	
	コアユニット	必修科目	2 単位	
		選択科目	38単位以上	
	展開ユニット	選択科目		さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から20単位以上
基 礎 教 育 科 目			14単位以上	
外 国 語 科 目			二言語以上10単位以上（英語 6 単位以上）	
合 計				124単位以上

商学部経営・流通学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数		
専 門 科 目	コース科目	選択必修科目	26単位以上	さらに専門科目から24単位以上
		選択科目	8 単位以上	
	学系科目		6 単位以上	
	実践力育成科目		12単位以上	
	資格関連科目		4 単位以上	
基 礎 教 育 科 目			16単位以上	さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から20単位
外 国 語 科 目			8 単位以上（英語 6 単位以上）	
合 計				124単位以上

商学部経営・流通学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	GFBP科目	必修科目	32単位
		選択必修科目	4単位以上
		選択科目	10単位以上
	学部横断科目	選択科目	18単位以上
	学科科目	選択科目	30単位以上
基礎教育科目		14単位以上	
外国語科目		英語6単位以上	
合計		124単位以上	

地域共創学部観光学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数		
専 門 科 目	学部共通科目	必修科目	4 単位	さらに専門科目から10単位以上
		選択科目	14単位以上	
	学科共通科目	選択必修科目	10単位以上	
		選択科目	24単位以上	
	コース科目		22単位以上	
基 礎 教 育 科 目			14単位以上	さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から16単位以上
外 国 語 科 目			10単位以上（英語6単位以上）	
合 計				124単位以上

地域共創学部 観光学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 20単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	20単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

地域共創学部地域づくり学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数			
専 門 科 目	学部共通科目	必修科目	4 単位	さらに専門科目から16単位以上	さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から16単位以上
		選択科目	8 単位以上		
	学科共通科目	選択必修科目	10単位以上		
		選択科目	20単位以上		
	コース科目	26単位以上			
基 礎 教 育 科 目		16単位以上			
外 国 語 科 目		8単位以上（英語6単位以上）			
合 計		124単位以上			

地域共創学部 地域づくり学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	30単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

理工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数					
		情報科学科		機械工学科	電気工学科		
専門科目	必修科目	40単位	ら さ ら に 単 位 専 門 以 上 科 目、 基 礎 教 育 科 目、 外 国 語 科 目 か	62単位	56単位	ら さ ら に 単 位 専 門 以 上 科 目、 基 礎 教 育 科 目、 外 国 語 科 目 か	
	選択必修科目	——		——	4単位以上		
	選択科目	48単位以上		40単位以上	24単位以上		
基礎教育科目	導入科目	2単位		2単位	14単位以上		14単位以上
	学修基礎科目	14単位以上		14単位以上			
	キャリア科目						
	文理芸融合科目						
	教養科目						
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上	英語 6 単位以上		
合計		124単位以上		124単位以上	124単位以上		

生命科学部

授業科目区分		授業科目及び単位数
		生命科学科
専門科目	必修科目	54単位
	選択必修科目	2単位以上
	選択科目	38単位以上
基礎教育科目	導入科目	2単位
	学修基礎科目	22単位以上
	キャリア科目	
	文理芸融合科目	
	教養科目	
外国語科目		英語 6 単位以上
合計		124単位以上

生命科学部 生命科学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数	
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位
		選択必修科目	4単位以上
		選択科目	10単位以上
	学部横断科目	選択科目	36単位以上
	学科科目	必修科目	6単位
		選択科目	16単位以上
基礎教育科目		14単位以上	
外国語科目		英語6単位以上	
合計		124単位以上	

建築都市工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数			
		建築学科		住居・インテリア学科	都市デザイン工学科
		建築基本コース	建築総合コース		
専門科目	必修科目	74単位	78単位	66単位	56単位
	選択必修科目	———	———	14単位以上	———
	選択科目	30単位以上	26単位以上	24単位以上	48単位以上
基礎教育科目		14単位以上		14単位以上	14単位以上
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上	英語 6 単位以上
合計		124単位以上		124単位以上	124単位以上

芸術学部

授業科目区分		授業科目及び単位数	
専門科目	必修科目	56単位	
	選択必修科目	18単位以上	
	選択科目	26単位以上	
基礎教育科目		18単位以上	
外国語科目		英語 6 単位以上	
合計		124単位以上	

芸術学部 ソーシャルデザイン学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	30単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

国際文化学部

授業科目区分		授業科目及び単位数									
		国際文化学科					日本文化学科				
専門科目	学部共通科目	必修科目	6 単位	(さらに専門科目及び外国語科目は含まない) 基礎教育科目から10単位以上	学部共通科目	必修科目	6 単位	(さらに専門科目及び外国語科目は含まない) 基礎教育科目から18単位以上			
		選択科目	8 単位以上			選択科目	8 単位以上				
	学科共通科目	必修科目	26単位		学科共通科目	必修科目	20単位				
		選択必修科目	2 単位以上			選択必修科目	2 単位以上				
		選択科目	4 単位以上			選択科目	—				
	学科展開科目	英語エキスパート科目	16単位以上		学科展開科目	文学・語学科目	12単位以上	さらに20単位以上			
		国際教養科目	18単位以上			歴史・民俗学科目	8 単位以上				
			資格科目								
基礎教育科目	導入科目 2 単位		20単位以上		導入科目 2 単位		20単位以上				
外国語科目	2 外国語14単位以上 (英語 8 単位以上)				2 外国語10単位以上 (英語 6 単位以上)						
合計	124単位以上				124単位以上						

国際文化学部 国際文化学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	16単位以上	
	学科科目	教養科目	18単位以上	さらに 学科科目から 4単位以上
		語学科目	12単位以上	
基礎教育科目		14単位以上		
外国語科目		2外国語14単位以上 (英語8単位以上)		
合計		124単位以上		

人間科学部

授業科目区分		授業科目及び単位数					
		臨床心理学科		子ども教育学科		スポーツ健康科学科	
専門科目	必修科目	18単位	上目、さらに外国語専門科目、から基礎単位数を以て	44単位	上目、さらに外国語専門科目、から基礎単位数を以て	28単位	上目、さらに外国語専門科目、から基礎単位数を以て
	選択必修科目	6単位以上		4単位以上		6単位以上	
	選択科目	64単位以上		38単位以上		62単位以上	
基礎教育科目		14単位以上		14単位以上		14単位以上	
外国語科目		英語6単位以上		英語6単位以上		英語6単位以上	
合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

別表第11

(1) 司書に関する科目

生涯学習概論	2	図書館概論	2	図書館制度・経営論	2	図書館情報技術論	2	図書館サービス概論	2
情報サービス論	2	児童サービス論	2	情報サービス演習Ⅰ	1	情報サービス演習Ⅱ	1	図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2	情報資源組織演習	2	図書館基礎特論	1	図書館サービス特論	1	図書館情報資源特論	1
図書・図書館史	1	図書館施設論	1	図書館総合演習	1	図書館実習	1		

(2) 司書教諭に関する科目

学校経営と学校図書館	2	学校図書館メディアの構成	2	学習指導と学校図書館	2	読書と豊かな人間性	2	情報メディアの活用	2
------------	---	--------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---

別表第12

博物館に関する科目

生涯学習概論	2	博物館概論	2	博物館経営論	2	博物館資料論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	博物館実習	3	文化史	4
美術史	2	考古学	2	民俗学	4	物理学	4	化学	2
生物学	4	地学	4						

別表第13

社会教育主事に関する科目

生涯学習概論	2	生涯学習基礎	2	生涯学習支援論Ⅰ	2	生涯学習支援論Ⅱ	2	社会教育経営論Ⅰ	2
社会教育経営論Ⅱ	2	社会教育実習	2	社会教育演習	2	同和教育論	2	道德教育論	2
図書館概論	2	博物館概論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	教育原理	2
教育制度論	2								

別表第14

芸術専攻科の授業科目の種類及び単位数

(1) 美術専攻

(イ) 必修科目

造形創作研究	8	造形特論	4
--------	---	------	---

(ロ) 選択科目

絵画材料研究	4	彫塑材料研究	4	版画創作研究	4	実材彫刻研究	4	美術概論	4
--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	------	---

(2) デザイン専攻

(イ) 必修科目

デザイン特論	4	デザイン製作実習 (ビジュアル・デザイン)	8	デザイン製作実習 (環境デザイン)	8	デザイン製作実習 (製品デザイン)	8
--------	---	--------------------------	---	----------------------	---	----------------------	---

(ロ) 選択科目

デザイン・ゼミナール (ビジュアル・デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (環境デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (製品デザイン)	4	構成研究	4	材料研究	4
機能研究	4	色彩及び形態研究	4	デザイン及び造形史	4				

(3) 写真専攻

(イ) 必修科目

写真特論	4	論文又は製作	8
------	---	--------	---

(ロ) 選択科目

写真芸術論	4	産業写真論	4	写真演習	12
-------	---	-------	---	------	----

別表第15

(1) 入学検定料、再入学選考料及び科目等履修生選考料

イ 入学検定料

(単位:円)

種 別	金 額
学 校 推 薦 型 選 抜	32,000
一 般 選 抜	
実 技 選 抜	
編 入 学 選 抜	
帰 国 子 女 選 抜	
社 会 人 選 抜	
総 合 型 選 抜	
特 別 総 合 推 薦 選 抜	
大 学 入 学 共 通 テ ス ト 利 用 選 抜	15,000
一般選抜・大学入学共通テスト併用型選抜	10,000
外 国 人 留 学 生 選 抜	30,000

- (注) 1. 一般選抜における2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 2. 九州産業大学造形短期大学部大学卒業で、本学の編入学選抜を出願する者の入学検定料は、18,000円とする。
 3. 総合型選抜及び特別総合推薦選抜において、二段階選抜を実施する場合は、一次選考10,000円、二次選考22,000円とする。
 4. 大学入学共通テストにおける2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 5. 一般選抜・大学入学共通テスト併用型選抜を出願する者は、一般選抜の入学検定料32,000円を別途納付のうえ、受験しなければならない。
 6. 学校推薦型選抜及び総合型選抜において、入学手続を完了した者が大学入学共通テスト利用選抜に出願する場合の入学検定料は、5,000円とする。

ロ 再入学選考料

(単位:円)

種 別	金 額
再 入 学 選 考 料	16,000

ハ 科目等履修生選考料

(単位:円)

種 別	金 額	
科 目 等 履 修 生 選 考 料	本学卒業生及び修了者	6,000
	本学以外の卒業生	12,000

(2) 入学金

(単位:円)

学 部	金 額
経 済 学 部	200,000
商 学 部	200,000
地 域 共 創 学 部	200,000
理 工 学 部	200,000
生 命 科 学 部	200,000
建 築 都 市 工 学 部	200,000
芸 術 学 部	200,000
国 際 文 化 学 部	200,000
人 間 科 学 部	200,000

(3) 修学費

(単位:円)

種 別 \ 学 部		経済学部	商学部 (GFBPを 含む。)	地域共創学部 (GFBPを 含む。)
修学費	授 業 料	720,000	720,000	720,000
	教育充実費	170,000	170,000	170,000
	合計(年額)	890,000	890,000	890,000
	分納	第1回	445,000	445,000
		第2回	445,000	445,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日	
		第2回		

(単位:円)

種 別 \ 学 部		理工学部	生命科学部		建築都市工学部	芸術学部	
			生命科学科	生命科学科 GFBP		芸術表現学科 写真・映像 メディア学科 ビジュアル デザイン学科 生活環境 デザイン学科 ソーシャル デザイン学科	ソーシャル デザイン学科 GFBP
修学費	授 業 料	950,000	950,000	812,000	950,000	970,000	820,000
	教育充実費	420,000	440,000	278,000	400,000	450,000	282,000
	合計(年額)	1,370,000	1,390,000	1,090,000	1,350,000	1,420,000	1,102,000
	分納	第1回	685,000	695,000	675,000	710,000	551,000
		第2回	685,000	695,000	675,000	710,000	551,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日				
		第2回					

(単位:円)

種 別 \ 学 部		国際文化学部		人間科学部		
		国際文化学科 日本文化学科	国際文化学科 GFBP	臨床心理学科	子ども教育学科	スポーツ 健康科学科
修学費	授 業 料	720,000	720,000	700,000	770,000	820,000
	教育充実費	170,000	170,000	190,000	270,000	360,000
	合計(年額)	890,000	890,000	890,000	1,040,000	1,180,000
	分納	第1回	445,000	445,000	520,000	590,000
		第2回	445,000	445,000	520,000	590,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日			
		第2回				

(注)「GFBP」とは、グローバル・フードビジネス・プログラムをいう。

変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

①次の学部の学科の定員を変更するため

・芸術学部

芸術表現学科

写真・映像メディア学科

生活環境デザイン学科

ソーシャルデザイン学科

②芸術学部のカリキュラムを改正するため

2. 変更点

①芸術学部の学科の入学定員、収容定員の増加及び削減

②芸術学部授業科目の種類及び単位数の追加、削除及び名称変更

3. 変更の時期

令和7年4月1日

「九州産業大学学則」一部改正新旧対照表

新 学 則				旧 学 則			
九州産業大学学則				九州産業大学学則			
第1条	}	現行どおり		第1条	}	(略)	
第11条				第11条			
(入学定員及び収容定員)				(入学定員及び収容定員)			
第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。				第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。			
学部	学科	入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	400	1,600	経済学部	経済学科	400	1,600
商学部	経営・流通学科	470	1,880	商学部	経営・流通学科	470	1,880
地域共創学部	観光学科	150	600	地域共創学部	観光学科	150	600
	地域づくり学科	140	560		地域づくり学科	140	560
理工学部	情報科学科	140	560	理工学部	情報科学科	140	560
	機械工学科	130	520		機械工学科	130	520
	電気工学科	100	400		電気工学科	100	400
生命科学部	生命科学科	110	440	生命科学部	生命科学科	110	440
建築都市工学部	建築学科	75	300	建築都市工学部	建築学科	75	300
	住居・インテリア学科	65	260		住居・インテリア学科	65	260
	都市デザイン工学科	60	240		都市デザイン工学科	60	240
芸術学部	芸術表現学科	<u>70</u>	<u>280</u>	芸術学部	芸術表現学科	<u>65</u>	<u>260</u>
	写真・映像メディア学科	<u>55</u>	<u>220</u>		写真・映像メディア学科	<u>50</u>	<u>200</u>
	ビジュアルデザイン学科	75	300		ビジュアルデザイン学科	75	300
	生活環境デザイン学科	<u>55</u>	<u>220</u>		生活環境デザイン学科	<u>70</u>	<u>280</u>
	ソーシャルデザイン学科	<u>45</u>	<u>180</u>		ソーシャルデザイン学科	<u>40</u>	<u>160</u>
国際文化学部	国際文化学科	80	320	国際文化学部	国際文化学科	80	320
	日本文化学科	60	240		日本文化学科	60	240
人間科学部	臨床心理学科	70	280	人間科学部	臨床心理学科	70	280
	子ども教育学科	80	320		子ども教育学科	80	320
	スポーツ健康科学科	100	400		スポーツ健康科学科	100	400
第13条	}	現行どおり		第13条	}	(略)	
第82条				第82条			
附 則 現行どおり				附 則 (略)			
附 則 この学則は、令和7年4月1日から施行する。							
別表第1	}	現行どおり		別表第1	}	(略)	
別表第6の3				別表第6の3			

新 学 則

別表第7

芸術学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 芸術表現学科

○美術専攻

(イ)必修科目

絵画・立体造形概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	芸術表現演習	2
デッサン	2	絵画基礎	2	日本画基礎	2	立体造形基礎	2
アーティスト実践論	2	美術Ⅰ	4	美術Ⅱ	4	美術実践Ⅰ	2
美術実践Ⅱ	2	美術Ⅲ	4	美術Ⅳ	4	アーティスト実践演習	2
美術実践Ⅲ	2	美術実践Ⅳ	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4
美術実践Ⅴ	2	美術実践Ⅵ	2				

(ロ)選択必修科目

色彩学	2	絵画演習	2	塑造演習	2	デッサン基礎演習	2
日本画実習	2	デッサン実習	2	絵画実習	2	西洋絵画史	2
写真演習	2	フィギュア演習	2	ペーパークラフト演習	2	CG演習A	2
CG演習B	2	材料実習	2	ドローイング基礎実習	2	版画基礎実習	2
溶接実習	2	インスタレーション実習	2				

(ハ)選択科目

メディア芸術概論	2	美術概論	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2
図学製図基礎演習	2	平面構成	2	立体構成	2	アニメーション芸術論	2
サウンド芸術概論	2	映像芸術表現論	2	工芸史	2	サウンドアート演習	2
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	マテリアルデザイン演習	2	マンガ芸術論	2
メディアアート表現論	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2

(割る)

○メディア芸術専攻

(イ)必修科目

メディア芸術概論	2	芸術表現演習	2	映像表現実習	2	デジタル表現実習	2
デジタルペイント実習	2	アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2	メディアアート表現論	2
マンガ芸術論	2	メディア芸術演習A	4	メディア芸術演習B	4	メディア芸術演習C	4
メディア芸術演習D	4	メディア芸術演習E	4	メディア芸術応用演習Ⅰ	4	メディア芸術応用演習Ⅱ	4
プレゼンテーションデザイン実習	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	視覚心理学	2	美術概論	2	コンピュータ基礎演習	2
デッサン	2	グラフィックデザイン	2	サウンド芸術概論	2	色彩学	2
サウンドアート演習	2	企画コンセプト演習	2	映像芸術制作実習	2	アニメーション制作実習	2
2Dアニメーション制作実習	2	メディア芸術特別論	2	メディア芸術特別実習	2	インスタレーション実習	2
ゲーム開発実習	2	サウンドアート実習	2				

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	絵画・立体造形概論	2
QUEST演習	2	デッサン基礎演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2
平面構成	2	立体構成	2	特撮・VFX概論	2	現代写真論	2
映像史	2	キャリア開発A	2	フィギュア演習	2	学外演習	2
工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	ドローイング基礎実習	2	意匠・商標法	2
キャリア開発B	2						

旧 学 則

別表第7

芸術学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 芸術表現学科

○絵画専攻

(イ)必修科目

絵画概論	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2	日本美術史	2
芸術表現演習	2	デッサン	2	日本画基礎	2	版画基礎	2
洋画基礎	2	絵画Ⅰ	4	絵画Ⅱ	4	材料実習	2
絵画Ⅲ	4	絵画Ⅳ	4	絵画表現実習Ⅳ	4	絵画表現実習Ⅴ	4
絵画表現実習Ⅵ	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2	デッサン実習	2	日本画実習	2
平面構成	2	立体構成	2	キャリア開発演習A	2	写真演習	2
ドローイング基礎実習	2	絵画表現実習Ⅰ	4	絵画表現実習Ⅱ	4	版画基礎実習	2
版画実習	2	西洋絵画史	2	ドローイング実習	2	絵画表現実習Ⅲ	4

(ハ)選択科目

メディア芸術概論	2	色彩学	2	美術概論	2	立体造形概論	2
QUEST演習A	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	絵画演習	2
図学製図基礎演習	2	グラフィックデザイン	2	デジタルペイント	2	ベーシックモーション	2
アニメーション芸術論	2	サウンド芸術概論	2	映像芸術表現論	2	現代美術論	2
工芸史	2	工芸デザイン概論	2	美術解剖学	2	QUEST演習B	2
キャリア演習(実践)	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2	現代美術演習	2
キャラクターオブジェ基礎実習	2	モザイク	2	マンガ芸術論	2	QUEST演習C	2
キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2	フィギュア演習Ⅱ	2	プロダクトデザイン基礎演習	2
ミクストメディア演習	2	インスタレーション実習	2				

○立体造形専攻

(イ)必修科目

西洋美術史	2	日本美術史	2	立体造形概論	2	ペーパークラフト演習	2
芸術表現演習	2	塑造演習	2	デッサン	2	デラコック実習	2
平面構成	2	立体構成	2	スチロールワーク演習Ⅰ	2	フィギュア演習Ⅰ	2
キャラクターオブジェ基礎実習	2	塑造実習Ⅰ	2	本影表現基礎実習	2	FRP造形演習	2
スチロールワーク演習Ⅱ	2	フィギュア演習Ⅱ	2	ミクストメディア演習	2	現代本影表現実習	2
総合立体造形演習Ⅰ	4	総合立体造形演習Ⅱ	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

(ロ)選択必修科目

色彩学	2	デッサン基礎演習	2	モデリング基礎演習	2	図学製図基礎演習	2
立体造形基礎演習	2	現代美術論	2	美術解剖学	2	写真演習	2
溶接演習	2	キャラクターオブジェ実習	2	塑造実習Ⅱ	2	溶接実習	2
インスタレーション実習	2						

(ハ)選択科目

メディア芸術概論	2	絵画概論	2	工芸デザイン概論	2	東洋美術史	2
美術概論	2	QUEST演習A	2	コンピュータ基礎演習	2	絵画演習	2
グラフィックデザイン	2	デジタルペイント	2	ベーシックモーション	2	アニメーション芸術論	2
サウンド芸術概論	2	映像芸術表現論	2	工芸史	2	材料学	2
QUEST演習B	2	キャリア演習(実践)	2	キャリア開発演習A	2	サウンドアート演習	2
デラコック演習	2	学外演習	2	現代美術演習	2	工芸デザイン基礎演習	2
ドローイング基礎実習	2	モザイク	2	版画実習	2	エンターテイメント芸術論	2
西洋絵画史	2	QUEST演習C	2	キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2
プロダクトデザイン基礎演習	2						

○メディア芸術専攻

(イ)必修科目

メディア芸術概論	2	芸術表現演習	2	グラフィックデザイン	2	デジタルペイント	2
デッサン	2	ベーシックモーション	2	アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2
サウンドアート演習	2	メディア芸術演習A	4	メディア芸術演習B	4	メディア芸術演習C	4
メディア芸術演習D	4	企画ストーリー演習	2	エンターテイメント芸術論	2	メディア芸術特別論	2
メディア芸術応用演習Ⅰ	4	メディア芸術応用演習Ⅱ	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	絵画概論	2	視覚心理学	2	美術概論	2
立体造形概論	2	サウンド芸術概論	2	現代美術論	2	色彩学	2
美術解剖学	2	マンガ設計制作実習Ⅰ	2	マンガ設計制作実習Ⅱ	2	マンガ芸術論	2
メディア芸術特別演習	2	Webデザイン実習	2	アニメーション設計制作実習	2	インスタレーション実習	2
エンターテイメント芸術設計制作実習	2	ゲーム設計制作実習	2	サウンドアート実習	2	映像芸術設計制作実習	2

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2	日本美術史	2
QUEST演習A	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	絵画演習	2
塑造演習	2	平面構成	2	立体構成	2	特撮・VFX概論	2
QUEST演習B	2	キャリア演習(実践)	2	キャリア開発演習A	2	フィギュア演習Ⅰ	2
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	ドローイング基礎実習	2
意匠・商標法	2	QUEST演習C	2	キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2
ミクストメディア演習	2						

新 学 則					旧 学 則				
(2) 写真・映像メディア学科					(2) 写真・映像メディア学科				
○写真専攻					○写真専攻				
(イ)必修科目					(イ)必修科目				
写真学概論	2	写真史	2	写真・映像メディア演習	2	映像表現実習Ⅰ	2		
写真基礎実習Ⅰ	2	写真基礎実習Ⅱ	2	写真芸術論	2	写真制作論B	2		
写真表現実習A	2	写真表現実習B	2	写真表現実習C	2	写真表現実習D	2		
制作実習A	2	制作実習B	2	写真制作基礎実習B	2	ゼミナールⅠ	4		
ゼミナールⅡ	4	写真制作実習A	2	写真制作実習B	2	写真制作実習C	2		
写真制作実習D	2	写真制作実習E	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		
(ロ)選択必修科目					(ロ)選択必修科目				
写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2		
メディア基礎実習	2	写真基礎実習A	2	写真基礎実習B	2	平面構成	2		
立体構成	2	写真制作論A	2	写真制作論C	2	写真制作基礎実習A	2		
写真創作演習A	2	写真創作演習B	2						
(ハ)選択科目					(ハ)選択科目				
マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	映像論	2	色彩学	2		
西洋美術史	2	日本美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2		
3DCG演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	絵画演習	2		
工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2	写真制作論D	2	映像史	2		
現代写真論	2	サウンド芸術概論	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2		
写真クリエイティブ実習A	2	写真クリエイティブ実習B	2	写真クリエイティブ実習C	2	写真クリエイティブ実習D	2		
写真作家論A	2	写真作家論B	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2		
映像表現実習Ⅱ	2								
○映像メディア専攻					○映像メディア専攻				
(イ)必修科目					(イ)必修科目				
マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	3DCG演習	2	クリエイティブ演習A	2		
写真・映像メディア演習	2	メディア基礎実習	2	映像基礎実習A	2	映像基礎実習B	2		
インスタレーション実習A	2	デジタルコンテンツデザイン	2	映像史	2	音響デザイン	2		
番組制作概論	2	クリエイティブ演習BⅠ	1	クリエイティブ演習BⅡ	1	アニメーション実習	2		
映像基礎実習C	2	映像基礎実習D	2	インスタレーション実習B	2	広告マーケティング論	2		
アドバイジング	2	ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	卒業研究Ⅰ	4		
卒業研究Ⅱ	4								
(ロ)選択必修科目					(ロ)選択必修科目				
写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2		
平面構成	2	立体構成	2	サウンド芸術概論	2	特撮・VFX概論	2		
メタバースコンテンツ演習	2	3DCG実習	2	音響基礎実習	2	演技基礎実習	2		
特撮・VFX実習	2	番組制作実習	2	シナリオ演習	2	3DCGモデリング演習	2		
映像演出実習	2								
(ハ)選択科目					(ハ)選択科目				
映像論	2	視覚心理学	2	色彩学	2	写真学概論	2		
写真史	2	西洋美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2		
コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	塑造演習	2	アニメーション芸術論	2		
映像芸術表現論	2	現代写真論	2	写真制作論A	2	サウンドアート演習	2		
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	メディアアート表現論	2	マンガ芸術論	2		
日本美術史	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	絵画演習	2		
サウンドアート実習	2								

新 学 則

旧 学 則

(4) 生活環境デザイン学科

○生産造形デザイン専攻

(イ)必修科目

生産造形デザイン概論	2	生活環境デザイン演習	2	生産造形デザイン演習ⅠA	2	生産造形デザイン演習ⅠB	4
デッサン	2	立体構成	2	平面構成	2	生産造形デザイン演習ⅡA	4
生産造形デザイン演習ⅡB	4	生産造形デザイン演習ⅡC	4	生産造形デザイン演習ⅡD	4	生産造形デザイン演習ⅢA	4
生産造形デザイン演習ⅢB	4	生産造形デザイン演習ⅢC	4	生産造形デザイン演習ⅢD	4	卒業研究Ⅰ	4
卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

工芸史	2	デザイン史	2	工業デザイン基礎演習	2	図学製図A	2
図学製図B	2	材料加工実習A	1	材料加工実習B	1	材料加工実習C	1
材料加工実習D	1	材料加工実習E	1	テキスタイル実習A	2	プロダクトデザイン実践論	2
CG演習A	2	CG演習B	2	マテリアルデザイン演習	2	生産デザイン表示図法	2
テキスタイル実習B	2	漆芸実習A	2	漆芸実習B	2	生産造形デザイン特別実習A	2
コンセプト・クリエイティング演習	2	生産造形デザイン特別実習B	2				

(ハ)選択科目

色彩学	2	美術概論	2	西洋美術史	2	QUEST演習	2
コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	塑造演習	2	ファッションデザイン論	2
日本美術史	2	インテリア建築デザイン論	2	サウンド芸術概論	2	人間工学概論	2
キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2	学外演習	2	写真演習	2
絵画演習	2	色彩計画演習B	2	クラフトデザイン実習	2	溶接実習	2
最近・商標法	2	キャリア開発B	2				

(削る)

(4) 生活環境デザイン学科

○工業デザイン専攻

(イ)必修科目

デザイン史	2	工業デザイン概論	2	工業デザイン演習A	4	工業デザイン基礎演習	2
図学製図基礎演習	2	生活環境デザイン演習	2	デッサン	2	工業デザイン実習ⅠA	2
工業デザイン実習ⅠB	2	平面構成	2	立体構成	2	工業デザイン演習B	4
工業デザイン演習ⅡA	2	工業デザイン演習ⅡB	4	工業デザイン演習C	4	工業デザイン演習ⅢA	2
工業デザイン演習ⅢB	4	工業デザイン演習D	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

(ロ)選択必修科目

東洋美術史	2	材料学	2	CG演習A	2	CG演習B	2
キャリア開発演習B	2	工業デザイン特別演習A	4	工業デザイン特別演習B	4	CAD実習	2
ガラス実習	2	漆芸実習A	2	漆芸実習B	2	工業デザイン特別演習C	4
工業デザイン特別演習D	4						

(ハ)選択科目

工芸史	2	色彩学	2	西洋美術史	2	人間工学概論	2
美術概論	2	QUEST演習A	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2
絵画演習	2	塑造演習	2	サウンド芸術概論	2	ファッションデザイン論	2
日本美術史	2	QUEST演習B	2	キャリア演習(実践)	2	キャリア開発演習A	2
サウンドデザイン演習	2	学外演習	2	写真演習	2	クラフトデザイン実習	2
溶接実習	2	QUEST演習C	2	キャリア開発演習C	2	プロダクトデザイン基礎演習	2

○プロダクトデザイン専攻

(イ)必修科目

デザイン史	2	プロダクトデザイン概論	2	プロダクトデザイン演習Ⅰ	4	生活環境デザイン演習	2
製図演習A	2	製図演習B	2	デッサン	2	材料加工実習B	2
平面構成	2	立体構成	2	プロダクトデザイン理論	2	FD製図演習	4
プロダクトデザイン演習A	4	プロダクトデザイン演習Ⅱ	4	マテリアルデザイン演習	4	プロダクトデザイン演習B	4
プロダクトデザイン演習Ⅲ	4	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

人間工学概論	2	コンピュータ基礎演習	2	材料加工実習A	2	プロダクトデザイン実践論	2
材料学	2	地域ブランド企画論	2	CG演習A	2	CG演習B	2
CAD実習	2	クラフトデザイン実習	2	レンダリング実習	2	キャリア開発演習C	2
プロダクトデザイン演習C	4	プロダクトデザイン演習D	4	モデリング実習A	2	モデリング実習B	2

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	工業デザイン概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2
東洋美術史	2	美術概論	2	QUEST演習A	2	デッサン基礎演習	2
塑造演習	2	サウンド芸術概論	2	工芸史	2	日本美術史	2
QUEST演習B	2	キャリア演習(実践)	2	キャリア開発演習A	2	キャリア開発演習B	2
サウンドデザイン演習	2	映像演習	2	絵画演習	2	学外演習	2
工業デザイン基礎演習	2	色彩計画演習B	2	写真演習	2	最近・商標法	2
QUEST演習C	2						

○空間演出デザイン専攻

(イ)必修科目

デザイン史	2	空間演出デザイン概論	2	空間演出デザイン演習Ⅰ	4	生活環境デザイン演習	2
デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	空間演出デザイン演習ⅡA	4
空間演出デザイン演習ⅡB	4	空間演出デザイン演習ⅡC	4	空間演出デザイン演習ⅡD	4	空間演出デザイン演習ⅢA	4
空間演出デザイン演習ⅢB	4	空間演出デザイン演習ⅢC	4	空間演出デザイン演習ⅢD	4	卒業研究Ⅰ	4
卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

材料加工実習A	2	材料加工実習C	2	製図実習A	2	インテリア建築デザイン論	2
ファッションデザイン論	2	材料学	2	舞台空間演出論	2	色彩計画演習B	2
ファッションイラスト実習	2	空間演出表現実習Ⅰ	2	製図実習B	2	コンセプト・クリエイティブ論	2
照明計画演習	4	空間演出表現実習Ⅱ	2				

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2
美術概論	2	QUEST演習A	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2
塑造演習	2	サウンド芸術概論	2	工芸史	2	工業デザイン概論	2
日本美術史	2	CG演習A	2	CG演習B	2	QUEST演習B	2
キャリア演習(実践)	2	キャリア開発演習A	2	キャリア開発演習B	2	サウンドデザイン演習	2
絵画演習	2	学外演習	2	工業デザイン基礎演習	2	写真演習	2
材料加工実習B	2	QUEST演習C	2	キャリア開発演習C	2	形態構造演習	4
建築生産論	2	建築法規	2	建築設計演習	4		

新 学 則					旧 学 則				
(5) ソーシャルデザイン学科					(5) ソーシャルデザイン学科				
○情報デザイン専攻					○情報デザイン専攻				
(イ)必修科目					(イ)必修科目				
ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2		
情報デザイン演習Ⅰ	4	視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2	Webデザイン演習	4		
デザインの現場	2	情報デザイン演習ⅡA	4	情報デザイン演習ⅡB	4	情報デザイン演習ⅢA	4		
情報デザイン演習ⅢB	4	情報デザイン研究Ⅰ	4	情報デザイン研究Ⅱ	4	卒業研究Ⅰ	4		
卒業研究Ⅱ	4								
(ロ)選択必修科目					(ロ)選択必修科目				
コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2		
美術概論	2	コンピュータ基礎演習	2	企画デザイン論	2	言葉と編集	2		
地域文化論	2	写真芸術論	2	映像芸術表現論	2	ブランドデザイン演習	4		
地域ブランド企画演習	4	デジタルプラットフォーム	2	Webデザイン応用演習	2	データサイエンス	2		
3DCG演習	2								
(ハ)選択科目					(ハ)選択科目				
色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2		
デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	感覚心理学	2		
サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2	学外演習	2	絵画演習	2		
塑造演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	映像演習	2		
サウンドデザイン演習	2	意匠・商標法	2	メディアアート表現論	2	キャリア開発B	2		
パッケージデザイン実習	2								
○企画デザイン専攻					○地域ブランド企画専攻				
(イ)必修科目					(イ)必修科目				
ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2		
企画デザイン演習Ⅰ	4	企画デザイン論	2	ブランドデザイン演習	4	地域ブランド企画演習	4		
デザインの現場	2	企画デザイン演習ⅡA	4	企画デザイン演習ⅡB	4	企画デザイン演習ⅢA	4		
企画デザイン演習ⅢB	4	企画デザイン研究Ⅰ	4	企画デザイン研究Ⅱ	4	卒業研究Ⅰ	4		
卒業研究Ⅱ	4								
(ロ)選択必修科目					(ロ)選択必修科目				
コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2		
美術概論	2	コンピュータ基礎演習	2	視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2		
言葉と編集	2	地域文化論	2	工芸史	2	生産造型デザイン概論	2		
Webデザイン演習	4	デジタルプラットフォーム	2	データサイエンス	2	3DCG演習	2		
パッケージデザイン実習	2								
(ハ)選択科目					(ハ)選択科目				
色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2		
デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	感覚心理学	2		
サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2	学外演習	2	絵画演習	2		
塑造演習	2	サウンドデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2	映像演習	2		
写真演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	キャリア開発B	2		
プロダクトデザイン基礎演習	2								
○グローバル・フードビジネス・プログラム 現行どおり					○グローバル・フードビジネス・プログラム (略)				
(二) 留学生に関する科目 現行どおり					(二) 留学生に関する科目 (略)				
(三) 教職に関する科目 現行どおり					(三) 教職に関する科目 (略)				
別表第8	┌	現行どおり			別表第8	┌	(略)		
別表第15					別表第15				

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	p. 2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	p. 2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	p. 9
(ア) 教育課程の変更内容	p. 9
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	p. 11
(ウ) 教員組織の変更内容	p. 12
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	p. 14

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

本学の芸術学部では、近年の入試状況等に鑑み、芸術学部全体の定員の適正化を図ることを目的として、学科の収容定員の見直しを行った結果、令和7（2025）年度から、下表のとおり収容定員を変更する。

なお、今回の変更に伴う大学全体の定員総数（入学定員：2,530人・収容定員：10,120人）に変更はない。

（単位：人）

学部・学科	変 更 前		変 更 後		増 減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
芸術学部 芸術表現学科	65	260	70	280	5	20
芸術学部 写真・映像メディア学科	50	200	55	220	5	20
芸術学部 生活環境デザイン学科	70	280	55	220	△15	△60
芸術学部 ソーシャルデザイン学科	40	160	45	180	5	20
合 計					±0	±0

※芸術学部ビジュアルデザイン学科（入学定員：75人、収容定員300人）は、収容定員の変更は行わない。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は、昭和35（1960）年に商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、時代の要請に応え、昭和38（1963）年に工学部を設置するとともに大学名を「九州産業大学」へ改称し、昭和39（1964）年に商学部第二部、昭和41（1966）年に芸術学部、昭和43（1968）年に経営学部、平成5（1993）年に経済学部、平成6（1994）年に国際文化学部、平成14（2002）年に情報科学部を設置してきた。

しかしながら、平成24（2012）年当時、それまでの志願者数の長期低落、就職率の低下、高い除籍・退学率などの課題が山積し、将来を見据えると危機的な状況にあったことから、全学挙げての「教育改革」に取り組み、平成28（2016）年に芸術学部の再編（既設の3学科体制から5学科体制に再編）を皮切りに、平成29（2017）年には理工系学部の再編（既設の「工学部」「情報科

学部」を「理工学部」「生命科学部」「建築都市工学部」に再編)、続けて、平成 30 (2018) 年に文系学部の再編(「商学部」「地域共創学部」「人間科学部」の新設、「経済学部」「国際文化学部」のカリキュラム改正等)を行い、3 カ年の間に全ての学部学科の見直しを図った。これらの取組みの結果、志願者総数は、学部再編前(平成 27 (2015) 年度)の 7,804 人から徐々に増加し、令和 2 (2020) 年度には 20,683 人までに増加した。なお、近年は 19,000 人台で推移しており、令和 5 (2023) 年度は 19,176 人となっている。

芸術学部においては、昭和 41 (1966) 年の開設以来、「美術学科」「デザイン学科」「写真映像学科(開設時は写真学科)」の 3 学科体制の下で、九州最大の芸術学部としてこれまで多くの卒業生を社会に送り出してきた。

しかしながら、芸術系の大学を取り巻く環境が大きく変わり、本学芸術学部においても、平成 27 (2015) 年度当時、入学者の推移を平成 20 (2008) 年度から見ても、学部として定員を充足できておらず、過去 5 年(平成 22 年～平成 26 年)平均の定員充足率は、美術学科 52.0%、デザイン学科 83.6%、写真映像学科 64.5%と慢性的な定員割れの状況であった。このような状況を打破するために様々な検討を重ねた結果、平成 28 (2016) 年度から、それまでの芸術学部(入学定員 340 人、収容定員 1,360 人)「美術学科(入学定員 80 人、収容定員 320 人)」、「デザイン学科(入学定員 180 人、収容定員 720 人)」、「写真映像学科(入学定員 80 人、収容定員 320 人)」の 3 学科体制から、新たな芸術学部(入学定員 300 人、収容定員 1,200 人)として、「芸術表現学科(入学定員 65 人、収容定員 260 人)」、「写真・映像メディア学科(入学定員 50 人、収容定員 200 人)」、「ビジュアルデザイン学科(入学定員 75 人、収容定員 300 人)」、「生活環境デザイン学科(入学定員 70 人、収容定員 280 人)」、「ソーシャルデザイン学科(入学定員 40 人、収容定員 160 人)」の 5 学科体制に再編を行った。

その結果、芸術学部の志願者総数は、以下のとおり、再編前と比較して着実に志願者数を伸ばしてきている。

年 度	志願者総数	備考
平成 27 (2015) 年度	429 人	学部再編前年度
平成 28 (2016) 年度	702 人	学部再編以降
平成 29 (2017) 年度	662 人	
平成 30 (2018) 年度	695 人	
令和元 (2019) 年度	924 人	
令和 2 (2020) 年度	1,284 人	
令和 3 (2021) 年度	1,386 人	
令和 4 (2022) 年度	1,343 人	
令和 5 (2023) 年度	1,380 人	

このような結果において、一連の学部再編の効果により大学全体及び芸術学部の志願者総数は増加してきている。しかしながら、芸術学部では、学科の下に専攻を設けているが、近年、受験生が希望する専攻に偏りが見られることから、一部の学科においては定員確保が厳しい状況も見受けられる。したがって、令和7（2025）年度から、受験生のニーズを踏まえて専攻及びカリキュラムの見直し等を行い、専攻の統廃合、専攻の名称変更を行うことと併せて、芸術学部の各学科の定員の適正化を図るため、収容定員の変更を行うこととした。

なお、今回の見直しは「芸術学部」を対象に行うものであり、大学全体としての収容定員に変更は生じない。

（芸術学部 芸術表現学科）

芸術学部芸術表現学科（入学定員 65 人、収容定員 260 人）は、平成 28（2016）年 4 月の芸術学部再編において、既設の「美術学科」、「デザイン学科」、「写真映像学科」の 3 学科体制から「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ビジュアルデザイン学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の 5 学科体制に再編した際、多様化する新しい時代の要請に応え、地域から世界に至る人類社会の発展に貢献するために、独創的な造形力や審美力を基に伝統的な表現手法や先端的な表現手法を用いて、新たな芸術を創造できる芸術表現分野の専門家を養成するための「絵画専攻」、「立体造形専攻」、「メディア芸術専攻」からなる学科として設置した。

その際、定員の設定については、近年の入試状況や全国の私立大学等の動向を踏まえるとともに、高校生を対象としたアンケート調査の結果等を総合的に勘案し、新設する芸術学部芸術表現学科の入学定員を 65 人とした。

今回、芸術学部芸術表現学科の入学定員を 65 人から 70 人に、収容定員を 260 人から 280 人に変更する。

収容定員変更の理由としては、学部再編以降、安定的に志願者を確保できていることが大きな要因である。なお、入学定員 65 人に対する直近 5 か年の志願者、志願倍率、入学者数及び入学定員超過率は下表のとおりである

年度	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 超過率
令和元（2019）年度	171 人	2.63 倍	66 人	1.02
令和2（2020）年度	271 人	4.17 倍	78 人	1.20
令和3（2021）年度	242 人	3.72 倍	67 人	1.03
令和4（2022）年度	273 人	4.20 倍	69 人	1.06
令和5（2023）年度	307 人	4.72 倍	77 人	1.18

芸術学部再編以降、各年度において若干の増減があるものの、志願者数も一定程度集めることができしており、志願倍率も高くなっている。(5年間の平均3.89倍) また、確実に入学者も確保することができており、入学定員超過率も毎年1.00を上回っている。

なお、芸術表現学科は、学科の下に「絵画専攻」、「立体造形専攻」、「メディア芸術専攻」の3専攻を設置している。この3専攻の中において、特に「立体造形専攻」においては、学部再編以降、学生の希望が少ない状況であるため、「絵画専攻」と統合し、「美術専攻」と名称を変更する。

変更する主な理由としては、①絵画や彫刻などの純粋芸術を網羅する言葉として志願者が理解しやすい ②美術部の生徒が捉えやすい ③現代美術という言葉との親和性が高い などであり、新専攻では、新たな取り組みとして、①現代美術としての表現を学ぶ ②作家として活動しやすい姿勢を学べる教育を提供する ③グローバル化に対応するためのプログラムを実践する ④これまで関東地区や関西地区の美術系大学を志願していた層を取り込む ことを目指し、これまで以上に受験生に分かりやすい専攻名に変更し、さらに、受験生のニーズに合った魅力あるカリキュラムとなるよう見直しも行う。

一方、「メディア芸術専攻」は、学部再編以降、毎年多くの学生が希望する人気の専攻となっている。

近年の入試状況、また、専攻の見直しやカリキュラムの見直し等を行うことにより、今後も十分に学生確保が可能であると考えているため、今回、収容定員の変更(増員)を行う。

(芸術学部 写真・映像メディア学科)

芸術学部写真・映像メディア学科(入学定員50人、収容定員200人)は、平成28(2016)年4月の芸術学部再編において、既設の「美術学科」、「デザイン学科」、「写真映像学科」の3学科体制から「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ビジュアルデザイン学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の5学科体制に再編した際、最新の撮影技術や処理技術を用いて、様々な撮影現場への対応と作品表現を通して社会へ発信できる写真・映像メディア分野の専門家を養成するための「写真専攻」、「映像メディア専攻」からなる学科として設置した。

その際、定員の設定については、近年の入試状況や全国の私立大学等の動向を踏まえるとともに、高校生を対象としたアンケート調査の結果等を総合的に勘案し、新設する芸術学部写真・映像メディア学科の入学定員を50人とした。

今回、芸術学部写真・映像メディア学科の入学定員を50人から55人に、収容定員を200人から220人に変更する。

収容定員変更の理由としては、学部再編以降、安定的に志願者を確保できていることが大きな要因である。なお、入学定員50人に対する直近5か年の志願者、志願倍率、入学者数及び入学定員超過率は下表のとおりである

年度	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 超過率
令和元（2019）年度	160 人	3.20 倍	54 人	1.08
令和2（2020）年度	289 人	5.78 倍	56 人	1.12
令和3（2021）年度	313 人	6.26 倍	53 人	1.06
令和4（2022）年度	338 人	6.76 倍	55 人	1.10
令和5（2023）年度	280 人	5.60 倍	54 人	1.08

芸術学部再編以降、各年度において若干の増減があるものの、志願者数も一定程度集めることができしており、志願倍率も高くなっている。（5年間の平均5.52倍）また、確実に入学者も確保することができており、入学定員超過率も毎年1.00を上回っている。

なお、写真・映像メディア学科は、学科の下に「写真専攻」、「映像メディア専攻」の2専攻を設置しているが、今回、受験生のニーズにあった魅力あるカリキュラムとなるよう見直しを行う。

近年の入試状況、また、カリキュラムの見直し等を行うことにより、今後も十分に学生確保が可能であると考えているため、今回、収容定員の変更（増員）を行う。

（芸術学部 生活環境デザイン学科）

芸術学部生活環境デザイン学科（入学定員70人、収容定員280人）は、平成28（2016）年4月の芸術学部再編において、既設の「美術学科」、「デザイン学科」、「写真映像学科」の3学科体制から「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ビジュアルデザイン学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の5学科体制に再編した際、バランスのとれた構成力や造形力を基に伝統的・先端的な表現技術を用いて、豊かな生活に貢献できる生活環境デザイン分野の専門家を養成するための「工芸デザイン専攻」、「プロダクトデザイン専攻」、「空間演出デザイン専攻」からなる学科として設置した。

その際、定員の設定については、近年の入試状況や全国の私立大学等の動向を踏まえるとともに、高校生を対象としたアンケート調査の結果等を総合的に勘案し、新設する芸術学部生活環境デザイン学科の入学定員を70人とした。

今回、芸術学部生活環境デザイン学科の入学定員を70人から55人に、収容定員を280人から220人に変更する。

収容定員変更の理由としては、学部再編以降、一時、志願者数に増加傾向も見受けられたが、近年は減少傾向が続いており、入学定員を充足することが厳しい状況となっていることが大きな要因である。なお、入学定員70人に対する直近5か年の志願者、志願倍率、入学者数及び入学定員超過率は下表のとおりである

年度	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 超過率
令和元（2019）年度	151 人	2.16 倍	63 人	0.90
令和2（2020）年度	181 人	2.59 倍	71 人	1.01
令和3（2021）年度	223 人	3.19 倍	67 人	0.96
令和4（2022）年度	186 人	2.66 倍	51 人	0.73
令和5（2023）年度	157 人	2.24 倍	55 人	0.79

芸術学部再編以降、各年度において若干の増減があるものの、志願者数が減少傾向であり、志願倍率は5年間の平均で2.57倍と他学科に比べ低い倍率で推移している。また、入学者数も充足することができておらず、入学定員超過率も5年間の平均で0.88と1.00を下回っている。

なお、生活環境デザイン学科は、学科の下に「工芸デザイン専攻」、「プロダクトデザイン専攻」、「空間演出デザイン専攻」の3専攻を設置している。この3専攻の中において、特に「工芸デザイン専攻」へのニーズが低いことが一因として、学科の入学定員を充足できていない状況が続いている。このため、「工芸デザイン専攻」と「プロダクトデザイン専攻」を統合し、新たに「生産造形デザイン専攻」と名称を変更する。

変更する主な理由としては、①工芸の強みである「造形する力」を武器に生活に必要なものを生み出す「生産」のデザインを学ぶ ②工芸、クラフト、インダストリアルを網羅し、現代のプロダクトデザインを捉える概念として「生産造形」を造語とした などであり、新専攻では、新たな取り組みとして、①曖昧であったクラフトデザインを志向する志願者層を取り込む ②工芸の弱みであったキャリア教育を専攻全体で強化する ③全学生に対してアナログとデジタルの教育を必須化する ことを目指し、これまで以上に受験生に分かりやすい専攻名に変更し、さらに、受験生のニーズに合った魅力あるカリキュラムとなるよう見直しも行う。

一方、「空間演出デザイン専攻」は、学部再編以降、毎年多くの学生が希望する人気の専攻となっている。

なお、今回、専攻の見直し及びカリキュラムの見直し等を図り、本学科の特色等をさらに発信することにより、本学科に興味を持つ高校生の確保は可能であると考えるが、近年の入試状況等に鑑み、今回、収容定員の変更（減員）を行う。

（芸術学部 ソーシャルデザイン学科）

芸術学部ソーシャルデザイン学科（入学定員40人、収容定員160人）は、平成28（2016）年4月の芸術学部再編において、既設の「美術学科」、「デザイン学科」、「写真映像学科」の3学科体制から「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ビジュアルデザイン学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の5学科体制に再編した際、「地域ブランド」、「地域振興」、「情報デザイン」等のキーワードで表せられるように『知の拠点としての地方大学強化プラン「地方大学等創生5か年戦略」の地方公共団体や企業と連携して、地域課題の解決に積極

—学則変更の趣旨等（本文）—7—

的に取り組む』ことを念頭に、地域の問題にデザインという視点から挑戦していく新しい試みの学科として、「情報デザイン専攻」、「地域ブランド企画専攻」からなる学科として設置した。

その際、定員の設定については、近年の入試状況や全国の私立大学等の動向を踏まえるとともに、高校生を対象としたアンケート調査の結果等を総合的に勘案し、新設する芸術学部ソーシャルデザイン学科の入学定員を40人とした。

今回、芸術学部ソーシャルデザイン学科の入学定員を40人から45人に、収容定員を160人から180人に変更する。

収容定員変更の理由としては、学部再編以降、安定的に志願者を確保できていることが大きな要因である。なお、入学定員40人に対する直近5か年の志願者、志願倍率、入学者数及び入学定員超過率は下表のとおりである

年度	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 超過率
令和元（2019）年度	98人	2.45倍	41人	1.03
令和2（2020）年度	164人	4.10倍	50人	1.25
令和3（2021）年度	141人	3.53倍	43人	1.08
令和4（2022）年度	126人	3.15倍	42人	1.05
令和5（2023）年度	173人	4.33倍	45人	1.13

芸術学部再編以降、各年度において若干の増減があるものの、志願者数も一定程度集めることができおり、志願倍率も高くなっている。（5年間の平均3.51倍）また、確実に入学者も確保することができおり、入学定員超過率も毎年1.00を上回っている。

なお、ソーシャルデザイン学科は、学科の下に「情報デザイン専攻」、「地域ブランド企画専攻」の2専攻を設置している。この2専攻の中で、特に「地域ブランド企画専攻」においては、学部再編以降、学生の希望が少ない状況であるため、「企画デザイン専攻」と名称を変更する。

変更する主な理由としては、①入学者へのヒアリングから名詞が3つ並ぶ専攻名称が何を学ぶか判断しづらい ②「地域」は学部全体のテーマである ③「ブランド」は入学者が理解できていない ④シンプルに「企画」を学ぶことを伝える など、これまで以上に受験生に分かりやすい専攻名に変更し、さらに、受験生のニーズに合った魅力あるカリキュラムとなるよう見直しを行う。

一方、「情報デザイン専攻」は、学部再編以降、毎年多くの学生が希望する人気の専攻となっている。

近年の入試状況、また、専攻の見直しやカリキュラムの見直し等を行うことにより、今後も十分に学生確保が可能であると考えているため、今回、収容定員の変更（増員）を行う。

なお、九州内における芸術系の学部は、本学を含めて6大学しか設置されていない状況であり、本学としても他大学との差別化を図るために、多彩な分野を学ぶことができる特色あるカリキュ—学則変更の趣旨等（本文）—8—

ラムを構築している。この特色あるカリキュラムの構築等により、本学が独自に実施しているイベント（オープンキャンパス・入試説明会等）への参加者のうち、他の学部学科に比べて志願に結びつく割合が非常に高い学部となっており、受験生の関心の高さや目的意識の高さがうかがえることも、芸術学部の特徴の一つと言える。

これらの状況等から、今後、芸術学部の特徴等をさらに発信することにより、芸術学部の各学科に興味を持つ高校生の確保は十分可能であると考え、今回、定員の変更を行うものである。

さらに、別資料の「学生の確保の見通し等を記載した書類」に記述したとおり、18歳人口の動向及び本学が所在する福岡県の人口動向等から見ても、十分に学生を確保できる見通しである。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容

今回、芸術学部の「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の収容定員変更之际、現行の教育課程等の一部を変更する。

主な変更理由としては、近年の急速な社会情勢の変化に対応すべく、「時代に即した教育の推進」、「グローバル化の推進」、「文理芸融合教育の推進」、「学修者本位の教育の推進」、「カリキュラムのスリム化」等、本学の目指す姿を明確にし、受験生のニーズに合った魅力あるカリキュラムの構築を目指して、「科目名の変更」、「科目の統合」、「科目の新設」、「科目の削除」等の変更を行う。

なお、今回収容定員の変更を行わない「ビジュアルデザイン学科」においても、他の学科同様に教育課程の変更を行う。

（詳細な変更内容等は、別資料の「学則」に添付。）

（芸術学部 芸術表現学科）

芸術学部芸術表現学科では、次の表に掲げる専攻を設置している。

専 攻 名
美術専攻
メディア芸術専攻

教育課程としては、「専門科目」及び全学共通の「基礎教育科目」、「外国語科目」に大別されている。

「専門科目」では、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に区分され、その中で「講義」、「演習」、「実習」科目が区分されている。

なお、その他、留学生を対象とした「留学生に関する科目」を配置している。

(芸術学部 写真・映像メディア学科)

芸術学部写真・映像メディア学科では、次の表に掲げる専攻を設置している。

専 攻 名
写真専攻
映像メディア専攻

教育課程としては、「専門科目」及び全学共通の「基礎教育科目」、「外国語科目」に大別されている。

「専門科目」では、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に区分され、その中で「講義」、「演習」、「実習」科目が区分されている。

なお、その他、留学生を対象とした「留学生に関する科目」を配置している。

(芸術学部 生活環境デザイン学科)

芸術学部生活環境デザイン学科では、次の表に掲げる専攻を設置している。

専 攻 名
生産造形デザイン専攻
空間演出デザイン専攻

教育課程としては、「専門科目」及び全学共通の「基礎教育科目」、「外国語科目」に大別されている。

「専門科目」では、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に区分され、その中で「講義」、「演習」、「実習」科目が区分されている。

なお、その他、留学生を対象とした「留学生に関する科目」を配置している。

(芸術学部 ソーシャルデザイン学科)

芸術学部ソーシャルデザイン学科では、次の表に掲げる専攻を設置している。

専 攻 名
情報デザイン専攻
企画デザイン専攻

教育課程としては、「専門科目」及び全学共通の「基礎教育科目」、「外国語科目」に大別されている。

「専門科目」では、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に区分され、その中で「講義」、「演習」、「実習」科目が区分されている。

なお、その他、留学生を対象とした「留学生に関する科目」を配置している。

(芸術学部 ビジュアルデザイン学科) ※収容定員の変更は行わない。

芸術学部ビジュアルデザイン学科では、次の表に掲げる専攻を設置している。

専 攻 名
グラフィックデザイン専攻
イラストレーションデザイン専攻

教育課程としては、「専門科目」及び全学共通の「基礎教育科目」、「外国語科目」に大別されている。

「専門科目」では、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に区分され、その中で「講義」、「演習」、「実習」科目が区分されている。

なお、その他、留学生を対象とした「留学生に関する科目」を配置している。

(4) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

今回、芸術学部「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の収容定員変更に際し、現行の教育方法及び履修指導方法に変更はない。

なお、本学では全ての学部学科において、以下のとおり履修指導等を行っている。

[新入生に対する履修指導等]

新入生に対しては、入学直後の「教育・教務ガイダンス」において履修指導等を行っている。また、各学科に必修科目として開講している「〇〇（学科名）演習」の1回目の授業や「新入生オリエンテーション」などの機会を活用し、担当教員や事務職員が指導を行っている。

る。

なお、本学では「クラス担任制度」を導入している。

クラス担任は、1 年次生に対して、入学直後の新入生アンケートを基に、二者面談を実施している。この取組みは、新入生に対してこれからの大学生活を有意義に過ごしてもらうために実施しているものであるが、併せて、除籍・退学率を減少させることも 1 つの目的としている。

本学では、これまでの除籍・退学者の検証において、1 年次終了時の修得単位が 10 単位以下の学生は、4 年次終了時までにはほとんどが除籍・退学に至っていることなどが確認できしており、検証の結果を踏まえて 1 年次生を重点的かつ継続的に指導・支援する必要性を認識している。そのため、クラス担任による面談を通して単位修得に関する相談や履修指導等に関する相談を受けている。

クラス担任は、2 年次以降もゼミの担当教員等が担当することとなっており、履修相談以外にも、普段の様子や出席状況を把握することで、修学上の問題の早期発見に努めている。

[在学生に対する履修指導等]

在学生に対しては、年度末に実施している新学年次のガイダンスにおいて、履修指導等を行っている。

また、修得単位、GPA 及び出席率等が一定の基準に満たない学生に対しては、修学指導の個別面談や必要に応じて、学生、保護者及び教職員で三者面談等を行っており、修学指導が必要な学生に対する継続的な個人の面談実施などの体制を構築している。

なお、これらの面談等については、個人情報の取扱いに配慮した上で、本学の「K' s Life (教職員が利用する LMS)」に所見情報を入力することとしており、関係教職員間での情報共有を図り、学生指導に役立てている。

(ウ) 教員組織の変更内容

(芸術学部 芸術表現学科)

今回、収容定員変更を行う芸術学部芸術表現学科では、令和 7 (2025) 年度以降においても、大学設置基準に定められた教員基準数を上回る基幹教員を配置し、教育の質保証を踏まえた学習環境の整備を図る。

現在、入学定員 65 人、収容定員 260 人に対し、基幹教員を 9 人配置している。これは大学設置基準が定めた教員基準数 (7 人) を 2 人上回っている。教員一人当たりの学生数 (ST 比) は約 29 人となり、本学の他の分野の学部 (文系学部、理工系の学部) と比較しても、定員規模の違いはあるものの、教員一人当たりの学生数 (ST 比) は低くなっている。

今回、入学定員を 65 人から 70 人、収容定員を 260 人から 280 人に変更することにより、教員一人当たりの学生数 (ST 比) は、約 32 人となり、現状から約 3 人増えることになる。

しかしながら、本学の他の学部等と比較しても教員一人当たりの学生数（ST 比）は少ないことから、学生指導体制等に大きな変更が生じることはない。今後もこれまで同様に、より良い学習環境を整備し、学生に対するきめ細かな指導体制の維持、向上を図ることにより、芸術学部芸術表現学科の人材養成に関する目的の実現に向けて取組んで行く。

（芸術学部 写真・映像メディア学科）

今回、収容定員変更を行う写真・映像メディア学科では、令和 7（2025）年度以降においても、大学設置基準に定められた教員基準数を上回る基幹教員を配置し、教育の質保証を踏まえた学習環境の整備を図る。

現在、入学定員 50 人、収容定員 200 人に対し、基幹教員を 8 人配置している。これは大学設置基準が定めた教員基準数（6 人）を 2 人上回っている。教員一人当たりの学生数（ST 比）は 25 人となり、本学の他の分野の学部（文系学部、理工系の学部）と比較しても、定員規模の違いはあるものの、教員一人当たりの学生数（ST 比）は低くなっている。

今回、入学定員を 50 人から 55 人、収容定員を 200 人から 220 人に変更することにより、教員一人当たりの学生数（ST 比）は、約 28 人となり、現状から約 3 人増えることになる。

しかしながら、本学の他の学部等と比較しても教員一人当たりの学生数（ST 比）は少ないことから、学生指導体制等に大きな変更が生じることはない。今後もこれまで同様に、より良い学習環境を整備し、学生に対するきめ細かな指導体制の維持、向上を図ることにより、芸術学部写真・映像メディア学科の人材養成に関する目的の実現に向けて取組んで行く。

（芸術学部 生活環境デザイン学科）

今回、収容定員変更を行う芸術学部生活環境デザイン学科では、令和 7（2025）年度以降、大学設置基準に定められた教員基準数を上回る基幹教員を配置し、教育の質保証を踏まえた学習環境の整備を図る。

現在、入学定員 70 人、収容定員 280 人に対し、基幹教員を 7 人配置している。これは大学設置基準が定めた教員基準数（7 人）と同数である。教員一人当たりの学生数（ST 比）は 40 人となり、本学の他の分野の学部（文系学部）と比較しても、定員規模の違いはあるものの、教員一人当たりの学生数（ST 比）は低くなっているが、芸術学部の他の学科と比べると高い状況であった。

今回、入学定員を 70 人から 55 人、収容定員を 280 人から 220 人に変更することにより、大学設置基準に定められた教員基準数が 6 人となるが、現在の基幹教員 7 人はそのまま変更せずに配置することにより、教員一人当たりの学生数（ST 比）は、約 32 人となり、現状から約 8 人減らすことが可能となる。

これにより、今まで以上により良い学習環境を整備し、学生に対するきめ細かな指導体制の維持、向上を図ることにより、芸術学部生活環境デザイン学科の人材養成に関する目的の実現に向けて取組んで行く。

(芸術学部 ソーシャルデザイン学科)

今回、収容定員変更を行うソーシャルデザイン学科では、令和7（2025）年度以降においても、大学設置基準に定められた教員基準数と同数の基幹教員を配置し、教育の質保証を踏まえた学習環境の整備を図る。

現在、入学定員40人、収容定員160人に対し、基幹教員を6人配置している。これは大学設置基準が定めた教員基準数（6人）と同数である。教員一人当たりの学生数（ST比）は約27人となり、本学の他の分野の学部（文系学部、理工系の学部）と比較しても、定員規模の違いはあるものの、教員一人当たりの学生数（ST比）は低くなっている。

今回、入学定員を40人から45人、収容定員を160人から180人に変更することにより、教員一人当たりの学生数（ST比）は、30人となり、現状から約3人増えることになる。

しかしながら、本学の他の学部等と比較しても教員一人当たりの学生数（ST比）は少ないことから、学生指導体制等に大きな変更が生じることはない。今後もこれまで同様に、より良い学習環境を整備し、学生に対するきめ細かな指導体制の維持、向上を図ることにより、芸術学部ソーシャルデザイン学科の人材養成に関する目的の実現に向けて取組んで行く。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

今回、「芸術学部芸術表現学科」、「芸術学部写真・映像メディア学科」、「芸術学部生活環境デザイン学科」、「芸術学部ソーシャルデザイン学科」の収容定員変更に際し、大学全体の施設・設備の変更は行わない。

収容定員を変更する「芸術学部芸術表現学科」、「芸術学部写真・映像メディア学科」、「芸術学部生活環境デザイン学科」、「芸術学部ソーシャルデザイン学科」は、今回収容定員を変更しない「芸術学部ビジュアルデザイン学科」と合わせて平成28（2016）年度に5学科体制に再編を行ったが、その際、大学設置基準に定められた「校舎の面積」等の基準を上回る面積で再編を行っている。

なお、芸術学部が使用する主な建物は、15号館（6,612.18㎡）〔一部、短期大学部・美術館共用〕、16号館（6,509.19㎡）〔一部、短期大学部と共用〕、17号館（11,566.96㎡）、18号館（1,762.80㎡）、19号館（1,601.82㎡）、20号館A棟（429.60㎡）、20号館B棟（450.00㎡）であり、今回、芸術学部の「生活環境デザイン学科」において入学定員15人、収容定員60人を減じ、「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ソーシャルデザイン学科」の3学科においては収容定員5人、収容定員20人増員となるが、学部全体（全5学科）での収容定員に変更はなく、「校舎の面積」等に関しては全く問題ない。また、芸術学部では学部の特性上、多くの実験・実習室・工房等を各建物に備えているが、設備等に関しても、現行の設備を変更せずに使用することができ、学習環境は十分に保たれる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	p. 2
① 収容定員を変更する組織の概要 (名称、入学定員 (編入学定員)、収容定員、所在地)	p. 2
② 収容定員を変更する組織の特色	p. 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 5
① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	p. 5
② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	p. 6
③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	p. 10
④ 既設組織の定員充足の状況	p. 11
(3) 学生確保の見通し	p. 15
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 15
ア 既設組織における取組とその目標	p. 15
イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標	p. 18
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数	p. 18
② 競合校の状況分析 (立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	p. 19
ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性	p. 19
イ 競合校の入学志願動向等	p. 20
ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等	p. 22
エ 学生納付金等の金額設定の理由	p. 24
③ 先行事例分析	p. 25
④ 学生確保に関するアンケート調査	p. 25
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	p. 25
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	p. 30

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 収容定員を変更する組織の概要

① 収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

収容定員を変更する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州産業大学 芸術学部 芸術表現学科	70	—	280	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号
九州産業大学 芸術学部 写真・映像メディア学科	55	—	220	同 上
九州産業大学 芸術学部 生活環境デザイン学科	55	—	220	同 上
九州産業大学 芸術学部 ソーシャルデザイン学科	45	—	180	同 上

② 収容定員を変更する組織の特色

今回、収容定員を変更する芸術学部の「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「生活環境デザイン学科」、「ソーシャルデザイン学科」の人材養成に関する目的は、以下のとおりである。

(芸術学部)

多様化する新しい時代の要請に応え地域から世界に至る人類社会の発展に貢献するために、芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科で構成し、「産学一如」の建学の理想のもと地域産業との連携や国内外の大学との共同研究や人的交流を積極的に推し進め、社会と文化の創造に貢献できるアーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を養成する。

(芸術学部 芸術表現学科)

絵画、立体造形、現代美術において新しい表現を提案する作家の養成、なおかつメディアアート、マンガ、ゲームなどの領域から様々な表現手法を習得した、広く多彩な先端芸術を担う人材を養成する。

(芸術学部 写真・映像メディア学科)

多様化する社会に対応するため、豊かな想像力と行動力を基に最新の撮影技術や処理技術を用いて、表現の可能性を最大限引き出せる様々な撮影現場への対応と、作品表現を通して社会へ発信できる写真・映像メディア分野の専門家を養成する。

(芸術学部 生活環境デザイン学科)

プロジェクト型教育など社会との関わりの中でデザインを検討し実施する機会を設け、それらへの参加を奨励し、地域社会や産業の中でデザインの役割を実感しながら学習することを通じて、実践的な能力と幅広い視野を持った人材を養成する。

(芸術学部 ソーシャルデザイン学科)

デザインの持つ情報発信力を基にIT技術や企画技術を用いて、地域や地域産業と積極的に連携していくソーシャルデザイン分野の専門家を養成する。

次に、収容定員を変更する組織の特色（学びのポイント）は、以下のとおりである。

(芸術学部 芸術表現学科)

・日本トップクラスの創作環境

絵画アトリエ、立体造形工房、メディア芸術では、アートに特化したデジタルラボなどを備え、その規模は日本トップクラスを誇っている。

・ファインアートから先端芸術まで学べる

伝統的なファインアートと先端的メディア芸術を融合したカリキュラムで、新たな文化芸術の時代を切り拓くアーティストを育成する。

・九州屈指のアート拠点

美術館や自治体、各種団体や国内外のアーティストらと協働し、社会＝文化とつながる芸術プロジェクトに取り組み、常時発信している。

(芸術学部 写真・映像メディア学科)

・最先端の映像メディア制作設備

撮影機材・ソフトウェアはテレビ局並みのプロ仕様。現役の映画監督からも学び、撮影・編集・音声まで一連の映像制作技術を身に付ける。

・感性と技術を磨いて未来のスペシャリストを目指す

最新撮影技術、映像技術を学び、国際交流体験を通じて視野を広げるなど、アナログからデジタルまでの高い感性と技術を養成する。

・最先端の写真表現を身につける

写真の先端技術を駆使して作品を制作し、自らの写真表現をプレゼンテーションする経験を重ねながら制作能力を高めていく。

(芸術学部 生活環境デザイン学科)

・他学部と連携した実践型授業プログラム

総合大学に芸術学部がある特長を活かした他学部との横断授業を通して、先端技術を活用し未来社会を創造するプログラムを導入している。

・九州唯一の充実した施設・設備

木・金属・陶磁器・布・ガラス・プラスチックなどの工房、クレイモデル室、柿右衛門様式窯など、他に類を見ない充実した施設・設備を設置している。

・リアルな産学官連携プログラム

家具・靴・博多織などの商品開発、商業施設のディスプレイなど、企業や地域と連携し課題解決のプロセスを実践的に学ぶプロジェクト型教育が豊富である。

(芸術学部 ソーシャルデザイン学科)

・社会を面白くする情報デザイン専攻

Web、グラフィックデザイン、映像、音響といったマルチな情報伝達技術・情報媒体について学び、情報を美しく、かつ分かりやすく編集する「情報デザイン力」を養う。

・社会の課題を発見・共有する企画デザイン専攻

人の営みを見つめ、問い直す「課題発見力」、それら見つけ出した課題を社会と共有する「コミュニケーションデザイン力」、解決に至るまでの道筋を探究する「企画力」を養う。

・産学官連携でディレクション能力を育成

地域コミュニティや企業、行政と連携し、共にプロジェクトを推進していくことで、状況を的確に認識し、適切な判断を下す実践知を養い、「ディレクション力」に長けた広義のデザイナーを育成する。

なお、収容定員を変更する組織と同学問分野の組織の概要は、次のとおりである。

収容定員を変更する組織と 同学問分野の組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州産業大学 芸術学部 ビジュアルデザイン学科	75	—	300	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号

今回の収容定員変更は、芸術学部の学科間における収容定員の変更であり、芸術学部全体（入学定員300人、収容定員1,200人）における収容定員に変更はない。なお、具体的な変更内容は以下のとおりである。

(単位：人)

学部・学科	変 更 前		変 更 後		増 減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
芸術学部 芸術表現学科	65	260	70	280	5	20
芸術学部 写真・映像メディア学科	50	200	55	220	5	20
芸術学部 ビジュアルデザイン学科	75	300	75	300	±0	±0
芸術学部 生活環境デザイン学科	70	280	55	220	△15	△60
芸術学部 ソーシャルデザイン学科	40	160	45	180	5	20
合 計					±0	±0

令和7(2025)年度から収容定員を増員させる学科は、「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ソーシャルデザイン学科」の3学科であり、収容定員を減員させる学科は、「生活環境デザイン学科」である。なお、「ビジュアルデザイン学科」の収容定員に変更はない。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

『令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)』の「学部系統別の動向(大学)」によると、本学芸術学部と同分野である「芸術系区分」の動向として、令和5年度集計学部数57の学部において、入学定員14,448人(昨年比+365人)に対して、志願者数は60,391人(昨年比+3,603人)、入学者数は15,217人(昨年比+359人)となっており、入学定員、志願者数及び入学者数は増加している。

また、「学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移(大学)」で見ると、「芸術系区分」の志願倍率は4.00倍程度、充足率は105.00%程度で推移しており、学部系統13区分の中において、「芸術系区分」は充足率が最も高い系統区分となっている。

次に、「主な学部別の志願者・入学者動向(大学)」によると、「芸術系区分」の令和5年度57学部の内訳として、「音楽学部」19学部、「芸術学部」19学部、「造形学部」6学部、「美術学部」5学部、「デザイン学部」4学部、「その他」4学部となっており、本学が設置している「芸術学

部」が「音楽学部」と並んで最も多い学部となっている。また、「芸術系区分」の中で「芸術学部」の入学定員が6,892人と最も多く、全体の47.7%を占めている。志願者数は29,327人と全体の48.6%、入学者数は7,616人と全体の50.0%を占めており、「芸術系区分」の学部の中では「芸術学部」が最も多くの志願者数・入学者数となっている。

なお、系統別区分では、「芸術系区分」の他に「その他の区分」が設けられており、その中にも本学芸術学部の学科若しくは学科の下に設置している専攻名と同様の学部名称（メディア・情報メディアなど）も散見されるなど、「芸術系区分」以外においても一定程度の志願者数は見込めると推測される。

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

『文部科学省「中央教育審議会総会（第137回）」（令和5年9月25日）』の資料（参考資料集）によると、大学等進学者数に関するデータにおいて、「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」では、18歳人口は、平成21～令和2年まではほぼ横ばいで推移するが、令和3年からは再び減少局面に突入し、令和23年には約79万人まで減少することが予測されている。

次に「都道府県別大学（学部）進学率の変化（過年度卒業者等を含む）」によると、地域によって差があるが、2007年と比較すると全体的に上昇している。なお、本学が所在する福岡県の進学率の変化では、2007年が44.0%であるのに対し、2022年は50.0%と6.0ポイントの上昇となっている。

また、「男女別・18歳人口と大学進学率等の推移」では、昭和50（1975）年と比べて、女性の大学入学者数は約19万人増加、進学率も約40ポイント増加している。また、近年は、男女とも進学率は上昇傾向にあるが女性の上昇幅が大きくなっている。なお、女性の大学進学率は平成24（2012）年から令和4（2022）年までの間、約7.6ポイント増加（53.4%）しており、大学入学者数も約2.6万人増加している。男性の大学進学率は平成24（2012）年から令和4（2022）年までの間、約4.1ポイント増加（59.7%）しており、大学入学者数は横ばい傾向である。

さらに、「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」を見てみる。

大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数を見ると、流入超過が9都府県、流出超過が38道県となっており、本学の所在地である福岡県は、流入超過の9都府県の1つとなっている。なお、中国地区、四国地区、九州地区において、流入超過の県は福岡県のみである。

次に、『リクルート進学総研マーケットリポート2023（2024年2月号）【全国版】』及び『リクルート進学総研マーケットリポート2023（2024年2月号）【九州沖縄版】』を見てみる。

まず始めに、「全国の18歳人口予測（全体：全国：2023～2035年）」として、2023年の109.7万人から2035年には97.0万人となり、12.7万人減少すると予測されている。なお、全体の18歳人口は、次のとおり3段階を経て経年的に減少することが予測されている。

① 2023年～2024年：2年連続減少（109.7万人から106.3万人、3.4万人減少）

2023～2024年の1年で3.4万人と大きく減少する。

② 2025 年～2027 年:2025 年に 109.1 万人と 2024 年 106.3 万人に対し 2.8 万人増加に転じ、2026 年には 109.3 万人で横ばい、2027 年は 108.5 万人と微減が続く。

③ 2028 年～2035 年:2028 年は 106.9 万人と 2027 年 108.5 万人に対し 1.6 万人と再び減少し、以降、減少傾向が続く。2035 年は 97.0 万人と 2034 年 100.6 万人から 3.6 万人大きく減少して 100 万人を割り込む。

また、「18 歳人口予測（全体：エリア別：2023～2035 年）」を見てみると、「九州沖縄エリア」では、2023 年の 132,869 人から 2035 年には 124,712 人となり、この先 12 年後には 8,157 人減少することが予測されている。なお、2023 年の人数を 100 とした場合、12 年後の 2035 年は 93.9 であるのに対し、全国平均で見ると 2035 年は 88.4 となっており、「九州沖縄エリア」は全国平均より緩やかな減少で推移していくことが分かる。

さらに、「18 歳人口予測（全体：都道府県別：2023～2035 年）」を見てみると、東北エリアの減少率が高く、6 県中 4 県で減少率が 20.0%以上となっており、東京都と沖縄県のみが増加する見込みである。しかしながら、本学が所在する福岡県は、東京都と沖縄県を除く道府県において減少率が最も低いと予測されている。

また、「18 歳人口予測（全体：九州沖縄：2023～2035 年）」として、2023 年の 132,869 人から 2035 年には 124,712 人となり、8,157 人減少すると予測されている。具体的には、「九州沖縄エリア」は、8,157 人、6.1%減少し、全国の減少率 11.6%を 5.5 ポイント下回ること、また、2024 年に 129,676 人まで減少し、2027 年にかけて 6,502 人増加、翌 2028 年に 1,774 人減少し、翌 2029 年には 1,857 人増加するが、2030 年から 2035 年は減少傾向となることが予測されている。

なお、「九州沖縄エリア」において県別で見ると、本学が所在する「福岡県」は、2023 年の 45,254 人から 2035 年には 44,308 人となり、この先 12 年後には 946 人減少することが予測されている。なお、2023 年の人数を 100 とした場合、12 年後の 2035 年は 97.9 であり、「九州沖縄エリア」の中では沖縄県の次に減少率が低くなっている。また、全国平均は 88.4 であり、全国平均と比較しても緩やかな減少で推移していくことが分かる。

次に、大学進学率の推移について見てみる。

「大学進学率の推移（現役：エリア別：2014～2023 年）」によると、全体の大学進学率は 2014 年 48.1%から 2023 年 56.9%と 10 年間で 8.8 ポイント上昇している。また、2019 年からは 50.0%台の進学率となり、2022 年には 55.0%を超えている。なお、「九州沖縄エリア」においては、2014 年 38.3%から 2023 年 45.6%と 10 年間で 7.3 ポイント上昇し、大学進学者数は 2014 年 49,940 人から 2023 年 53,203 人と 10 年間で 3,263 人増加（6.5%増加）している。「九州沖縄エリア」の 2023 年大学進学率は全国平均 56.9%を下回っているが、2014 年を 100 とした指数では、全国平均 118.3 をわずかに上回る 119.1 となっている。特に「九州沖縄エリア」を県別で見ると、本学が所在する福岡県は、大学進学者数が 2014 年 19,082 人から 2023 年 20,811 人と 10 年間で 1,729 人増加している。また、大学進学率においても 2014 年 45.7%から 2023 年 52.9%と 10 年間で 7.2 ポイント上昇している。なお、「九州沖縄エリア」において、大学進学者数が 1 万人を超えているのは福岡県のみであり、大学進学率も 50.0%を超えているのは福岡県のみとなっている。

次に、地元残留率の推移について見てみる。

「地元残留率の推移(全体:大学入学者数:エリア別:2014~2023)」によると、2014年の43.2%から2023年には44.8%と1.6ポイント上昇している。なお、「九州沖縄エリア」においては、2014年46.0%から2019年に47.7%まで上昇するが、その後下降し、2023年46.1%となり10年間で0.1ポイントの上昇となっているが、全国平均の44.8%は上回っている。

さらに、地元残留率を「九州沖縄エリア」の県別で見ると、本学が所在する福岡県は、2014年の63.5%から2023年は65.2%となり、10年間で1.7ポイントの上昇となっている。なお、九州各県と比較しても、地元残留率が50.0%を上回っているのは福岡県のみであり、「九州沖縄エリア」の中では非常に高い地元残留率を誇っている。

なお、福岡県は、「九州沖縄エリア」の佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の大学入学者流出先として1位であり、沖縄県からの大学入学者流出先も東京都に次いで2位となっている。

「九州沖縄エリア」特に福岡県における18歳人口の予測及び大学進学率の推移や地元残留率の推移を見ても、福岡県内においては、他県からの流入も含めて、大学進学を志願する高校生の確保の見通しは、十分にあると推測できる。

次に、『令和5年度学校基本統計(学校基本調査の結果)確定値(文部科学省)』によると、大学進学等の対象となる高等学校に在籍する数は、291万9千人で前年度より3万8千人減少している。また、中等教育学校に在籍する数は、3万4千人で前年度より5百人増加し、過去最多となっている。高等学校等卒業生の卒業後の状況によると、高等教育機関(大学(学部)・短期大学(本科)入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者)への進学率(過年度卒を含む)は84.0%で、前年度より0.2ポイント上昇し、過去最高となっている。また、大学(学部)・短期大学(本科)進学率(過年度卒を含む)は61.1%で、前年度より0.7ポイント上昇し、過去最高となっており、特に、大学(学部)進学率(過年度卒を含む)は57.7%で、前年度より1.1ポイント上昇し、過去最高となっている。

さらに、『令和5年(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)』によると、「地域別の動向(大学・学校別)」では、全国を21の地域に区分した集計において、令和5(2023)年度、本学が所在する福岡地区は27の学校数に対して、入学定員は19,284人(昨年比+10人)、志願者数は123,070人(昨年比△4,437人)、入学者数は19,263人(昨年比+33人)、志願倍率は6.38倍(昨年比△0.24倍)となっており、志願者数及び志願倍率が若干減少している。また、同じように九州地区(福岡を除く。以下、同じ)を見てみると、28の学校数に対して、入学定員は12,305人(昨年比+380人)に対して、志願者数は29,658人(昨年比△1,539人)、入学者数は11,675人(昨年比+148人)、志願倍率は2.41倍(昨年比△0.21倍)となっており、福岡地区と同様に志願者数及び志願倍率が減少している。

なお、「地域別の動向 過去5ヵ年の推移(大学・学校別)」における令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの志願倍率及び入学定員充足率の5年間平均を見てみると、福岡地区の志願倍率は6.90倍(九州地区2.75倍)、入学定員充足率は102.53%(九州地区98.03%)とな

っている。

また、「地域別の動向（大学・学部別）」では、令和5（2023）年度、福岡地区においては、78の学部数に対して、入学定員は20,384人（昨年比+10人）、志願者数は129,928人（昨年比△6,070人）、入学者数は20,334人（昨年比+9人）、志願倍率は6.37倍（昨年比△0.31倍）となっており、入学定員が微増している中ではあるが志願者数は減少している。また、九州地区の74の学部数に対して、入学定員は12,835人（昨年比+380人）、志願者数は31,433人（昨年比△1,827人）、入学者数は12,158人（昨年比+104人）、志願倍率は2.45倍（昨年比△0.22倍）となっており、入学定員及び入学者数は増加しているが、志願者数及び志願倍率が減少している。

なお、「地域別の動向 過去5カ年の推移（大学・学部別）」における令和元（2019）年度から令和5（2023）年度までの志願倍率及び充足率の5年間平均を見てみると、福岡地区の志願倍率6.92倍（九州地区2.81倍）、入学定員充足率102.44%（九州地区97.71%）となっている。

「地域別の動向（大学・学校別）」及び「地域別の動向（大学・学部別）」における福岡地区においては、全国計平均の志願倍率8.16倍より若干下回ってはいるが、充足率は全国計平均の101.11%を上回っている状況である。

最後に、本学が所在する福岡県（福岡市）の人口推移について見てみる。

『住民基本台帳人口移動報告2023年（令和5年）結果（総務省）』によると、全国の都道府県別の転入超過数において、転入超過となっているのは、全国で7都府県（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・滋賀県・大阪府・福岡県）となっており、九州地区では、福岡県のみが転入超過となっている。また、前年に比べて転入者数が最も増加しているのは東京都であるが、福岡県では2023年の転入者数は105,094人であり、2022年の106,149人から1,055人減少している。一方、転出者数は、2023年100,707人であり、2022年の101,280人から573人減少している状況である。

なお、「転入超過数が多い上位20市町村（2023）」においては、本学が所在する福岡市が全国第5位（8,911人・前年度：第6位）となっており、「年齢3区分（0～14歳・15～64歳・65歳以上）別転入超過数が多い上位20市町村（2023）」においても、福岡市は15～64歳の区分で全国第5位（7,929人）、65歳以上の区分では、全国第2位となっている。ちなみに、本学からの通学圏内である福岡県糸島市が、0～14歳の区分において全国第18位となっている。

また、福岡市が編集・発行している『福岡市推計人口』によると、令和6年2月1日現在の福岡市の人口は、1,645,100人であり、対前年同月比では、12,682人増加している。また、同じく福岡市が公表している『福岡市の将来人口推計について』によると、福岡市における総人口のピークは、2040（令和22）年頃で約170万人に達するとされている。また、年少人口（0～14歳）は減少傾向にあるが、全国では2050（令和32）年頃までに約31%の減少が予想される中、福岡市では約17%の減少にとどまると予測されている。

さらに、『令和6（2024）年1月7日日曜日の西日本新聞』の記事において、「福岡都市圏一極集中へ」との見出しの記事が掲載された。人口減少が加速する九州で、福岡都市圏への一極集中

が進んでおり、都市圏の人口は2050年に256万人になり、九州全体の4分の1に達する見通しである。人口増の中心は南から東にシフトされ、2050年には福岡市の7区（東区・博多区・中央区・西区・早良区・城南区・南区）のうち南側の3区（早良区・城南区・南区）で人口減に転じ都市部の北東部では伸びが続くとされている。また、福岡都市圏の人口増減率の変化では、2020～2050年（推計）として、中心部から東部で増加傾向が続くが、そのほかの地域は減少するとされ、増加する地域として、本学が所在する福岡市東区をはじめ、近郊の博多区、中央区、西区及び通学圏内である福津市、糟屋郡新宮町、糟屋郡久山町、糟屋郡粕屋町、糟屋郡須恵町、糟屋郡志免町が人口増加傾向となっている。

これらのデータ及び理由等から、今後も特に福岡県（福岡市）における18歳人口等入学対象人口の確保は十分に見込まれると推測できる。

③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

まず始めに、収容定員を変更する組織が置かれる福岡県への入学状況について見てみる。

「学校基本調査」における出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）では、福岡県が全体の57.68%（15,028人）あり、次いで、佐賀県5.23%（1,362人）、熊本県4.79%（1,248人）、長崎県4.10%（1,067人）、鹿児島県3.85%（1,004人）の順となっている。

次に、本学は現状において、どのような地区から志願者を集めているのかを調査した。

令和3（2021）年度から令和5（2023）年度の3年間の入試結果では、大学全体の志願者の中で、本学が所在する福岡県が3年間平均で70.7%、福岡県を除く九州地区が20.1%であり、九州地区全体で90.0%を超えている。また、隣接する中国地区からも5.3%の志願があった。

この結果からも、本学が志願者のマーケットとする地区は、福岡県を中心とした九州・中国地区であることが確認できる。

[資料1-1]

次に、今回、収容定員を変更する芸術学部についてどのような地区から志願者を集めているかを調査した。

芸術学部においても大学全体と同様に、福岡県が3年間平均で70.3%、福岡県を除く九州地区が21.6%であり、九州地区全体で90.0%を超えている。また、隣接する中国地区からも3.7%となって大学全体と同様の結果である。

[資料1-2]

さらに、芸術学部の学科別で見ると、「芸術表現学科」では、福岡県が3年間平均で74.5%、福岡県を除く九州地区が18.0%、「写真・映像メディア学科」では、福岡県が3年間平均で70.4%、福岡県を除く九州地区が21.7%、「ビジュアルデザイン学科」では、福岡県が3年間平均で69.3%、福岡県を除く九州地区が22.0%、「生活環境デザイン学科」では、福岡県が3年間平均で68.6%、福岡県を除く九州地区が21.1%、「ソーシャルデザイン学科」では、福岡県が3年間平均で67.4%、福岡県を除く九州地区が28.4%であり、すべての学科において、福岡県を含めた九州地区から

90.0%程度の志願者を集めており、芸術学部においてもマーケットとする地区は福岡県を中心とした九州地区であることが確認できる。 [資料 1－3～7]

なお、芸術学部全体において、九州地区の次に多くの志願者を集めている中国地区では、全体の3.7%を占めており、中国地区においても、本学芸術学部におけるマーケット地区であることがうかがえる。

次に、令和5年度の芸術学部における出身高校の所在地県別入学者数については、入学者総数312人に対して、福岡県が228人（全体の73.1%）であり、その他の九州各県合計59人（全体の18.9%）となっており、九州地区の高校からの入学者数は92.0%となっている。

なお、「令和4（2022）年度及び令和5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によると、今回、収容定員を変更する芸術学部が置かれる福岡県の定員充足状況では、令和3（2021）年度100.48%、令和4（2022）年度99.76%、令和5（2023）年度99.75%となっており、定員充足率は100.0%前後で推移している。

また、今回、収容定員を変更する芸術学部の各門分野（系統区分）である『芸術系学部（大学）』の入学生定員充足率においても、令和3（2021）年度104.78%、令和4（2022）年度105.50%、令和5（2023）年度105.32%となっており、『芸術系学部（大学）』においては、毎年入学生定員を充足できている学問系統の1つであると見てとれる。 [別紙 1]

これらの結果等からも、本学芸術学部及び各学科における学生募集地域は、福岡県を中心とした九州各県及び中国地区であることがうかがえる。

④ 既設組織の定員充足の状況

本学は、『産学一如（産業と大学は車の両輪のように一体となって時々の社会のニーズを満たすべきである）』を建学の理想に掲げ、昭和35（1960）年に商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、時代の要請に応え、昭和38（1963）年に工学部を設置するとともに大学名を「九州産業大学」へ改称し、昭和39（1964）年に商学部第二部、昭和41（1966）年に芸術学部、昭和43（1968）年に経営学部、平成5（1993）年に経済学部、平成6（1994）年に国際文化学部、平成14（2002）年に情報科学部を設置してきた。

しかしながら、平成24（2012）年当時、これまでの志願者数の長期低落、就職率の低下、高い除籍・退学率などの課題が山積し、将来を見据えると危機的な状況にあったことから、全学挙げての「教育改革」に取組み、平成28（2016）年に芸術学部の再編（既設の3学科体制から5学科体制に再編）を皮切りに、平成29（2017）年には理工系学部の再編（既設の「工学部」「情報科学部」を「理工学部」「生命科学部」「建築都市工学部」に再編）、続けて、平成30（2018）年に文系学部の再編（「商学部」「地域共創学部」「人間科学部」の新設、「経済学部」「国際文化学部」のカリキュラム改正等）を行い、3カ年の間に全ての学部学科の見直しを図った。

これらの取組みの結果、志願者総数は、学部再編前（平成27（2015）年度）の7,804人から徐々に増加し、令和2（2020）年度には20,683人までに増加した。なお、近年は19,000人台で

推移しており、令和5（2023）年度は19,176人となっている。

また、志願倍率においては、直近5年間平均において7.40倍であり、学部再編以降、既設の学部学科を含めて着実に志願者を集め、入学定員も充足できている状況である。

なお、学部再編後の志願者数及び志願倍率の推移は、下表のとおりである。

年 度	入学定員	志願者数	志願倍率
平成27（2015）年度	2,675人	7,804人	2.92倍
平成28（2016）年度	2,635人	8,343人	3.17倍
平成29（2017）年度	2,630人	10,359人	3.94倍
平成30（2018）年度	2,530人	11,406人	4.51倍
令和元（2019）年度	2,530人	14,372人	5.68倍
令和2（2020）年度	2,530人	20,683人	8.18倍
令和3（2021）年度	2,530人	19,408人	7.67倍
令和4（2022）年度	2,530人	19,990人	7.90倍
令和5（2023）年度	2,530人	19,176人	7.58倍

次に、既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）について見てみる。

本学は、文系学部・理工系学部・芸術系学部の9学部21学科を設置している総合大学である。

まず始めに、文系学部の入学定員の充足状況（直近5年間）について見てみる。

国際文化学部国際文化学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が767人であり、志願倍率は9.59倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.01となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

国際文化学部日本文化学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が499人であり、志願倍率は8.32倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.01となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部臨床心理学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が910人であり、志願倍率は13.00倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.04となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部子ども教育学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が426人であり、志願倍率は5.33倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.03となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部スポーツ健康科学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が497人であり、志願倍率は6.21倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.05と

なっており、安定的に入学定員を確保することができている。

経済学部経済学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が3,360人であり、志願倍率は8.40倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が0.99と若干1.00を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

商学部経営・流通学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が3,562人であり、志願倍率は7.12倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.04となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

地域共創学部観光学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が916人であり、志願倍率は6.11倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が0.98と若干1.00を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

地域共創学部地域づくり学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が1,001人であり、志願倍率は7.70倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.01となっており、安定的に入学定員を確保することができている。 **【別紙2-1～9】**

次に、理工系学部の入学定員の充足状況（直近5年間）について見てみる。

理工学部情報科学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が1,370人であり、志願倍率は9.79倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.04となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

理工学部機械工学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が825人であり、志願倍率は6.35倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が0.90と1.00を下回っているが、年度によっては1.00を上回っており、一定の入学定員は確保することができている。

理工学部電気工学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が706人であり、志願倍率は7.06倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が0.97と若干1.00を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

生命科学部生命科学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が832人であり、志願倍率は7.56倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が0.92と若干1.00を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部建築学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が873人であり、志願倍率は11.64倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.00となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部住居・インテリア学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が544人であり、志願倍率は8.37倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.02となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部都市デザイン工学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が373人であり、志願倍率は6.22倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近5年間平均が1.00となっており、安定的に入学定員を確保することができている。 **【別紙2-10～16】**

最後に、今回、収容定員を学科間において変更する芸術学部を見てみる。

芸術学部芸術表現学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が253人であり、志願倍率は3.89倍となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.10となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部写真・映像メディア学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が276人であり、志願倍率は5.52倍と高い倍率になっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.09となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部ビジュアルデザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が415人であり、志願倍率は5.53倍と高い倍率になっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.14となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部生活環境デザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が180人であり、志願倍率は2.57倍と芸術学部の他の学科と比べると最も低い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が0.88と1.00を下回っている。このような現状に鑑み、今回、生活環境デザイン学科の入学定員を減員し、安定的に志願者数を集め、定員充足ができている他の学科に定員を振り替えることにより、芸術学部全体の定員の適正化を図ることとした。

芸術学部ソーシャルデザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近5年間平均が140人であり、志願倍率は3.50倍となっている。また、入学定員充足率も直近5年間平均が1.11となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

【別紙2-17~21】

さらに、既設の学部学科の収容定員の充足状況について見てみる。

令和5（2023）年5月1日現在における各学部学科の収容定員充足率では、0.86から1.17の範囲内となっている。また、大学全体における収容定員充足率は、1.00となっており、厳格な定員管理を行いながら、安定的に収容定員を充足することができている。

なお、芸術学部生活環境デザイン学科では、収容定員充足率が0.86と本学が設置する学部学科において最も低い充足率となっているが、今回、芸術学部生活環境デザイン学科の収容定員を減員し、多くの志願者を集めている芸術学部の他の学科に収容定員を振り替えることにより、芸術学部全体での収容定員の適正化を図ることとしたため、芸術学部生活環境デザイン学科の収容定員充足率も改善され则认为している。

【資料2】

以上のとおり、既設の学部学科における入学定員及び収容定員の充足状況、また、直近5年間の入試状況等から見ても、今後も学生を確保できる見通しは、十分にあると推測できる。

(3) 学生募集の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、学生募集の専門部署として入試部入試課を設置し、また、大学全体の広報を行う専門部署として総合企画部広報課を設置しており、この2部署を中心に様々な広報活動を展開している。

学生確保に向けた主な取組みとして、高校訪問、オープンキャンパス、キャンパスフェスタ、出張オープンキャンパス、出張模擬講義、高等学校からの来訪見学会、ウィークデー・キャンパス・ヴィジット(WCV)、本学独自の入試説明会、高等学校内及び各地区での進学相談会を実施している。また、大学案内や学部紹介リーフレットの作成・配布、新聞や受験情報雑誌、受験情報WEBサイト、テレビ等の各種媒体への広告出稿も行っている。

なお、具体的な内容は次のとおりである。

①高校訪問

本学は、平成14(2002)年度から、従来の入試部職員による高校訪問の実施体制を発展させ、入試部職員、入試部高校訪問専任スタッフ及び他部署の事務職員の協働による「高校訪問スタッフ制度」を導入し、より多くの高等学校を訪問し、直接、高等学校の先生方と対話する機会を増やしてきた。

このスタッフによる高校訪問は、九州各県(沖縄県を含む)、中四国各県(高知県、徳島県を除く)の高等学校約1,023校を対象に年3~4回の訪問を行っている。訪問した際には、各高等学校の進路担当教諭に対して、本学進学者の状況等を報告するとともに、本学の教育への取組みの概要や特長、入試概要等の説明、前年度入試結果の報告、オープンキャンパスの告知等を行い、本学への出願を促している。

なお、併せて、各高等学校の志願・受験動向等を含めた情報収集を行い、その後の広報活動へと繋げている。

②オープンキャンパス

オープンキャンパスは、大学全体の行事として位置付け、年2回(7月)開催している。

オープンキャンパスでは、学部学科別の模擬講義、進学相談、入試問題解説、実習施設等の見学、研究室の紹介などを行っている。また、本学在学生在が、来場した高校生に各学部の施設等の説明を行いながら学内を案内する見学ツアーも実施し、直に本学学生と高校生が触れ合える機会を増やすことにより、本学への興味関心を高める取組みも行っている。

なお、オープンキャンパスでは、保護者を対象とした講演会も実施しており、本学の特色の紹介や本学が実践しているキャリア教育について説明を行っている。

令和 5（2023）年度のオープンキャンパス来場者の実績は、第 1 回目（7/16）が 2,824 人、第 2 回目（7/23）が 3,619 人の合計 6,443 人である。前年度の実施状況を踏まえた上で、新たな企画も導入しており、近年の来場者は増加傾向にある。

本学のオープンキャンパスに 1 度でも来場したことがある高校 3 年生の中で、本学へ出願する割合は全体の約 40%（令和 5 年度入試実績）を占めている。この結果からも、オープンキャンパスが志願者確保に向けた有効な取組みであると考えている。

なお、芸術学部では、既設の他の学部と比較しても、オープンキャンパスに参加した受験対象者のうち、令和 4（2022）年度入試においては 60.0%、令和 5（2023）年度入試においては 48.6%と受験に結び付く割合が高い学部である。

さらに、令和 5（2023）年度入試対象においては、参加した受験対象者のうち、163 人が入学まで至っており、入学定員 300 人のうち 50.0%以上をこの取組を通じて確保している。

また、オープンキャンパスとは別に模擬講義や体験実習を中心としたキャンパスフェスタを入試募集年度の前年度に年 1 回（3 月）開催している。キャンパスフェスタでは、本学の学部学科名を出さずに学問分野から模擬講義を受講でき、受験年度となる直前に大学での学びや研究内容を紹介している。

今回、収容定員を変更する芸術学部では、カリキュラムの一例を実習講座で体験することができ、令和 4 年度（2022）年度のキャンパスフェスタ（芸術学部）の来場者の実績は 208 人である。

なお、キャンパスフェスタに参加した高校 3 年生の中で芸術学部を受験した人は、令和 4（2022）年度入試では 52.9%、令和 5（2023）年度入試では 45.7%と非常に高い受験率となっている。この結果からもキャンパスフェスタが志願者確保に向けた有効な取組みの 1 つであると考えている。

【別紙 3】

③出張模擬講義

高等学校からの依頼に基づき、本学の教員を各高等学校へ派遣し、大学の授業の一部を実施する出張模擬講義を行っており、令和 5 年度は大学全体で 301 件であり、そのうち、芸術学部の教員が行った模擬講義は 51 であった。

④高等学校からの来訪見学会

高等学校からの依頼に基づき、高校生や保護者（PTA）の大学来訪見学を受け入れ、大学の概要説明や施設見学等を実施している。令和 5 年度は、43 校 4,386 人の高校生（保護者・引率教員を含む）を受け入れている。

⑤ウィークデー・キャンパス・ヴィジット（WCV）

平成 26（2014）年度から、祝日や休日の本学授業実施日に、高校生が大学生と同じ授業に参加し大学生の「普段の一日」を疑似体験できる「WCV」を実施している。

このプログラムは、九州の大学では本学が唯一導入しており、多くの高校生が参加するなど、高等学校からの評価の高い取組みである。WCVは、オープンキャンパスとは異なり、高校生が

大学の通常の授業を大学生と一緒に受講することで、模擬講義では体験できない実際の学びや充実感を得ることができる。

また、受講後は振り返りのワークを実施し、ガイダンス、授業での学び、学生食堂の利用などによる学生生活を踏まえた学びの可視化や気づきの共有を行うことにより、学習意欲の向上を図っている。

参加した高校生の事後アンケートでは、「大学は人から教えてもらうより自分から学ぶ場であるなど、高校と大学の違いが分かった」、「大学で学ぶことが具体的に分かり、高校生のうちに自分がすべきことがはっきりした」などの前向きなコメントが多く見受けられる。

加えて、本取組みは、テレビや新聞などのメディアで取り上げられたことや、高校訪問等による積極的な広報によって高校教諭に広く周知されたこともあり、参加者が年々増加している。平成 28（2016）年度には、参加者が 1,000 人を超え「参加者数日本一」の表彰を受けるなど、一定の成果を得ているものと考えられる。

近年は新型コロナウイルス禍もあり、未実施の年度もあったが、オンライン授業等も活用しながら再開し、参加者は再び増加傾向にある。

なお、過去 3 年間の WCV への参加者数は、下表のとおりである。

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
参加者数	319 人	1,868 人	1,136 人

⑥ 本学独自の入試説明会

平成 8（1996）年度から、本学を含む九州各県（沖縄県を除く）及び山口県の 9 会場において、高等学校等の進路指導担当者や学年担当教諭を対象とした本学独自の入試説明会を実施している。令和 6（2024）年には、6 月の間に従来の 9 会場に福岡県北九州地区と飯塚地区を加えた 11 会場において入試説明会を開催する予定である。また、同時期に 11 会場に沖縄県を含めた全 12 会場において、入試制度の詳細について高校生及び保護者向けに入試説明会を実施する予定である。

⑦ 高等学校内及び各地区での進学相談会

新聞社や受験産業会社が主催する進学相談会等へ参加している。

令和 5 年度は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、山口県、広島県及び岡山県の延べ 111 会場に参加し、受験生の確保に努めている。

また、同様に受験産業会社が主催する高等学校内での進学説明会においても、令和 5 年度は、295 校へ本学教員又は職員が出向き、直接、高校生に対して本学の特色等の説明を行った。

⑧ 大学案内等の作成

受験生をはじめ高校教諭、保護者を対象に、「大学案内」を毎年 72,000 部発行している。掲載内容としては、大学の概要、学部学科紹介、就職状況、入試情報、奨学金制度や施設等を掲載し

ている。また、OB・OGの活躍や、在学生からのメッセージを取り入れることで、より大学を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、わかり易い内容となるよう制作に努めている。

なお、今回、収容定員を変更する芸術学部では、安定的な学生確保に向けて、芸術学部及び芸術学部各学科の養成する人材像や当該人材を育成するためのカリキュラム等を広く紹介するため、大学全体のウェブサイトとは別に学部独自のウェブサイトを開設しているほか、学部独自のパンフレットを作成し、オープンキャンパス来場者、各種説明会等への参加者・相談者、大学案内等の資料請求者等へ広く配布し、芸術学部の広報活動を行っている。

⑨その他、受験関連雑誌等の紙媒体及びWEBによる広報活動

本学の広報活動においては、先ず、本学が出稿する様々な媒体と接触したステークホルダー（受験生、受験生の保護者及び高等学校教諭など）をホームページへ誘導することを意識している。

受験関連雑誌をはじめ、新聞広告、交通広告、WEB広告、テレビCMなどについては、素材やビジュアルを他大学と差別化し、出稿する時期についても、高等学校における進路指導の時期を意識して効果的にステークホルダーに到達するようにしている。

以上のとおり、本学ではこれまで様々な取組みを行った結果、近年の志願者数の増加に繋がっているため、今後も引き続き、学生確保に向けた募集活動等を積極的に行うこととしている。

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

今回、収容定員を変更する芸術学部においても、上記に記載のとおり、学部独自のウェブサイトやパンフレット等を作成し、広く受験生に対する広報活動を行っている。また、大学全体のウェブサイトとは別に芸術学部のウェブサイトを開設するなど、積極的に広報活動を行うことにより、これまでと同様に志願者の確保及び収容定員の確保に努めていく。

また、今後もこれまでの実績等を踏まえ、芸術学部にて特化した募集戦略、実施計画等についてさらなるブラッシュアップを図り、学生確保に向けた取組みを行っていく。

なお、芸術学部では、多彩な学科を設置し、多様な学びを提供するなどの学部の特性を活かした特色あるカリキュラムを構築している。この特色あるカリキュラムの構築等により、本学が独自に実施しているイベント（オープンキャンパス・入試説明会等）への参加者のうち、他の学部学科に比べて志願に結び付く割合が高い学部となっており、受験生の関心の高さや目的意識の高さがうかがえる。このことから、今後さらに学部の特色等を発信することにより、芸術学部に興味を持つ高校生の確保は十分可能であると考えている。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

本学では、これまでの学生募集活動により、志願者数の増加を図ってきている。特に、今回、収容定員を変更する芸術学部においても、平成28（2016）年の学部再編以降、着実に志願者数を伸ばしてきている。

これらの実績を踏まえて、学生募集活動を強化することにより、さらなる志願者確保に向けて取り組んでいく。

また、特に芸術学部は、既設の他の学部等と比較して、オープンキャンパスに参加した受験対象者のうち、令和4年度入試対象において、60.0%、令和5年度入試対象においては、48.6%と受験に結び付く割合が非常に高い学部である。

なお、令和5（2023）年度入試対象においては、参加した受験対象者のうち、163人が入学まで至っており、入学定員300人のうち50%以上をこの取組を通じて確保している。

さらに、受験年度前年3月と早期に開催しているキャンパスフェスタにおいても、参加した受験対象者のうち、令和4（2022）年度入試対象において、52.9%、令和5（2023）年度入試対象において45.7%と非常に高い受験率となっている。

このような実績等を踏まえ、令和7（2025）年度入試対象においても、同様の取組を実施する予定であり、前年同程度の参加者が見込まれることから、今回収容定員を変更しても、芸術学部全体の入学定員300人及び「芸術表現学科」の入学定員70人、「写真・映像メディア学科」の入学定員55人、「ビジュアルデザイン学科」の入学定員75人、「生活環境デザイン学科」の入学定員55人、「ソーシャルデザイン学科」の入学定員45人の確保は十分可能であると考えられる。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性

『令和5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）』によると、令和5年度、全国には芸術系の学部が57学部あり、内訳として、音楽学部19学部、芸術学部19学部、造形学部6学部、美術学部5学部、デザイン学部4学部、その他4学部となっている。また、その他の系統区分においても、メディア系学部が複数設置されている。

今回、収容定員を変更する学部は芸術系の学部であるため、競合校としては、関西以西における芸術系学部（音楽学部等は除く。）を設置している大学とした。

上述のとおり、収容定員を変更する組織の主な学生募集地域として、九州地区及び中国地区としているが、芸術系の学部を設置している大学が少ないこともあり、競合校としては、関西地区を含む関西以西の大学との比較を行う。

学部名称においても、本学と同様の「芸術学部」、また、本学が学科等として設置している分野である「デザイン」系の学部、「メディア」系の学部を設置している大学とした。

関西以西の大学において、芸術系の学部を設置しているのは、国立2大学、公立5大学、私立12大学（本学含む。）である。

なお、九州地区における芸術系の学部を設置している大学は、国立では、九州大学（芸術工学部芸術工学科：入学定員187人）と佐賀大学（芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科：入学定員110人）の2大学、公立では、沖縄県立芸術大学（美術工芸学部美術学科：入学定員21人・デザイン工芸学科：入学定員44人）の1大学であり、本学を除く私立では、西日

本工業大学（デザイン学部情報デザイン学科：入学定員 55 人）及び崇城大学（芸術学部美術学科：入学定員 30 人・デザイン学科：入学定員 40 人）の 2 大学のみであり、九州地区の国公立大学 79 大学のうち、芸術系の学部を設置しているのは、本学を含めて僅か 6 大学のみである。

[資料 3]

また、6 大学のうち 3 大学においては、1 学部 1 学科であり、入学定員規模においても、国立の 2 大学を除く公立及び私立大学では、入学定員 70 人以下の学部である。

本学の芸術学部では、収容定員を変更した後、「芸術表現学科（入学定員 70 人）」、「写真・映像メディア学科（入学定員 55 人）」、「ビジュアルデザイン学科（入学定員 75 人）」、「生活環境デザイン学科（入学定員 55 人）」、「ソーシャルデザイン学科（入学定員 45 人）」の合計 300 人の入学定員規模であり、九州内の芸術系学部の中では入学定員規模が最も大きな学部である。また、学べる学科等においても、本学では 5 学科の中に 10 の専攻が設置され、高校生のニーズに合った多様な学びを提供している。

芸術系学部を志す高校生の動向では、九州地区、特に本学が所在する福岡県の高校生においても、関東地区や関西地区の芸術系学部へ進学する者も多数いるが、本学は九州の芸術系学部の中では最も規模が大きいこと、また、芸術系を志す高校生に多様な学びを提供できる環境が整っていることが他の大学との 1 番の違いである。

また、上述のとおり、本学は全体の志願者の中で、本学が所在する福岡県からの志願者が 3 年間平均で 70.3%、福岡県を除く九州地区が 21.6%であり、九州地区全体でも 90.0%を超えている現状においても、本学芸術学部は、特に九州地区の芸術系を志す高校生の受け皿となっていることが分かる。

イ 競合校の入学志願動向等

上述のとおり、本学が競合校としている大学は、関西以西における芸術系学部（音楽学部等は除く。）を設置している大学とした。

そこで、競合校の入学志願動向等について、令和 3（2021）年度から令和 5（2023）年度状況について調査を行った。

なお、各大学のホームページにおいて公開されている情報を基に調査を行ったが、令和 3（2021）年度と令和 4（2022）年度においては、情報公開されていない大学が多く見受けられたため、令和 5（2023）年度の情報を基に調査を行った。

また、大阪成蹊大学、西日本工業大学は、志願者数が公開されていないため含めていない。

調査対象大学数 : 16 大学（内訳：国立 2 大学、公立 5 大学、私立 9 大学）

入学定員合計 : 3,422 人

本学が競合校としている 16 の大学については、入学定員 3,422 人に対して令和 5（2023）年度の志願者合計は 17,731 人、志願倍率は 5.18 倍であり、入学者数については 3,807 人、入学定員充足率は 1.11 であった。

なお、16の大学には45の学科が設置されているが、志願倍率が3.00倍を下回っているのは全部で17の学科であり、入学定員充足率が1.0を下回っているのは、4学科のみである。

次に、九州地区の芸術系学部を設置している大学について調査を行った。

調査対象大学数 : 5大学 (内訳: 国立2大学、公立1大学、私立2大学)

入学定員合計 : 487人

九州地区の大学において芸術系の学部を設置しているのは、国立の九州大学（芸術工学部芸術工学科）、佐賀大学（芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科）、公立の沖縄県立芸術大学（美術工芸学部美術学科・デザイン工芸学科）及び私立の西日本工業大学（デザイン学部情報デザイン学科）、崇城大学（芸術学部美術学科・デザイン学科）である。

5大学を詳細に見てみると、国立の九州大学においては、入学定員187人に対して、志願者数は令和3（2021）年度661人、令和4（2022）年度663人、令和5（2023）年度657人であり、志願倍率も毎年3.50倍を上回っている。また、入学定員充足率も令和3（2021）年度1.04、令和4（2022）年度1.03、令和5（2023）年度1.07となっている。

次に、佐賀大学では、入学定員110人に対し志願者数は令和3（2021）年度401人、令和4（2022）年度404人、令和5（2023）年度429人であり、志願倍率も毎年3.65倍を上回っている。また、入学定員充足率も令和3（2021）年度1.04、令和4（2022）年度1.01、令和5（2023）年度1.05であり、安定的に学生の確保はできている。

次に、公立の沖縄県立芸術大学では、美術学科の入学定員21人に対して、志願者数は令和3（2021）年度93人、令和4（2022）年度73人、令和5（2023）年度61人であり、志願倍率も毎年3.00倍前後となっている。また、入学定員充足率も令和3（2021）年度1.29、令和4（2022）年度1.05、令和5（2023）年度1.14となっている。デザイン工芸学科では、入学定員44人に対して、志願者数は令和3（2021）年度104人、令和4（2022）年度106人、令和5（2023）年度88人であり、志願倍率は毎年2.30倍前後となっている。また、入学定員充足率も令和3（2021）年度0.98、令和4（2022）年度1.09、令和5（2023）年度1.11であり、学生の確保はできている。

さらに、私立の西日本工業大学では、入学定員55人に対して志願者数は過去3ヵ年公開されていない。なお、入学者数については、令和3（2021）年度54人、令和4（2022）年度65人、令和5年度56人であり、入学定員充足率は令和3（2021）年度0.98、令和4（2022）年度1.18、令和5（2023）年度1.02となっており、学生の確保はできている。

また、崇城大学では、美術学科の入学定員30人に対して、公開されている令和5（2023）年度志願者数は143人、志願倍率は4.77倍であり、デザイン学科では入学定員40人に対して令和5（2023）年度志願者数は151人、志願倍率は3.78倍であった。また、入学者数において

も、令和5（2023）年度、美術学科46人、デザイン学科44人であり、入学定員充足率も美術学科1.53、デザイン学科1.10であり、学生の確保はできている。 [資料4]

ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等

芸術学部は、平成28（2016）年からそれまでの芸術学部（入学定員340人）「美術学科（入学定員80人）」、「デザイン学科（入学定員180人）」、「写真映像学科（入学定員80人）」の3学科体制から、新たな芸術学部として、「芸術表現学科（入学定員65人）」、「写真・映像メディア学科（入学定員50人）」、「ビジュアルデザイン学科（入学定員75人）」、「生活環境デザイン学科（入学定員70人）」、「ソーシャルデザイン学科（入学定員40人）」の5学科体制に再編を行った。

まず始めに、芸術学部全体の入学定員に対する学生確保の見通しについて、学部再編以降の入試状況を基に検証を行った。

芸術学部が再編を行った前年度（平成27（2015））の入学定員340人に対する志願者数は、3学科合計で429人（志願倍率1.26倍）であり、入学者数は227人（入学定員充足率0.67）であった。しかしながら、学部再編後、入学定員300人に対する直近5ヵ年では、令和元

（2019）年度志願者数924人（志願倍率3.08倍）、入学者数317人（入学定員充足率1.06）、令和2（2020）年度志願者数1,284人（志願倍率4.28倍）、入学者数344人（入学定員充足率1.15）、令和3（2021）年度志願者数1,386人（志願倍率4.62倍）、入学者数307人（入学定員充足率1.02）、令和4（2022）年度志願者数1,343人（志願倍率4.48倍）、入学者数305人（入学定員充足率1.02）、令和5（2023）年度志願者数1,380人（志願倍率4.60倍）、入学者数312人（入学定員充足率1.04）となっており、学部再編前年度と令和5（2023）年度入試を比較すると、志願者数は951人増加し、入学定員充足率も毎年1.00を上回っている。 [資料5-1]

次に、今回、収容定員を変更（増員）する学科ごとの直近5ヵ年の入試状況について見てみる。

まず、「芸術表現学科（入学定員65人）」では、令和元（2019）年度志願者数171人（志願倍率2.63倍）、入学者数66人（入学定員充足率1.02）、令和2（2020）年度志願者数271人（志願倍率4.17倍）、入学者数78人（入学定員充足率1.20）、令和3（2021）年度志願者数242人（志願倍率3.72倍）、入学者数67人（入学定員充足率1.03）、令和4（2022）年度志願者数273人（志願倍率4.20倍）、入学者数69人（入学定員充足率1.06）、令和5（2023）年度志願者数307人（志願倍率4.72倍）、入学者数77人（入学定員充足率1.18）となっており、志願倍率は4.00倍程度で推移し、入学定員充足率においても毎年1.00を上回っている。

今回、「芸術表現学科」では、入学定員が5人、収容定員が20人増員となるが、近年の入試状況や上述した18歳人口の全国的・地域的動向、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。 [資料5-2]

次に、「写真・映像メディア学科（入学定員 50 人）」では、令和元（2019）年度志願者数 160 人（志願倍率 3.20 倍）、入学者数 54 人（入学定員充足率 1.08）、令和 2（2020）年度志願者数 289 人（志願倍率 5.78 倍）、入学者数 56 人（入学定員充足率 1.12）、令和 3（2021）年度志願者数 313 人（志願倍率 6.26 倍）、入学者数 53 人（入学定員充足率 1.06）、令和 4（2022）年度志願者数 338 人（志願倍率 6.76 倍）、入学者数 55 人（入学定員充足率 1.10）令和 5（2023）年度志願者数 280 人（志願倍率 5.60 倍）、入学者数 54 人（入学定員充足率 1.08）となっており、志願倍率は 6.00 倍前後で推移し、入学定員充足率においても毎年 1.00 を上回っている。

今回、「写真・映像メディア学科」では、入学定員が 5 人、収容定員が 20 人増員となるが、近年の入試状況や上述した 18 歳人口の全国的・地域的動向、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。

[資料 5-3]

次に、「ソーシャルデザイン学科（入学定員 40 人）」では、令和元（2019）年度志願者数 98 人（志願倍率 2.45 倍）、入学者数 41 人（入学定員充足率 1.03）、令和 2（2020）年度志願者数 164 人（志願倍率 4.10 倍）、入学者数 50 人（入学定員充足率 1.25）、令和 3（2021）年度志願者数 141 人（志願倍率 3.53 倍）、入学者数 43 人（入学定員充足率 1.08）、令和 4（2022）年度志願者数 126 人（志願倍率 3.15 倍）、入学者数 42 人（入学定員充足率 1.05）、令和 5（2023）年度志願者数 173 人（志願倍率 4.33 倍）、入学者数 45 人（入学定員充足率 1.13）となっており、志願倍率は 4.00 倍前後で推移し、入学定員充足率においても毎年 1.00 を上回っている。

今回、「ソーシャルデザイン学科」では、入学定員が 5 人、収容定員が 20 人増員となるが、近年の入試状況や上述した 18 歳人口の全国的・地域的動向、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。

[資料 5-4]

一方、今回収容定員を変更（減員）する「生活環境デザイン学科（入学定員 70 人）」の入試状況を見てみる。

令和元（2019）年度志願者数 151 人（志願倍率 2.16 倍）、入学者数 63 人（入学定員充足率 0.90）、令和 2（2020）年度志願者数 181 人（志願倍率 2.59 倍）、入学者数 71 人（入学定員充足率 1.01）、令和 3（2021）年度志願者数 223 人（志願倍率 3.19 倍）、入学者数 67 人（入学定員充足率 0.96）、令和 4（2022）年度志願者数 186 人（志願倍率 2.66 倍）、入学者数 51 人（入学定員充足率 0.73）、令和 5（2023）年度志願者数 157 人（志願倍率 2.24 倍）、入学者数 55 人（入学定員充足率 0.79）となっており、志願倍率は 2.00 倍から 3.00 倍程度で推移し、入学定員充足率においても、令和 2（2020）年度のみ入学定員を充足できているが、その他の年度においては充足できていない状況である。

今回、「生活環境デザイン学科」では、入学定員が 15 人、収容定員が 60 人減員となるが、上述した学生確保に向けた具体的な取組を行うことにより、定員の充足を図ることとし、減員分の定員に関しては、志願者を多く集め定員を充足できている他の学科へ振り替えることにより、芸術学部全体の定員の適正化を図ることとした。

[資料 5-5]

なお、芸術学部では、多彩な学科を設置し、多様な学びを提供するなどの学部の特性を活かした特色あるカリキュラムを構築している。この特色あるカリキュラムの構築等により、本学が独自に実施しているイベント（オープンキャンパス・入試説明会等）への参加者のうち、他の学部学科に比べて志願に結び付く割合が高い学部となっており、受験生の関心の高さや目的意識の高さがうかがえる。このことから、今後、さらに学部の特色等を発信することにより、芸術学部に興味を持つ高校生の確保は十分可能であると考えている。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

今回、収容定員を変更する芸術学部の入学金及び授業料等の学生納付金等については、平成28（2016）年度の学部再編当時、近年のわが国の経済環境及び各家庭の経済状況を十分に考慮し設定した。

また、本学園の財務体質の強化を図る目的として、令和3（2021）年度、令和4（2022）年度に修学費の改定を行い、以下のとおり設定している。なお、芸術学部ではすべての学科において、入学金、授業料、教育充実費は同額である。

- ・入学金 : 200,000 円・・・①
- ・授業料、教育充実費 : 1,420,000 円・・・②

○ 初年度納付金（①+②）: 1,620,000 円 （2年目以降は、年間1,420,000 円）

今回、収容定員の変更に伴い、あらためて競合校として設定した関西以西における芸術系学部を設置する大学の学生納付金等に関して調査を行った。

なお、今回調査した関西以西の18大学のうち、7大学は国公立大学であり、私立大学よりも授業料は安価に設定されているため、11の私立大学において、入学金を除く2年目以降の納付金合計額との比較を行った。

まず、所在地が京都府及び兵庫県に設置されている6大学では、学科によってばらつきは見られるが、1,550,000 円から1,973,000 円の範囲内で設定されている。次に、大阪府及び岡山県の3大学では、1,170,000 円から1,600,000 円の範囲内で設定されている。さらに、九州地区の2大学では、1,240,000 円と1,250,000 円であった。

本学では、上述のとおり、2年目以降の納付金は、1,420,000 円となっており、九州地区の2大学と比較すると高い設定となっているが、九州地区以外の競合校との比較では、本学の納付金は他大学に比べて安価での設定である。

本学の学生納付金等は合理的に設定されており、本学の芸術学部を希望する受験生においては許容範囲であると考えている。

[資料6]

③ 先行事例分析

該当なし

④ 学生確保に関するアンケート調査

今回、収容定員を変更する芸術学部における学生確保に関するアンケート調査は行わず、過去の入学実績等の数値に基づき、「② 競合校の状況分析 ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等」において説明を行う。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

今回、収容定員を変更する芸術学部で養成する人材の需要に関しては、これまでの就職実績等を踏まえて説明を行う。

(本学の就職状況)

本学は、昭和 35 (1960) 年の開学以来、これまでに社会の各方面で活躍する多くの人材を輩出してきており、その数は実に 13 万人を超えている。

また、地域の大学として、九州・沖縄に本社を置く企業における社長の出身大学の第 3 位 (朝日新聞出版「大学ランキング 2024 年版」) に本学がランクされ、併せて、2023 年春、主な私立大学の実就職率ベスト 20 においても本学は第 11 位 (サンデー毎日 2024 年 3 月 17 日号) にランクされている。

ここで、本学の過去 5 年間の就職希望者に対する就職決定率について見てみる。

令和元 (2019) 年度は 99.2%、令和 2 (2020) 年度は 98.2%、令和 3 (2021) 年度は 99.2%、令和 4 (2022) 年度は 99.3%、令和 5 (2023) 年度は 95.4%であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和 2 年度は減少したものの、経済活動の回復に伴い、翌年度以降、再び上昇に転じている。これは、低学年次からのキャリア教育の徹底やキャリア支援センターにキャリアカウンセラーを配置したことなど、全学を挙げての取組が就職決定率高水準の維持に繋がっているものと考えている。

なお、令和 5 (2023) 年度は、95.4%と低い就職決定率となっているが、現在、最終的な取りまとめを行っている段階のため、令和 6 (2024) 年 5 月 1 日現在における令和 5 (2023) 年度の就職実績等については、昨年度と同程度の就職決定率になると予測している。

また、以下に記載の内容における令和 5 年 (2023) 年度の数値についても、同様である。

次に、地区別の状況について確認を行った。

本社所在地の地区別の求人企業の割合を見てみると、令和5（2023）年度においては、福岡県が全体の求人企業の中で27.2%を占めており、これに福岡県を除く九州地区を加えると41.4%となる。次いで、関東地区の33.6%、近畿地区の9.5%の順となり、過去5年間とも同様の傾向で推移している。

一方、本社所在地の地区別の就職決定者の割合を見てみると、令和5（2023）年度においては、福岡県が全体の41.5%を占めており、これに福岡県を除く九州地区を加えると50.6%となり、地元（九州地区）志向の高さが目立っている。次いで、関東地区の32.6%、近畿地区の7.6%の順となり、過去5年間と同様の傾向で推移している。

そこで、地区別の求人企業数の割合と地区別の就職決定者の割合を比較してみると、福岡県以外のほぼ全ての地区において、就職決定者の割合が求人企業数の割合を下回っている。

これにより、本学の学生は、地元志向が強い傾向にあることが見て取れる。 【資料7】

次に、今回、収容定員変更を行う芸術学部を取り組みや進路実績等について見てみる。

（芸術学部）

芸術学部では、全学共通の基礎教育科目の中に開設されている「キャリア科目」とは別に、学部独自のキャリア科目として、専門科目の中に、2年次「インターンシップ」、2・3年次「キャリア開発演習A」、「キャリア開発演習B」、「キャリア開発演習C」を開設している。また、これらの授業の中において、「企業研究・業界研究」、「就業体験」、「社会で活躍している学外講師の講演」、「自分自身のプレゼンテーション」、「芸術系学生の就職活動には必須となるポートフォリオの作成」を行い、職業意識の醸成を図っている。

なお、1年次「QUEST演習A」、2年次「QUEST演習B」、3年次「QUEST演習C」を開設し、専攻分野の力と芸術的な総合力により、地域が抱える様々な課題の解決に主体的に取り組める人材育成に努めている。

併せて、本学は、令和6（2024）年度から、福岡をゲーム産業の世界的拠点にすることを目的に福岡のゲーム企業11社が構成する団体GFF（GAME FACTORY'S FRIENDSHIP）に加盟予定であり、「特別講演」、「就活生向けスカウト型講評会」及び「GFF会員限定インターンシップ」等を実施する効果として、今回、収容定員が増員となる芸術学部「芸術表現学科」、「写真・映像メディア学科」、「ソーシャルデザイン学科」の各専攻から福岡のゲーム業界への就職率向上が期待される。

（芸術学部 芸術表現学科）

芸術学部芸術表現学科は、平成28（2016）年に開設し、これまで5年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

美術専攻は、画家、美術家、現代アーティスト、マンガ家、デザイナー、美術・工芸系教員、学芸員、保存修復家、絵画教室経営、造形作家、彫刻家、フィギュア作家、ディスプレイデザイナー等である。

メディア芸術専攻は、メディアアーティスト、映像作家、アニメーター、ゲームクリエイター、マンガ家、現代アーティスト、美術・工芸系教員、メディア芸術に関わるデザイナー等である。

これまでの5年間の就職実績は、令和元（2019）年度、対希望者決定率93.5%（対卒業者決定率65.9%）、令和2（2020）年度、対希望者決定率95.7%（対卒業者決定率77.5%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率98.4%（対卒業者決定率84.9%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率93.9%（対卒業者決定率65.9%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率90.5%（対卒業者決定率76.1%）であった。

次に、芸術学部芸術表現学科における業種別就職定状況を見てみる。

令和5（2023）年度実績では、「卸売業、小売業」が22.9%と最も多く、次いで「サービス業」の16.7%、「生活関連サービス業、娯楽業」の10.4%と合わせると、この3つの業種で50.0%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

また、収容定員が増員となる芸術表現学科では、進化し続けるメディアアートからマンガ等のエンターテインメント、映像の撮影編集の技術まで「アート」と「テクノロジー」が融合した表現を修得し、「次世代の表現」を創り出すクリエイターを育成することも目的の一つである。

今後、メディア芸術が世界へ進出する産業になりつつあることから、これまで以上に社会的ニーズが高まることが期待される。

[資料8－1]

（芸術学部 写真・映像メディア学科）

芸術学部写真・映像メディア学科は、平成28（2016）年に開設し、これまで5年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

写真専攻は、新聞社・出版社等のマスコミ関係、写真スタジオ、写真家、レタッチャー、コマーシャルフォトグラファー、ムービーカメラマン、フォトディレクター、広告代理店等である。

映像メディア専攻は、CMディレクター、映画監督、ライブ映像クリエイター、CGデザイナー、コンテンツ制作者、ムービーカメラマン、エディター、シナリオライター等である。

これまでの5年間の就職実績は、令和元（2019）年度、対希望者決定率98.1%（対卒業者決定率93.0%）、令和2（2020）年度、対希望者決定率97.7%（対卒業者決定率81.4%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率97.2%（対卒業者決定率87.5%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率97.5%（対卒業者決定率86.9%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率82.6%（対卒業者決定率74.5%）であった。

次に、芸術学部写真・映像メディア学科における業種別就職決定状況を見てみる。

令和5（2023）年度実績では、「情報通信業」・「卸売業、小売業」が各21.6%と最も多く、次いで「学術研究、専門・技術サービス業」の18.9%と合わせると、この3つの業種で62.1%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

また、収容定員が増員となる写真・映像メディア学科では、最新技術への対応力を持った高い専門技術と幅広い教養によって、多様化する社会に対応しながら、常に自己を発信できる能力を養成し、コンテンツ制作を通じて想像力・表現力・社会人としての基礎力を備えた映像メディアの表現者を育成することも目的の一つとしている。

今後、デバイスの進化や動画共有サイトの普及により、世界共通言語である「映像」分野に対して、これまで以上に社会的ニーズが高まることが期待される。 [資料8-2]

（芸術学部 ビジュアルデザイン学科）

芸術学部ビジュアルデザイン学科は、平成28（2016）年に開設し、これまで5年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

グラフィックデザイン専攻は、グラフィックデザイナー、アートディレクター、エディトリアルデザイナー、パッケージデザイナー、Webデザイナー、美術・工芸系教員等である。

イラストレーションデザイン専攻は、イラストレーター、絵本作家、キャラクターデザイナー、ゲームクリエイター、アニメーター、美術・工芸系教員等である。

これまでの5年間の就職実績は、令和元（2019）年度、対希望者決定率93.5%（対卒業者決定率70.7%）、令和2（2020）年度、対希望者決定率95.6%（対卒業者決定率72.1%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率97.6%（対卒業者決定率77.3%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率96.7%（対卒業者決定率72.2%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率75.0%（対卒業者決定率67.1%）であった。

次に、芸術学部ビジュアルデザイン学科における業種別就職決定状況を見てみる。

令和5（2023）年度実績では、「卸売業、小売業」が40.0%と最も多く、次いで「学術研究、専門・技術サービス業」の17.8%と合わせると、この2つの業種で57.8%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

また、ビジュアルデザイン学科では、視覚情報伝達を目的とした実践的なデザインを学び、伝える、伝わるビジュアルコミュニケーションのプロを育成することも目的の一つである。

今後、言葉の壁がないビジュアルコミュニケーションは、目まぐるしく変動する現代社会の様々な問題に対し、社会に役立つメッセージを世界へ発信できる大きな可能性があり、これまでにない発想でより良いビジュアルコミュニケーションデザインを生み出すことのできるクリエイターに対して、これまで以上に社会的ニーズが高まることが期待される。

[資料8-3]

(芸術学部 生活環境デザイン学科)

芸術学部生活環境デザイン学科は、平成 28 (2016) 年に開設し、これまで 5 年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

生産造形デザイン専攻は、美術・工芸作家、ジュエリーデザイナー、テキスタイルデザイナー、セラミックデザイナー、美術・工芸系教員、学芸員、プロダクトデザイナー、商品企画・プランナー、家具デザイナー、雑貨デザイナー、デザインモデラー、企業のデザイン・商品開発部門等である。

空間演出デザイン専攻は、インテリアデザイナー、照明デザイナー、ディスプレイデザイナー、ファッションデザイナー、ガーデンデザイナー、建築デザイナー、舞台美術家、環境デザイナー等である。

これまでの 5 年間の就職実績は、令和元 (2019) 年度、対希望者決定率 96.4% (対卒業者決定率 79.4%)、令和 2 (2020) 年度、対希望者決定率 93.7% (対卒業者決定率 83.3%)、令和 3 (2021) 年度、対希望者決定率 100.0% (対卒業者決定率 88.6%)、令和 4 (2022) 年度、対希望者決定率 97.9% (対卒業者決定率 85.7%)、令和 5 (2023) 年度、対希望者決定率 96.2% (対卒業者決定率 89.4%) であった。

次に、芸術学部生活環境デザイン学科における業種別就職決定状況を見てみる。

令和 5 (2023) 年度実績では、「製造業」が 29.4%と 1 番多く、次いで「卸売業、小売業」の 17.6%、「建設業」の 15.7%と合わせると、この 3 つの業種で 62.7%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

また、生活環境デザイン学科では、人間が生活を営む環境をより良くするため、伝統的・先端的技术・技法や考え方を学び、見えるもの、触れるものだけでなく、空間、時間までデザインする能力を養い、豊かな暮らしや環境をつくりだす生活環境デザイン分野の専門家を育成することも目的の一つである。

今後、便利なだけが豊かな生活ではなく、持続可能な生活環境を築くことが強く求められているという現代の風潮から、課題を解決し、より良い暮らしをデザインして社会に貢献するデザイナーに対して、これまで以上に社会的ニーズが高まることが期待される。[資料 8-4]

(芸術学部 ソーシャルデザイン学科)

芸術学部ソーシャルデザイン学科は、平成 28 (2016) 年に開設し、これまで 5 年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

情報デザイン専攻は、Web デザイナー、コンテンツクリエイター、クリエイティブディレクター、企業・各種団体の企画・総合職等である。

企画デザイン専攻は、デザインプランナー、地域産業の商品開発、企業や文化行政のプランナー・編集者、美術館のキュレーター、企業・各種団体の企画・総合職等である。

これまでの5年間の就職実績は、令和元（2019）年度、対希望者決定率 100.0%（対卒業者決定率 72.7%）、令和2（2020）年度、対希望者決定率 100.0%（対卒業者決定率 85.0%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率 100.0%（対卒業者決定率 90.4%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率 100.0%（対卒業者決定率 80.6%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率 94.1%（対卒業者決定率 78.0%）であった。

次に、芸術学部ソーシャルデザイン学科における業種別就職決定状況を見てみる。

令和5（2023）年度実績では、「卸売業、小売業」が 31.3%と最も多く、次いで「学術研究、専門・技術サービス業」の 25.0%、「情報通信業」の 12.5%と合わせると、この3つの業種で 68.8%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

また、収容定員が増員となるソーシャルデザイン学科では、視覚的なデザインはもちろん、地域文化への理解やビジネスマネジメントのスキルを学んだうえで、環境、社会、生活、地域再生、文化継承などの様々な課題を解決するための広い意味の「デザイン」を修得し、持続可能でかつ文化的に豊かな社会の実現に貢献するデザイナーを育成することも目的の一つである。

今後、「情報」を生成・発信、循環させるという観点から、デザインの持つ情報発信力をもとにICT技術や企画力を用いて地域活性化に貢献する「情報デザイン」に対して、これまで以上に社会的ニーズが高まることが期待される。

[資料8-5]

なお、本学は、開学からこれまでの65年間に渡り、社会のニーズに応えながら13万人を超える多様な人材（卒業者）を輩出した実績と、9学部を擁する総合大学として多種・多様な企業からの求人があり、これまでの就職実績等を踏まえると、卒業生の就職先は十分に確保できると考えている。

（4）収容定員を変更する組織の定員設定の理由

今回、収容定員を変更する芸術学部は、平成28（2016）年にそれまでの芸術学部（入学定員340人）「美術学科（入学定員80人）」、「デザイン学科（入学定員180人）」、「写真映像学科（入学定員80人）」の3学科体制から、新たな芸術学部として、「芸術表現学科（入学定員65人）」、「写真・映像メディア学科（入学定員50人）」、「ビジュアルデザイン学科（入学定員75人）」、「生活環境デザイン学科（入学定員70人）」、「ソーシャルデザイン学科（入学定員40人）」の5学科体制に再編を行った。また、各学科の中に多様な学びの環境を整えるために専攻を設けているのも1つの特長である。

なお、学部再編当時の入試状況等に鑑み、芸術学部全体の入学定員を 340 人から 300 人と 40 人の減員を行っている。

その結果、学部再編以降は芸術学部全体として着実に志願者数を伸ばして現在に至っているが、近年、受験生が希望する専攻に偏りが見られることから、一部の学科において入学定員の確保が厳しい状況が見受けられる。したがって、令和 7（2025）年度に向けて、あらためて受験生のニーズを踏まえた専攻及びカリキュラムの見直しを行い、併せて学科間においての定員設定の見直しを行った。このことにより、芸術学部全体の入学定員及び収容定員の適正化が図られ、受験生のニーズに合った構成とすることで、これまで以上に質の高い受験生の確保に努めることができると考えている。

なお、収容定員を変更する学科ごとの具体的な定員設定については、以下のとおりである。

芸術学部の再編以降、学部全体としては、着実に志願者数を伸ばすことができているが、学科ごとに見てみると、特に、「生活環境デザイン学科」においては、学部再編以降も志願者数が伸び悩み、直近では志願倍率も 3.00 倍を下回っており、芸術学部の 5 学科の中でも最も志願倍率が低い学科となっている。また、入学定員 70 人に対しても入学者が毎年 50 人から 60 人前後で推移しているため、今回、入学定員を 15 人減員し、55 人として設定した。なお、これまでの入試実績（志願者数及び入学者数の推移等）や今後の学生募集活動等に鑑み、入学定員 55 人の確保は十分可能であると考えている。

一方、「芸術表現学科」においては、入学定員 65 人に対して着実に志願者数も集めており、志願倍率も近年 4.00 倍以上で推移している。また、入学者数も定員を上回り充足できていることから、今回、学科の入学定員を 5 人増員し 70 人と設定しても、これまでの入試実績等に鑑みれば、定員充足は十分可能であると考えている。

次に、「写真・映像メディア学科」においても、入学定員 50 人に対して着実に志願者数を集めており、志願倍率も近年 5.00 倍から 6.00 倍程度で推移している。なお、定員数の違いはあるが、芸術学部の学科の中では、最も志願倍率が高い学科である。また、入学者数も確実に定員を上回り充足できていることから、今回、学科の入学定員を 5 人増員し 55 人と設定しても、これまでの入試実績等に鑑みれば、定員充足は十分可能であると考えている。

最後に、「ソーシャルデザイン学科」においても、入学定員 40 人に対して着実に志願者数を集めており、志願倍率も近年 3.00 倍から 4.00 倍程度で推移している。また、入学者数も確実に定員を上回り充足できていることから、今回、学科の入学定員を 5 人増員し 45 人と設定しても、これまでの入試実績等に鑑みれば、定員充足は十分可能であると考えている。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	キタジマ ミヨシ 北 島 己 佐 吉 ＜令和3年4月1日＞		芸術工学士		九州産業大学 学長 (令和3.4～令和9.3)